祝詞作文自在

全

249
62

祝詞作文自在

全

國治
45. 4. 8
內交

凡例

神事を行ひ、祭典を奉仕する者、その事に付きての祝詞は、皆自から此れを作らざる可らず。此れを作るには、須らく先づ、此れに用ゐる句を知らざる可らず。之れ今回、此の書を撰みし所以なり

此の書は、祝詞の題一百を設け、一題毎に其の文を作る句、數十を集めたれば、該題の祝詞文を作るに當り、各自彼の集句の中に就きて、則ち我が意に適ひたる句を撰び採りて、自由に其の文を綴る者と知るべし。

作文に臨みては、先づ其の例文を見る事、各自文を敷き句を構ふるに、最も便益を得る事なれば、彼の題毎の集句の末に、一篇の作例文を附けたり。作者此れに依りて、其の大體を了知して、以つて作文の資と爲すべし。

集句中、發端に用ゐる可き冒頭の句と、神饌・幣帛、その他の備物に關する獻供の句と、文尾を結ぶ終結の句とは、別に部門を立てて、記したれば、作文に際し、此れ又其の中に就きて、各自の意に適ひたる句を、思ふ儘に撰び取る可し。然して、冒頭・獻供・終結等の各部門に記したる句の如きは、勉めて簡易に隨ひて、其の一端を示すに止まれば、必ず此れにのみ依るを要せず。作者それ此の意を諒せよ。

獻供の事は、文の中程に於て云ふを正格とすれど、文章の次第に依りては、始めにも述べ、又終りにも云ひ、或は全然之れ無きも有りて、其の例一ならず。故に書中、祈年穀・祈避雷・祈除蝗等、その他の例文に於て、多く其の體を示せり。作者また此れを了知すべし。

集句中、句下に△印を附たるは、總て獻供の句を挿入聯屬し得る處なるを示せるなり。又集句中、彼の印なきもの有り。而して作者に於て、或は獻供の句を挿入したる文を作らむと欲る事ある時は、卽ち

其の文の冒頭なる御前爾の下に此れを挿入して、始述の體と爲るも、或は幸給止の下に聯屬して、終言の體に爲るも、其の活用は各自の自由たるべし。

祝詞の長文大作を要する時に遭逢し、此の書の集句のみにて辨じ難き場合には、作者は須らく、他の古文・古人の作、其の他の文に附きて、廣く句を捜り例を求めて作る事と知るべし。尙此の書に無き題の祝詞を作らむと爲る時も、また然りとす。

集句中の各句尾の假字は、作文の次第に依りて、作者之れを自由に改めて用ゐる事ある可し。例せば、天皇乃大御代波の波を乎に改め又天皇乃大御稜威波の波を乃に改めて、上下の連屬に不都合なく綴るが如きなり。加之ならず、文章の勢に依りては、我彼爰今專最如此是故など、其の他の語を句の上に加へて、綴る事もあるべし。此れ等は皆、作者各自の腦裏に動く、作文志想の活に出づる者なれば、須

らく思を凝すべし。

此の書の作例文には、何の神・何の事、或は何の道・何の業を守り給ふ神の御前に云々などいひて、總て其の神名を表稱せざれど、其は唯、極て簡易に、其の作例の一端を示すに出し者にて、別に意味あるに非れば、作者に於て、其の事の主宰の神名を表稱して、作文せむと欲する者は、各自の隨意たるべし。

祝詞に用ゐる句尾の送假字に就きては、世に正格なる論義も有れど、今此の書に用ゐる處は、只延喜式の文を始め、其の他の古文、又古人の用ゐ來たれるものに隨たるのみにて、他意あるに非ず。要は專ら初學の者の、祝詞作文の習用に供するを旨として、敢て成業の諸彦を益せむとする撰述に非ざればなり。觀者幸に此れを諒せよ。

明治四十五年四月

編者識

祝詞作文自在

目次

○歳旦祭……一
○元始祭……三
○祈年祭……六
○紀元節……八
○神武天皇遙拜……一一
○例祭……一四
○月祭……一七
○春秋皇靈祭……二〇
○神嘗祭……二三
○天長節……二五
○新嘗祭……二八
○除夜祭……三〇
○祈年穀……三三
○祈雨祭……三五
○祈晴祭……三八
○鎮火祭……四一
○竈神祭……四四
○井神祭……四六
○祈避震……四九
○祈避雷……五二
○祈除蝗……五五
○神社昇格……五八
○神社合祀……六一
○學神祭……六四
○遷宮式……六七

○地鎭祭……六九　○初宮詣……一〇七
○鋤始祭……七二　○立願奉賽……一一〇
○立柱祭……七四　○祈養蠶……一一三
○上棟祭……七七　○釀酒祈願……一一五
○官衙開廳式……七九　○祈海獵……一一八
○新宅祭……八二　○祈獵……一二一
○講演開始……八五　○海上安全……一二三
○戰勝祈願……八八　○旅行安全……一二六
○陸戰奉祝……九一　○病氣平癒……一二九
○海戰奉祝……九四　○惡疫消滅……一三一
○通常參詣……九七　○會議開始……一三四
○成年式……一〇〇　○學校開始……一三八
○新婚式……一〇二　○赤十字社大會……一四一
○祈平產……一〇五　○武德會大會……一四四

○愛國婦人會大會……一四六　○郵便局開始……一九〇
○在鄉軍人會大會……一五〇　○商船會社支店開始……一九三
○青年會開始……一五三　○運送會社支店開始……一九六
○圖書館開始……一五六　○公園開始……一九九
○記念碑建立……一五九　○新聞發行……二〇二
○銅像除幕……一六三　○海外遊學安全……二〇五
○運動會開始……一六六　○祈著述成功……二〇八
○水泳會開始……一六九　○醫大師開業……二一一
○短艇競爭開始……一七二　○商家開店……二一四
○道路開通……一七五　○實業開始……二一七
○架橋式……一七八　○新地開墾……二二〇
○鐵道開通……一八一　○博覽會開始……二二三
○水道竣功……一八四　○物品陳列所開始……二二六
○造船竣功……一八七　○共進會開始……二二九

○競馬會開始……二三二　○改葬式……二七六
○相撲會開始……二三五　○移靈式……二八〇
○銀行開始……二三八　○誄詞……二八二
○織物會社開始……二四一　○葬祭……二八五
○陶磁會社開始……二四四　○靈祭……二八九
○漆器會社開始……二四八　○冒頭詞……二九二
○製絲會社開始……二五一　○獻供詞……二九五
○染色會社開始……二五四　○終結詞……二九八
○冶金會社開始……二五七
○建築會社開始……二六〇
○演劇開始……二六四
○戰死者葬祭……二六七
○軍人靈祭……二七一
○祖先祭……二七四

目次終

祝詞作文自在

青木陳實著

歳旦祭

此は、毎年一月の元旦に當りて、其の新年の佳節を奉祝し、併せて大御代の隆盛を祈りて奉祭する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此新年乃初日乎（此の新年の元日を）尊奉里悦奉氐（尊びよろこび申して）
○毎家爾例不違（家々に例なたがへずに）
○家内清淨爾（家中を清くして）
○松乎立竹刺添（松を立てたり竹をさし添へたり）
○御注連挂渡志（しめなはを掛けわたし）
○大御代乃圓奈留乎壽支（み世のまろく治るを祝ひ）
○此立還留年乃初日乎（此の立かへる年の元日を）
○辱美尊奉氐（かたじけなく尊び申して）
○毎人爾門飾爲氐（だれも皆門に飾をして）
○松竹刺立（松や竹をさし立て）
○御注連繩引延（しめなはを引き渡し）
○奉備鏡乃餅比爾（おそなへの鏡の餅に）
○無曇御代乃光乎（くもり無き世の光を）

◎重多留鏡乃餅爾壽支（かされたる鏡の餅によせていはひ）
◎齡乃若延年事乎稱奉氐（年の若やぐことをたゝへ）
○汲上留若水爾稱奉氐（汲む若水によせたゝへ）
◎互爾御酒盛交乍（たがひに酒をくみ交しつゝ）
◎御祭奉仕留狀乎（祭典を奉仕することを）
○天下四方乃國爾波（天下四方の國には）
○安久穩爾（安泰に平穩に）
○日爾異爾繁久（日に〳〵繁げく）
○昇日乃影與里毛灼久（昇る日のかげより いちじるく）
○飾乃松乃常磐爾堅磐爾（飾に立てし松の如くいつまでも堅き岩の如く）
○綠乃松乃色乃常磐爾（みどりの松の色のときはの如く）
○刺添志竹乃八千代不變（さし添し竹の八千代かはらぬが如く）
○無例御代爾立榮可久（此れまでに例なきみ代に立ち榮ゆるやう）
○汲上留若水爾（汲む若水に）
○齡乃若延行年事乎（年の若やぐことを）
◎相共爾禮辭乎述（同樣に賀詞をのべ）
◎普久奉言壽乎以氐（一般にいはひ奉るなもて）
◎平介久安介久聞食氐（平らかに安らかに聞とらして）
○浪風乃立乃喧有事無久（浪風の如き世にさわがしきもなく）
○公民乃榮波（人民の繁榮は）
○人草乃榮波（青人草として人民の榮は）
○天皇乃大御代波（天皇陛下の大み代は）
○我大君乃大御代波（我が天皇の大みよは）
○皇御國乃大御稜威波（我が國の大きなる威光は）
○彌高爾彌遠爾輝支坐氐（いよ〳〵高く遠くかゞやきて）
○守惠美幸給止（守り惠み幸へませと）

作例

何々神社乃御前爾白左久。此新支年乃初日乎。尊奉里悅奉氐。毎家爾例不違。門飾里美麗久家內清淨爾。松竹刺立御注連繩引延。奉備鏡乃餅比爾大御代乃圓奈留乎壽支。汲上留若水爾齡乃若延年事乎奉稱氐。相共爾禮辭乎述。互爾御酒盛交乍。普久奉言壽乎以氐。如此御酒御饌乎奠氐御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。天下四方乃國爾波。浪風乃立乃喧有事無久安久穩爾。公民乃榮波日爾異爾繁久。天皇乃大御代波飾乃松乃常磐爾堅磐爾。皇御國乃大御稜威波刺添志竹乃八千代不變。彌高爾彌遠爾輝支坐氐。無例御代爾立榮可久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須

元始祭

此は、毎年一月三日、我が帝國の皇位、卽ち天日嗣の本を尊びて、其の元始に坐

ます、天神を奉祭有らせらるゝ事なり、依りて其の意を述ぶべし。

○高天原爾事始氐天上に事始めてせられてより
○高天原爾神留坐須天上に留りて坐す神の
○中今乃代爾至迄御祭え盛中なる今の御代にまで
○不誤不違少しも誤らず又違もせず
○皇祖乃授給志事乃任爾皇祖の授られたとほりに
○定加爾茂榮爾承傳坐須慥に立派にうけ傳へます
○天日嗣乃大本乎天上より受來れる帝位の本を
○今日乃生日乃足日乎以氐此の生きはたらく日足らはしき日を以て
○皇室爾重久祭良世給賀故爾皇室にて重く祭り玉ふ故に
○敷給志御掟爾從氐世に制規として敷き置るゝ掟に從て
○平介久安介久聞食氐平かに安らかに聞とらして
○茂志御代乃足志御代止甚ださかんな足らはしき御代と
○遠皇祖乃歷世遠き世よりの天皇の御先祖方代々
○神漏伎神漏美乃命以氐皇室の先祖の男女の神等の命せにて
○歷世天皇與里今代至麻氐代々の天子樣方より今の御代まで
○天神乃授給志事乃隨爾天神の授けましたとほりに
○惟神承傳坐須神のせられし通りたうけ傳へます
○皇御孫命乃今の天皇陛下の
○畏美辱氐おそれ多く辱なく思ほして
○朝廷爾奉齋世給賀故爾朝廷にて祭らせ玉ふ故に
○御掟乃式爾從爾國の法と定めおかるゝ儀式に從て
○此御祭乎奉仕留狀乎此の祭典を行ふことを
○天皇乃大御代波天皇陛下の御代は
○常磐爾堅磐爾常に變らぬ又は堅き岩の如く

○其御惠乃浪波その御恩惠の涙は
○四海爾涯無久滿氐四方の海に滿て
○其御德乃光波その御聖德の光は
○馬蹄乃至留極美馬の蹄の行き至り止るきはみまで
○國乃八十國島乃八十島多くの國多くの島
○仰支尊美悉爾靡奉里仰ぎ尊びて悉く從ひ奉り
○寶祚乃御隆無窮我が皇位の隆なることは天地と窮なく
○千代萬代爾立榮可久千秋萬歲に立榮え行くべく
○其御恩乃浪波その御恩惠の涙は
○船艫乃至留流限里船の艫の至り留る限の處まで
○六合內爾隈無久照氐天地間にくま無く照り亘りて
○彌遠爾彌廣爾輝坐氐いよ〳〵遠く廣くかゞやき坐て
○洩留事無久落留方無久洩れたり落ちたりするところ無く
○參來奉氐我が國に參り來て
○帝國乃繁榮彌高爾我が國の繁榮はいよ〳〵高く
○守惠美幸給止守り惠み幸へませと

作例

何々神社乃御前爾白左久。高天原爾事始氐。遠皇祖乃歷世。中今乃代爾至迄。不誤不違。天神乃授給志事乃隨爾。惟神承傳坐須。皇御麻命乃天日嗣乃大本乎畏美辱氐。朝廷閉爾奉齋世給賀故爾。御掟乃式爾從氐。御酒

御饌乎奠氐。此御祭奉仕留狀乎。平介久安介久。聞食氐。天皇乃大御代波。茂志御代乃足志御代止。常磐爾堅磐爾。其御惠乃浪波。四海爾涯無久滿氐。船艫乃至留限里。其大御德乃光波。六合内爾隈無久照氐。馬蹄乃至留極美。彌遠爾彌廣爾輝坐氐。國乃八十國島乃八十島。洩留事無久落留方無久。仰支尊美悉爾靡奉里參來奉氐。寶祚乃御隆無窮久。帝國乃繁榮彌高爾千代萬代爾立榮可久。守惠幸給止。恐美恐美毛白須。

祈年祭

此は、毎年二月、其の年の禾穀に、凶荒の憂ひなく、天下を擧て、皆豐穣の惠を蒙らむ事を祈りて、奉祭する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○今年二月爾ことし二月に
○御年初將賜止爲氐耕作のことを始め給んとして
○御掟乃任爾國法に定られしことのとほりに
○此二月乃四日爾此の二月四日に
○事始給牟止爲氐農業の事を始めたまはんとして
○國内悉洩留無方久全國皆もれ落つる農なく
○天下國々所々天下諸國何れの處も
○奉齋里奉言壽賀故爾御祭り申し言ほぎ申すがゆゑに
○今日乃生日乃足日乎以氐此の生き活らく日足らはしき日を以て
○甕腹滿並氐甕をいくつも並べみて
○種々乃物爾幣帛備氐澤山の物と絹又布などの織物とを備て
○平乎介安介久聞食氐平らかに安らかに聞とらして
○青人草諸乃多數の國民
○御田鋤返志田面をすき返し
○勤美務氐たゆみなく務めて
○向股爾泥搔寄氐兩股には泥土をかきよせて
○惡風荒水爾逢世不賜惡風洪水などに逢はせ玉はず
○秋乃稔麗久秋の收獲の充分に
○成志幸給止なしあたへ玉へと
○天社國社乎天つ神の社國つ神の社を
○祈年乃祭奉仕賀故爾祈年の祭を行ふがゆゑに
○御酒波甕上高知里酒は甕の高くいちじるく
○和稻荒稻海川山野乃白げたる米粒ながら海川山野の米又
○此祈年乃祭奉仕留狀乎此の通り祈年の祭を行ふ狀を
○公民諸乃多數の民衆
○湯種蒔小田打返志祝ひ清めたる稻種を蒔き田の土を掘かへし
○川水堰上氐流川の水をせきとめ上て
○手肱爾水沫搔垂里手の肱には土をかきて水の沫をたらし
○取作牟奥津御年乎作りとらむとする米穀を
○植渡須水田乃限落方無人民が植わたす田の限りおちなく
○八束穗乃嚴穗爾幾つかみもある長き稻穗の充分にみのりたる稻穗に

作例

何々神社乃御前爾白左久。今年二月爾。御年初將賜止爲氐。天下乃國々所々乃天社國社乎。奉齋里奉言壽賀故爾。今日乃生日乃足日氐以氐。御酒波甕上高知里甕腹滿並氐。和稻荒稻。海川山野乃種々乃物爾。幣帛備氐。此祈年乃御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。公民諸乃。湯種蒔支小田打返志。川水堰上氐。手肱爾水沫搔垂。向股爾泥搔寄氐。取作牟奥津御年乎。惡風荒水爾爲逢不賜。植渡須水田乃限落方無久。秋乃稔麗久。八束穗乃嚴穗爾成志幸給止。恐美恐美毛白須。

紀元節

此は、毎年二月十一日、神武天皇の天神より繼承し給ふ處の、皇業を恢弘せられ、我が帝國の基を開れし日なれば、天下皆此れを奉祝して、寶祈の萬歳を奉祈するなり。依りて其の意を述ぶべし。

⑨古神倭天皇乃（昔し神武天皇の）

①皇祖等乃宮居坐多留（天皇の御先祖等の宮城を建て居ましたる）

○日向乃高千穗與里（日向國の高ちほより）

○四方國乃眞中爾氐（四方の國の中央にて）

○日高見乃國止名爾立留（日がたかく見ゆる國と名に立ちたる）

○大和國爾宮敷坐（大和國に宮處定めますと）

○敷坐留都弘良爾（取り設けたる都城廣びろに）

○畝火橿原宮爾（大和國の畝火山のかし原の宮に）

○國乃基乎定給志日爾（此の國の基を定めましし日に）

○其廣支厚支御恩澤乎（その廣く厚き御恩澤を）

○尊奉里辱美奉氐（尊く有がたく思ひ奉りて）

○此御祭奉仕留狀乎（此の祭典を行ひ奉ることを）

○天皇乃大御代波（天皇陛下の御代は）

①古磐余彦天皇（神武帝）

①遠祖乃宮敷坐多留（御先祖の宮處を立て居ましたる）

○青垣山四周禮留（青き山が垣の如く四方に周れる）

○邦乃墺區奈留（邦土のまん中なる）

○大和國爾遷出坐氐（大和國に御うつりなされて）

○荒振留者乎言向和志（荒ぶる者どもを平定し）

○高知良須御門新爾（造り立し宮城の高く新しきに）

○天日嗣所知食氐（天より受け來る帝位をふみて）

○當氐坐波（相當してあるにより）

○其奇久高支大御稜威乎（その奇しく高き御威光を）

○仰奉里尊奉氐（仰き尊みまつりて）

○平介久安介久聞食氐（平らかに安らかに聞きとらして）

○常磐爾堅磐爾（常に變らぬ岩又堅き岩の如く）

○寶祚動支無久（天皇の御位の動くことなく）
○谷蟆乃狹度極美（谷に住むかはづの行き渡るはて）
○國止云布國（國といふ國のかぎり）
○此天下爾輝亘留（この天下にかゝやき亘る）
○大御稜威乎（大きなる御威光）
○彌遠爾仰奉里尊奉氐（遠く久しく仰き尊み奉りて）
○歸伏奉里仕奉留可久（從ひ仕へ奉る可く）
○聞食立（聞とりませ）

作例

何々神社乃御前爾白左久。古神倭天皇乃。皇祖等乃宮居坐多留。日向乃高千穗宮與里。青垣山四周禮留邦乃墺區奈留。大和國爾遷出坐氐。荒振留者乎言向介和志。敷坐留都弘良爾。畝火橿原宮爾天日嗣所知食氐。國乃基乎定給志日爾當氐坐波。其廣支厚支御恩澤乎尊奉里辱奉氐。御酒御饌。種々乃物乎奠氐。此御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。天皇乃大御代波常磐爾堅磐爾。寶祚動支無久。公民諸立榮氐。谷蟆乃狹度極美。鹽沫乃留限里。國止云布國。人止有留人悉爾。此天下爾輝亘留大御稜威乎。彌遠爾仰奉里尊奉氐。歸伏奉里奉仕留可久奉乞祈留事乃由乎聞食止。恐美恐美毛白須。

○公民諸立榮氐（多數の人民立ちさかえて）
○鹽沫乃留限里（潮の沫の流れ行て留るはて）
○人止有留人悉爾（人とある人の悉くに）
○顯世爾蒙禮留（此の世の中にて蒙りてある）
○大御恩乎（おほきなる御恩賜）
○彌遠爾辱奉里畏奉氐（遠く久しく有がたく恐おほく思ひ奉て）
○奉乞祈留事由乎（請ひ祈り奉ること の由を）

神武天皇遙拜

此は、毎年四月三日、神武天皇の崩御坐しゝ日なるを以つて、天下皆天皇の偉業聖德を仰ぎ尊みて、遙に山陵を拜して奉祭する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○古神倭磐余彦天皇（波は昔し神武天皇）
○天坐神乃大命乎以氐（天上に坐す神の詔を以て）
○天降志皇祖乃皇業繼承（天降りましゝ皇祖の業を受けつ）
○天神乃命以氐天降坐志（天神の命令を受けて天降りあそばしゝ）
○皇御孫命乃皇業繼承（瓊々杵尊以來の天皇の御業を承けつぎ）
○西偏乃日向高千穗宮與里（西のはての日向國の高千ほの宮處より）

○日向高千穂乃大宮興里日向の國高千穂の大宮より
○青垣山四周留大和國爾青垣山の四方に周る大和國に
○宮處乎定米遷出坐氐宮ところを定め遷り出まして
○毎爾相凌支共爾爭氐常に凌きあひ互に爭ひて
○荒毘猛志賊乎討米暴威を振ふ逆賊を討伐し
○皇威爾不順者乎平介皇威に順はぬ者を平げ
○如蒼蠅世乃喧言止氐五月の蠅の如き世中のさわぎを止させて
○顯世廣良爾鎭給比此の世の中を廣やかに平げ鎭め給ひ
○天傳布日嗣乃御業明爾天上より傳はる天皇の御位を明に
○天勅乃大御旨爾基氐天神の天勅の主旨にもとづきて
○此帝國乎建給志乎以氐此の我が國を建て給しを以つて
○大御惠乃大奈留乎辱奉氐大きなる御惠を辱なく思ひ奉りて
○聖恩乃大留乎仰支尊氐聖恩の廣大なるを仰き尊みて

一二

○國乃中央奈留大和國爾我が國の中央なる大和國に
○遷都氐宮處定米都を遷し宮處を定め
○私爾轢比互爾凌氐私にきしり合ひ互に凌き合ひして
○王澤爾不霑留賊乎征米天皇の德化に從はぬ逆賊どもを征討し
○射向志者乎平介手向をなし奉りし者を平らげ
○國中乃喧騷言止氐國中の騷ぎを止めさせて
○天下乎鎭給比天下を平定し玉ひ
○遠久天神與里承傳坐須遠く天神より受け傳へます
○大命乃旨爾基氐天神の大命の主旨にもとづきて
○此皇國乎開給志乎以氐この我が國を開き給ひしを以つて
○其聖德乃奇支止その御聖德のくすしきことい
○鴻德乃果無久極無久御聖德のはても無く限りもなく
○毎年爾此神昇坐志日乃毎年この崩御ましし日の

○今日乃祭乎仰奉里けふの祭典を仰き奉り
○神昇坐志其日止奉畏氐崩御あそばされし日であると畏れ奉りて
○天下人皆御陵乃方爾向國中の人々皆御陵の方に向いて
○基定志日嗣御業動事無皇基を定められしことの動くことなく
○常磐爾堅磐爾常に變らぬ岩又堅き岩の如く
○百官人公民諸爾至麻氐百官の人々より天下の人民まで
○檀原乃御世乃惠浪波神武天皇の深き惠の浪は
○馭始國志太祖乃御光波始國を治めまして神武帝の御威光は
○天皇乃大御代乎天皇陛下の御代
○守惠美幸給止守り惠み幸へ給へと

○年毎爾今日乃御祭乎年々今日の祭典を
○天下擧氐御陵乃方爾向國中のもの皆山陵の方に向ひて
○高遙爾奉拜狀乎聞食氐謹て遙拜を行ふことを聞取りまして
○天皇乃大御代波天皇陛下の御代
○阿禮坐世留皇子皇族生れ坐したる皇子方皇族方
○茂榮爾立榮乍立派に立ち榮えつ
○無盡事四海爾溢禮湛閉つくること無く國内にあふれ湛へ
○顯業乃限里無久輝坐氐此の世の限りかゞやき坐して
○彌遠長爾いよ〳〵遠く長く

作例

掛巻毛畏支。畝火乃山乃御陵乎奉遙拜氐白左久。古神倭磐余彦天皇波。

天神乃命以氐天降坐志皇御孫命乃皇業繼承。西偏乃日向高千穗宮與里國乃中央奈留大和國爾遷都氐宮處定米。私爾轢比互爾凌氐。王澤爾不霑留賊乎征米。射向志者乎平介。國內乃喧擾言止氐。天下乎鎭給比。遠久天神與里承傳坐須大命乃旨爾基氐。此皇國乎開給志乎以氐。其聖德乃奇支止。大御惠乃大祭留乎辱奉氐。毎年爾此神昇坐志日乃今日乃祭乎奉仰里。天下擧氐御陵乃方爾向。高遙爾奉拜狀乎聞食氐。基定志日嗣乃御業動事無久。天皇乃大御代波常磐爾堅磐爾。阿禮坐世留皇子。皇族百官人。公民諸爾至麻氐茂榮爾立榮乍。橿原乃御世乃惠浪波無盡事。四海爾溢禮泚閉。馭始國志太祖乃御光波。顯世爾限里無久輝坐氐。天皇乃大御代乎。彌遠長爾守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

例祭

此は、各神社に於て、年中の諸祭中、最も重き大祭なれば、其の筋よりは神饌幣帛を供進せられ、其の產子は精力の限りを盡して奉祭する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○毎年爾事不誤行比來志（毎年に舊例なたがへず行ひ來たりし）
○古志世乃定止行比來志（古き時分より定例として行ひ來し）
○平介久安介久聞食氐（平らかに安らかに聞とらして）
○軒乃神燈掛連（軒灯燈を掛けつられ）
○注連挂渡志旗立添閉（しめ縄を掛亘し旗を立てそへ）
○家毎爾取飾氐（家々みな幕を掛け屏風など立て）
○安良介支世乃惠乃餘（平安なるみ世の恩惠のあまり）
○或波競馬爾手躍爾（競馬又は手躍などいろ〳〵に）
○獅子頭捧持知（獅子頭を持ち出し）
○細女乃囃明亮爾（藝技などの囃子はきとして）
○細女乃揃乃姿妍爾（藝技などの揃ひ姿の品よく美しきに）
○例祭奉仕止爲氐（恒例の大祭を奉仕するとして）
○毎年乃例祭奉仕止爲氐（年々の例祭を仕へ奉るとして）
○此產子乃限洩事無久（此の產子の町村中洩ることなく）
○旭乃御旗立添閉（國旗を立添へて）
○道打淨米（通路に白砂などを敷き清めて）
○敬乎盡須眞心乃餘（敬意をつくす所より）
○或波相撲爾演劇爾（相撲又は芝居などを催し）
○里神樂奏山梓引出（里神樂を行ひ山梓などを引き出し）
○皷打知笛吹支鳴志（太皷または笛の鳴ものを鳴らし）
○壯男等乃勇浮立氐（若者の勇みよろこびて）
○勇男等乃聲勇志久（勇み立ちし男子らの聲いさましく）

○十町廿町爾連氐十町にも廿町にも連なりて
○大御旗捧持知御旗を捧げもちたり
○楯桙捧持知楯や桙を持つもあり
○神職乎始米其の社の神職を始め
○神輿乃前後供奉氐みこしの前後に供へ奉りて
○平介久安介久聞食氐平らかに安らかにきゝとらして
○各自賀家爾毛身爾毛おの〳〵が家にも身にも
○子孫乃榮毛久爾子孫の榮も永久に
○天皇乃大御代乎天皇陛下の御代を
○常磐爾堅磐爾常に變らぬ岩又は堅き岩の如く

作例

何々神社乃御前爾白左久。毎年爾事不誤行比來志例祭奉仕止爲氐。御酒御饌海川山野乃種々乃物爾。幣帛備氐奉乞祈留狀乎。平介久安介久聞食氐。産子乃限洩留事無久。軒燈掛連爾。旭乃御旗立添閉。道打淨米。家毎爾取飾氐敬乎盡須眞心乃餘。或波相撲爾。演劇爾。里神樂奏。山桙引出。皷打知笛吹支鳴志。細女乃囃明亮爾。壯男等乃勇浮立氐。十町廿町爾連神幸久列正久。大御旗捧持知。御榊舁立。神職乎始米産子者諸。神輿乃前後供奉氐。此御祭乎行比奉狀乎。平介久安介久聞食氐。天下平爾郷内穩爾。各自賀家爾毛身爾毛禍神乃禍事無久。子孫乃榮毛久爾。家門繁久令立榮坐氐。天皇乃大御代乎手長乃大御代止。常磐爾堅磐爾守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

○神幸乃列正久神幸の行列も正しく
○御榊舁立大榊をかつぎたり
○弓靫取里取里爾弓又は靫と取りどりに持ち並びて
○産子者諸産子中の重立ちたるもの皆
○此乃御祭乎行比奉狀乎此の祭を執行する狀を
○天下平爾郷内穩爾國内泰平に町村平なんに
○禍神乃禍事無久惡しきかみの災害なく
○家門繁久令立榮坐氐家門繁昌なさしめまして
○手長乃大御代止足り長の御代と
○守惠美幸給止守り惠み幸へ給へと

月祭

此は、各神社に於て、毎月一度づゝ定例として、必ず奉仕する祭典なり。故に月祭といふ。依りて其の意を述ぶべし。

○日爾異爾奉仕事波日々に特更にお仕へ申すことは
○等閑事無久怠事無久放やりに怠ることなく
○御舍殿清良爾宮地麗久神殿もきよらかに社域もうるはしく
○毎爾大神乃御德乎恒づれ大神の御威德を
○毎月乃御祭奉仕留狀乎月々の祭典を行ふことを
○平介久安介久聞食氐平らかに安らかに聞とらして
○産子乃者諸波もろ〳〵の産子の者
○各自家業乎勤美勵氐各も〳〵家業を勵みつとめて
○相麻自許利互に入り交り
○清久正支國俗乎清く正しき國の風俗を
○彌遠爾守行氐いよ〳〵遠く此れを守りゆきて
○開行世爾打開氐開け行く時勢に同じくひらけて
○子孫乃繼々爾立榮可久子々孫々まで榮え行く可く
○忘事無久違事無久忘るゝことなく違ふことなく
○御垣内麗久宮地毛清良爾御殿も美麗に宮地も清潔に
○彌務爾務結氐よくつとめよくし
○仰奉乎以氐戴きまつるを以つて
○月々乃御祭奉行事乎毎月の祭を仕へまつることを
○今毛往前毛現在なも往さきなも
○家業乃事々爾勤美務氐各自生業を皆よく勤めて
○異行比惡事爾あやしき所業惡しき所作に
○相口會事無久一つになりて言ひさわがぬ樣に
○不捨不亂捨てたり亂したりせずに
○進歩世爾立進美進歩する世の中に進みゆき
○各自賀家門繁久各自の家々も繁昌し
○又此乃天下波平爾又この天下は泰平にして
○五穀能稔氐五穀の實りよろしくして
○湯津磐村乃如久澤山なる磐の群の如く
○榮坐可久榮え坐す

作例

何々神社乃御前爾白左久。日爾異爾奉仕留事波。忘事無久違事無久。御垣内麗久宮處清良爾。彌務爾務結氐。毎爾大神乃御德乎仰奉乎以氐。御酒御饌乎備奉氐。毎月乃御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。今毛往前毛産子者諸波。家業乃事々爾勤美務氐。異行比惡事爾。相麻自許利相口會事無久。清久正支國俗乎不捨不亂。彌遠爾守行氐。進歩世爾立進美。開行世爾打開氐。家門繁久。子孫乃繼々爾立榮可久。又此乃天下波平爾。五穀能久稔氐。天皇乃大御代波湯津磐村乃如久。常磐爾堅磐爾可榮坐。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

○天皇乃大御代波天皇陛下の御代は
○常磐爾堅磐爾常に變らぬ岩又は堅き岩の如く
○守惠美幸給止守りめぐみ幸へ給へと

春秋皇靈祭

此は、毎年春秋二季、宮中に於て、歴代の皇靈を奉祭せらるゝを以つて、天下皆これを遙拜し、隨つて己が祖先の靈をも、其の日に追祭する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○大御代乃掟止大み代のおさだめ
○國乃御式止立給比國家の法式と立て定めたまひ
○蒼生諸乎志氐諸の人民をして
○叡慮乃厚爾令矜式坐牟止天皇の御心の厚き處に神習はしめんと
○大御手振爾令依坐牟止大みて振によらしめまさんと
○古乃例乃隨爾したがひ
○列皇后妃皇族乃皇靈天皇皇后皇族方の諸の皇靈を
○遠久厚久祭良世給氐遠くあつく祭らせ給ひて
○叡慮乎盡左世給布御心をつくさせ給ふ
○天下爾宣志給比天の下に布告したまひ
○天下爾掟給比天下におきて定め給ひて
○聖意乃有處乎奉仰里天皇の御意の有る處をうけたまはりまつり
○大御心爾從比奉里大み心にしたがひ奉り
○古代乃例爾依氐昔からの例によりて
○歴代乃天皇乃皇靈乎御代々の天皇の御靈を
○厚久深久齋祭良世給氐厚くふかく祭ら せ給ひて
○大孝乎申給布處乃孝道を蹈み行ひ給ふところの
○春秋乃此二季乃式乃春秋二季兩度の式典の

○年々乃春秋乃式典爾志氐毎年の春と秋との定例の法式にして
○各自家乃祭乎行止共爾皆々家祖の霊祭をすると共に
○東京乃方乃打向氐東京の方へ向ひて
○平介久安介久聞食氐平らかに安らかに聞とらして
○天皇乃大御稜威波天皇の御威光は
○顯世爾有留國乃限里此の世にある國のこらず
○大御榮乎仰奴者無久御昌榮を仰がぬ者なく
○萬乃事毛進行氐凡ての事も進歩して
○奇久著支大御光乃くすしくいちじるしき大き御光を
○守惠美幸給止守りめぐみ幸へたまへと
○今日志毛其日爾當氐坐波本日はまあその日に當れば
○人皆乃家爾氐祭取行比人々家々にて霊祭をとり行ひ
○遠久遙爾奉拜留狀乎遙拜をなすこと
○天日嗣乃御隆無窮皇位の繁榮すること窮極の無く
○四方國爾輝支渡氐四方の國々に輝き渡りて
○皇御國乎慕奴國無久我が御國を慕はぬくにはなく
○公民毛富足良比人民もとみ足りて
○宇宙乃間爾秀乍天地の間にぬけいでながら
○彌遠爾可輝久いよ〳〵遠くかゞやく様

作例

宮城内爾氐爲祭給布。掛卷毛畏支。歴代乃皇靈乎。遙爾奉拜氐白左久。大

御代乃掟止天下爾宣志給比。蒼生諸乎志氐。聖意乃有留處乎奉仰里。叡慮乃厚爾令矜式坐牟止。古代乃例爾依氐。歴代乃天皇乃皇靈乎。厚久深久齋祭良世給氐。大孝乎申給布處乃。春秋乃此二季式乃。今日志毛其日爾當氐坐波。各自家乃祭乎行止共爾。東京乃方爾打向氐。遠久遙爾奉拜留狀乎。平介久安介久聞食氐。天日嗣乃御隆無窮久。天皇乃大御稜威波四方國爾輝支渡氐。顯世爾有留國乃限里。皇御國乎慕奴國無久。大御榮乎仰奴者無久。公民毛富足良比。萬事毛進行氐。宇宙乃間爾秀乍。奇久著支大御光乃。彌遠爾可耀。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

神嘗祭

此は、毎年十月十七日、大神宮に於て、其の年の新穀を以つて酒饌を調へ、此れを供じて奉仕する處の大祭にて、天下悉く此れを遙拜して仰き尊ぶ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此乃十月十七日波この十月十七日
○大御神乃宮乃皇大神の宮の
○神嘗乃御祭奈留乎以氐かんなめの御祭なるを以つて
○朝廷乃勅使參向坐氐朝廷の御使まゐり向ひて
○天皇乃大幣帛乎進出氐陛下の捧げます幣帛をたてまつりて
○御祭乎奉仕里祭典を奉仕し
○諸官衙乎始米天下擧氐諸役所を始め天下みな
○神宮乃方爾奉向里いせの神宮の方に向ひて
○遠遙爾奉拜留遠方より遙拜をする
○奉拜留式典奈留乎以氐奉拜する恒例の儀なるを以つて
○平介久安介久聞食氐平らかに安らかに聞とらして
○四方乃國波四方の國々
○吹立留塵乃亂有事無久ふき立つるちりの如き亂の有ることなり
○毎年乃此月乃今日波年々の此の月の今日は
○伊勢乃神宮爾氐伊勢の神宮にて
○神嘗乃祭爲祭給賀故爾神なめの祭を祭らせらるゝが故に
○天皇乃御使參入坐氐天皇のみつかひ參りて
○其大幣帛乎獻氐その大みてぐらを奠りて
○御祭乎行比奉里祭典をとりおこなひ奉り
○百官人乎始米人草諸百官有司を始め人民はみな
○遠遙爾神宮乃方爾向比遠く遙に神宮の方に向ひ
○御掟奈留賀故爾國家の儀式なるが故に
○茲爾其式乎奉行留狀乎こゝに其の儀式を行ふことを
○皇大神乃見舞志坐須皇大神の御覽あるる
○浪風乃立喧支有事無久浪風の立つ如きさわぎ有る事なく
○天日嗣波無窮皇位の榮えは窮りなく

○天皇乃大御代波（天皇陛下の御代は）
○阿禮坐世留皇子皇族（誕生ます皇子皇族の方々）
○司々乃人及蒼生爾至麻氐（諸役所の官員及び人民みな）
○如横山置足波須（獻備の物を山の如くに多く置き足らはす）
○普久平介久幸坐止（普く一般に平穏に幸へませと）
○千税餘里五百税爾掛氐（千五百餘の年貢即ち束稻にして御垣にかけて）
○奉稱事乃由乎（たゝへ奉ることのわけを）
○守惠美幸給止（守りめぐみ幸へ給へと）

作例

掛卷毛畏支。伊勢乃大神宮乃大前乎。奉遙拜氐白左久。此乃十月十七日波。大御神乃宮乃神嘗乃御祭奈留乎以氐。朝廷乃勅使參向坐氐。天皇乃大幣帛乎進出氐。其御祭乎奉仕里。諸官衙乎始米天下擧氐。神宮乃方爾奉向里。遠遙爾奉拜留御掟奈留賀故爾。茲其式乎奉行留狀乎。平介久安介久聞食氐。皇大神乃見舞志坐須。四方乃國波。浪風乃立乃喧支有事無久。天日嗣波無窮。天皇乃大御代波常磐爾堅磐爾。阿禮坐世留皇子。皇族。百官乃人。公民諸爾至麻氐。其厚支深支大御惠波。如横山置足波須大御贄乃心足良比爾。普久平介久幸坐止。奉掛留御垣乃懸久麻乃。千税餘里五百税爾掛氐。由紀乃御酒乃甕上高久奉稱事乃由乎。平介久安介久聞食氐。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

○常磐爾堅磐爾（常に變らぬ岩火堅き岩の如く）
○百官乃人公民諸爾至麻氐（百官の人より國民みな）
○其厚支深支大御惠波（其の厚き深き御惠は）
○大御贄乃心足良比爾（獻備物の多くして滿足なるか如く）
○奉掛留御垣乃懸久麻乃（掛奉る御垣の掛稻の）
○由紀乃御酒乃甕上高久（忌み清めたる御酒のみかめ高く）
○平介久安介久聞食氐（平らかに安らかに聞取らして）

天長節

此は、毎年十一月三日、我が天皇陛下の御降誕あらせられし良辰なれば、祭典を奉仕し、天下皆御宇の隆盛と、聖壽の萬歲を祈りて、奉祝する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此乃十一月乃三日波（此の十一月の三日は）
○畏毛現御神止（畏れ多くも現つ神とます御身にて）

○明津御神止坐氐（明つ神と世に現し居坐して）
①大八洲所知食（此の帝國を治めます）
①御降誕日爾氐坐波（御誕生の日にてませば）
①年々乃式止（年々の定式として）
○内國外國乎不言（内國また外國と言はず）
○此國人乃限波皆（我が國人なる限りは何れも）
○今日乃良日乃味日乎（本日の吉日のよき日を）
○祝支稱聞奉乎以氐（いはひほめ奉るを以つて）
○平介久安介久聞食氐（平らかに安らかに聞とらして）
○手長乃大御壽止（長き御壽命）
○常磐爾堅磐爾（常に變らぬ岩の如く又堅き岩の如く）
○彌廣爾彌遠爾御榮坐氐（いよ〳〵遠く廣く榮えまして）
○大御光乃輝牟事波（天皇の德化の輝んことは）
○御德乃聞延乃轟牟事波（御威德のきこえの響き亘る事は）
○出打祝乃砲乃音與里毛高久（うつ祝砲の音よりも高く）
○御稜威波廣久國足坐氐（皇威は廣く國土に足らはして）
○顯世久爾所知食乍（此の世を久しく治めましながら）
○無比御榮乎仰行氐（比類なき榮えを仰ぎゆきて）
○奉祝留事乃由乎聞食止（お祝ひ申すことの由を聞とりませと）

○天下所知食（天下の政事を知り行はす）
○我天皇乃（我が天皇陛下の）
○毎年乃例止（毎年の定例として）
○内外乃國乃隔無久（内國と外國のへだてなく）
○皇國人乃限波悉久（我が國人たる者のかぎりはみな）
○今日乃御祝乎（本日の祝賀を）
○奉祝里奉稱乎以氐（賀し奉り稱し奉るを以つて）
○此乃御祭奉仕留狀乎（此の祭典を行ふを）
○天皇乃大御壽波（天皇の御壽命は）
○湯都磐村乃如久（多くの磐の群の如く）
○阿禮坐世留皇子皇族毛（生れます皇子皇族等も）
○大御稜威乃耀牟事波（天皇の威光のかがやかんことは）
○奉掲留旭旗乃影與里毛明久（杆に掲げたる旭の旗の影より明く）
○高支惠乎奉謳牟聲波（高大なる恩惠を歌び奉るこゑは）
○御壽波長久天足志（御壽命は長く天上に足らはし）
○食國安良爾所知食乍（此の國を安らかに治めましながら）
○無例御代爾立榮行氐（今昔に例なき御代に立榮え行きて）
○御肇大御名乎毛可稱止（始めて皇國を大成し統治し給ふといふ大きなる御名を稱へ申すべし）

作例

何々神社乃御前爾白左久。此十一月三日波。畏毛現御神止天下所知食。我天皇乃御降日爾氐坐波。毎年乃例止。内外國乃隔無久。皇國人乃限波悉久。今日乃御祝乎奉祝里奉稱乎以氐。御酒御饌種々乃物乎奠氐。此御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。天皇乃大御壽波。手長乃大御壽止。湯津磐村乃如久。常磐爾堅磐爾。阿禮坐世留皇子皇族毛。彌廣爾彌遠爾

御榮坐氐。大御稜威乃輝牟事波。奉掲留旭旗乃影與里毛明久。御德乃聞延乃轟牟事波。打出祝砲乃音與里毛高久。御壽波長久天足志。御稜威波廣久國足坐氐。食國安良爾所知食乍。無例御代爾立榮行氐。御肇國大御名乎毛可稱止。奉祝留事乃由乎聞食止。恐美恐美毛白須。

新嘗祭

此は、毎年十一月廿三日、今年の稻穀、神祇に因りて豐穰を告げつれば、其の新穀を以つて酒饌を調へ、天神地祇を奉祭する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○雨風乃障毛無久雨風のさはりも無く
○甚毛美志久快志久稔志稻穗のいと太く良く實りし
○此嚴穗乃足穗乃稻波このいかめしき穗たり〻のひたる穗のいね
○早乃災爾毛不合逢旱の災にも逢はせず
○蝗乃禍事乎毛不令有蝗の害をも有らせず
○天下田面豐爾國中の田地の豐穰
○悉久快久實志皆太くみのり
○照日乃影乃烈爾逢氐波日光のはげしきに逢ひては
○水涸爾至牟事乎思煩比引水の涸れて無きに至らむ事を心勞し
○曇來留空打仰氐波くもり來る空を見ては
○暴風乃無良牟事乎冀志爾暴風暴雨の無らむことを願ひしに
○如此安久平爾有來氐此の通り平安にすぎ來て
○國內豐爾國中何れも豐作
○例無久稔氐先例なく實りて
○天下賑備公民毛榮氐天下にさはひ人民も富さかえて
○近世爾稀奈留稔乎得氐近年にまれなる豐稔を得て
○今波悅家々爾滿氐現在よろこび家ごとに滿ちて
○言壽鄕曲爾普支祝言さと中にゆきわたりたるは
○今波皷腹須留悅乎聞支今は腹つゝみうつ悅をきゝ
○擊壞門言壽普波土壤をうつ祝言のあまねきは
○專大神乃專ら此の大神の
○御惠爾依留者止お惠による者
○辱美尊氐恐れ多く思ひ崇め奉んじて
○今日乃生日乃足日爾此の生き活き足りとゝのひたる吉き日に
○收獲多留八束穗乃取り入れたる穗の長き
○其新穗乃足穗以氐この新しきほの足りといのふほを以つて
○由知里嚴知里持知畏乍忌み清め慎み持ちつゝ
○御酒造里飯打炊支酒に作り飯に炊きて
○新嘗祭奉仕留事乎新なへ祭を行ふことを
○盛立留御食乃彌高爾盛たてたる御食の高きが如く
○取並留平瓮乃平爾取り並べたる皿の如く平かに
○御心足比爾麗久聞食氐御心も滿足に御氣げんもよく聞とらして
○彌遠長爾遠く長く
○守惠美幸給止守りめぐみ幸へ玉へと

作例

何々神社乃御前爾。御酒御饌乎奠里幣帛備氐。御祭奉仕良久波。雨風乃障毛無久。甚毛美志久快志久稔志。此嚴穗乃足穗乃稻波。旱乃災爾毛不令逢。蝗乃禍事乎毛不令有。照日乃影乃烈爾逢氐波。水涸爾至牟事乎思煩比。曇來留空打仰氐波。暴風乃無良牟事乎冀志爾。如此安久平爾有來氐。國內豐爾無例稔氐。天下賑備公民毛榮氐。今波悅家々爾滿。言壽鄕曲爾普波。專大神乃御惠爾依留者止辱美尊氐。今日乃生日乃足日爾。快獲多留八束穗乃其新穗乃足穗以氐。由知里嚴知里持知畏乍。御酒作里飯打炊支。新嘗祭奉仕留事乎。盛立留御食乃彌高爾。取並留平瓮乃平爾。御心足比爾麗久聞食氐。彌遠長爾守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

除夜祭

此は、毎年十二月三十一日、其の年內の、總て平穩に有り經し神恩を謝して、奉祭する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○年乃內爾（一年のうちに）
○月乃內爾（月の中に）
○此月止云布月乎經（この月と云ふ月を）
○今年乃一月乃月與里始氐（本年一月の月より始めて）
○其乃一月乃明始志日與里（その一月の元旦より始めて）
○朝夕爾不絕不怠（朝に夕に絕えず怠らず）
○每朝爾殿淨不怠（日々の御殿の掃除怠らず）
○恒例志臨時乃祭乎始米（年中通ての祭事始め）
○誤事無久違事無久（誤りも違ひもなく）
○有止有留御祭毛（有りと有る祭典）
○滯事無久欠事無久（滯り欠くること）
○十二月止月波有止毛（十二ヶ月と月數は有れども）
○三十日日止日波有止毛（三十日と日數も有れども）
○日止云布日每爾（日と云ふ日ごとに）
○月止云布月乎重爾（月と云ふ月を重れ）
○日止云布日乎經乍（日と云ふ日を經ながら）
○御前爾親久勤美仕氐（神前に親しく勤め仕へて）
○每日乃御饌毛欠事無久（每日奠つるみけも欠かさず）
○執行志庶乃事乎毛（執務の庶事も）
○御前清良爾勤美仕氐（神前淨らかに勤め仕へて）
○取扱志庶乃務事毛（取扱し庶務のことも）
○麗志久奉仕來志賀上爾（滿足に奉仕し來りし上に）

○清久正久奉仕志賀上爾し上に遺漏なく奉仕せ
○無喪無事令有給志何事もなく有らしめ玉ひしは
○大神乃恩頼乎辱奉氐大神の神德を恐れ多く思ひ奉りて
○平介久安介久聞食氐平らかに安らかに聞とらして
○又來年今日爾至麻氐また來ん來年の今日に至るまて
○事麗久令奉仕給止萬事滿足に奉仕せしめ玉へと
○奉仕留狀乎聞食氐奉仕ることを聞き取らして

作例

何々神社乃御前爾白左久。年乃内爾。十二月止月波有止毛。月乃内爾。三十日日止日波有止毛。此月止云布月乎經。日止云布日毎爾。朝夕爾不絶不怠。御前爾親久勤美仕氐。恒例志臨時乃祭乎始米。執行志諸事乎毛。誤事無久。違事無久。清久正久奉仕志賀上爾。敷坐世留産子乃限里平爾。無喪無事令有給志。大神乃恩頼乎辱美奉氐。種々乃物奠氐。御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。立還留明日初日與里。又來年今日爾至麻氐安久平爾。事麗久令奉仕給止。此年乃終乃禮乃御祭奉仕留狀乎聞食氐。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

○敷坐世留産子限里平爾知るしめし治めます産子のかぎり平らかに
○産子者乃男女爾至麻氐産子の者の男女に至るまで
○御祭奉仕留狀乎祭典を奉仕することを
○立還留明日乃初日與里たちかへる明日の元日より
○安久平爾安らかに平らか
○此年乃終乃禮乃御祭この年末の御禮の祭典を
○守惠美幸給止守りめくみ幸ひ給と

祈年穀

此は、國民の耕作する禾穀に、旱魃霖雨暴風洪水の災なくして、天下普く穫々たる秋の稔りを告げむ事を祈願する事なり。依つて其の意を述ぶべし。

○先頃植果志此乃稲田毛先ごろ植をはりし田も
○此乃早苗取志千町田毛この早苗とり多くの田も
○山々乃自口山々の山の入口より
○下賜水乎下しくださる水を
○大溝清良爾打浚比大き溝を奇麗にさらへ
○今波根乎張繁里來氐いまは根のはり繁のしげりきて
○朝夕爾繁里來氐朝夕にしげり來
○狹久那多利爾眞くたりに垂り
○山川乃早瀬堰上介山川の早瀬をせきとめ水をあげ
○流寛乃其水乎流のゆたかなる水を

○甘水止受入氐（うまき水と受けいれて）
○毎日爾務不怠（毎日つとめて怠らず）
○眞晝賀中乃暑乎凌支（日中の暑をしのぎ）
○晝波終日爾莠搔取（ひるは終日田の草をとり）
○成玉汗乎搾氐（玉の如き汗をしぼりて）
○稲根乃泥搔柔氐（稲の根本の土を掻きこなして）
○伊曾波伎乍（いそしく務めなして）
○愍止看行志穴那比給氐（憐と見て輔けまして）
○蝗乃損比不令有（蝗虫の害も有ることなく）
○田毎乃稔麗久（何れの田もみな充分に實りて）
○足穂乃秋乎令得給止（足り整へる稲穂の實る秋を得させませと）
○守惠美幸給止（守りめぐみ幸へ玉へと）
○人草諸乃（多くの人民の）
○各自水引泄閉（各自にみな水を田に引きたいへて）
○涌湯奈須田面爾下立知（涌きたる湯の如き水田に下り立ち）
○夜波徹霄爾蝗驅拂比（よるは終夜稲のむしをおひ拂ひ）
○生初留莠搔除支（生はじむる田の草を取り除き）
○身毛多耶知良爾（身も直しらずになりて）
○取作留此乃勞乎（とり作る其のことの勞苦を）
○旱魃霖雨乃災無久（大旱や長雨の災なく）
○枯行事無久損事無久（田の枯れたり損れたりすることもなく）
○安久平介久（安くたひらかに）
○乞祈奉事乃由乎聞食氐（請ひいのり奉る次第を聞とり給て）

作例

何々神社乃御前爾。種々乃味物乎奠氐。御祭仕奉良久波。先頃植果志此稲田毛。今波根乎張繁里來氐。山山乃自口。狹久那多利爾下賜水乎。甘水止受入氐。人草諸々。毎日務不怠。眞晝賀中乃暑乎凌支。涌湯奈須田面爾下立知。成玉汗乎搾氐。生初留莠搔除支。稲根乃泥搔柔氐。身多那知良爾。伊曾波伎乍。取作留此乃勞乎。愍止看行志穴那比給久。旱魃霖雨乃災無久。蝗乃損比不令有。枯行事無久損事無久。田毎乃稔麗久。安介久平介久。足穂乃秋乎令得給止。乞祈奉事乃由乎聞食氐。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

祈雨祭

此は、世上幾旬と無く旱り打續きて、五穀を始め、其の他の作物、悉く凋枯する

の災に逢ひし時、速に沛雨を降して、救ひ給はむ事を、祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○植志田毛蒔志畠毛（うゑし田も蒔し畠も）
○月乎重日乎連氐（幾月幾日となく）
○直照爾照續支（一むきに日でり つゝき）
○池乃水毛盡行氐（池の水もかれ行きて）
○水田乃稻陸田乃物毛（水田のいね陸田の作物も）
○遠久長久日麻稱久（遠く長く毎日ひき つゝき）
○公民諸乃（多くの人民が）
○所爲便知良爾（爲んやうを知ら ずに）
○憂比眞迷比嘆支悲氐（うれひまどひ嘆き かなしみて）
○仰奉里請奉留狀乎（あふきれかひまつ ることを）
○愍止看行志輔比給氐（風の海と御覽にな りたすけ給して）

○此頃久爾雨不降（此のころ久しく 雨がふらずて）
○天津日乃御照志（天日のお照し）
○河乃流毛絕果（河のながれもか れはて）
○作止作物（波作物と云ふ作物 は）
○此乃旱魃爾逢比（此のひでりに 逢ふて）
○每日爾凋美朝夕爾枯禮（日々にしほみ 朝夕にかれて）
○夜止無久晝止無久（よるひるの差別 なく）
○嘆惑波比思悲氐（嘆きまどひ思ひか なしんで）
○天津水乎（天より賜はる水 を）
○皇神等乃御心爾（此の神々の御心 に）
○由々敷雨雲忽爾（おそろしき雨を持 つ雲のにはかに）
○四方乃御空爾立覆比（空の四方より立ち ふさがり）
○雷乃音毛轟爾鳴渡里（雷の音のひゞき 渡り）
○速雨頻爾降灑氐（夕立のひどく降つ て）
○心足比爾受介令足志氐（世人の心に充分す るほど雨をうけしめて）
○國土乃限里潤比亘里（國中すべてうるほ ひ行きて）
○枯損志田畠悉如舊久（枯そこなひし田や畠 の作物も元の如く）
○廣惠乎幸給止（廣大の恩惠を 幸へ給せと）
○光神鳴波多々伎（雷鳴の烈しく 鳴り）
○大空無隈久立保備古里（大そらすべて雲 の立ちはびこり）
○甘水乃良水乎（うまき水の良きみ づを）
○河爾漲里池爾溢禮（河に水のみなぎり 池に水のあふれ）
○田每無限久滿湛氐（田每にみな水の一 杯になりて）
○茂榮爾可立榮支（大に茂り榮え立つ べき）

作例

何々神社乃御前爾。御酒御饌乎奠氐。乞祈奉良久波。植志田毛蒔志畠毛。此頃久爾雨不降。月乎重爾日乎連氐。天津日乃御照志直照爾照續支。河乃流毛絕果。池乃水毛盡行氐。作止作物波。朝爾凋美夕爾枯禮。公民諸乃。夜止無久晝止無久。所爲便知良爾。嘆惑波比思悲氐。天津水乎仰奉里請

奉留狀乎。皇神乃御心爾。愍止看行志輔比給氐。由々敷雨雲忽爾。四方乃御空爾立覆比。光神鳴波多々伎。速雨頻爾降灑氐。甘水乃良水乎。心足比爾受介令足坐氐。河爾漲里池爾溢禮。國土乃限里潤比亘里。田毎無隈久滿滝氐。枯損志田畠悉如舊久。茂榮爾可立榮支廣惠乎幸給止。恐美恐美毛白須。

祈晴祭

此は、世に霖雨する事甚しく、數旬に亘りて尚歇ず、爲に五穀を始め、其の他の作物一切を傷害するに際し、速に其の雨の晴む事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○雨雲乃晴間無久あまくものはるゝとさなく
○降續久霖雨波ふりつゝきたる長あめは
○小歇無久降續長雨波少のやみま無く降りつゝきたる長雨は
○愈々烈久たん〳〵ひど
○月乎越日乎重氐月たへ日たへ
○更爾小歇無久一向にやみまなく

○其水波河爾漲里池爾溢禮その雨水は河にも池にも一杯になりあふれ
○作止作物波作物のかざり
○朝爾夕爾あしたにゆふべ
○河止無久池止無久溢漲河となく池となく一杯にたゝへ
○生物波雨腐禮爾腐禮乍田畠の作物雨水にくされにくされながら
○見渡限里打傷留乎以氐見らるいかぎりみないたみ損ぜしたもつて
○蒼生乃悲乎人民の悲嘆
○公民乃悲乎國民の悲嘆
○愧止看行志輔比給氐氣の毒と見てたすけまして
○神等乃灼支神德乎現志神々の灼るき神德をあらはし
○音響颯爾風吹起志ひゞきの音のはつきりと風をふき起し
○科戸乃風乃伊吹乃進爾しな戸の風の如く吹きすさびて
○照日乃光麗久令受坐氐のかげを受しめまして
○其水波河爾漲里池爾溢禮その雨水は河にも池にも一杯になりあふれ
○堤乎破里鄕曲爾滝氐堤防をやぶり村中に水入りみち
○田止無久畑止無久田と云はす畑と云はす
○白浪乃底爾打浸左留立つ白浪の下につかりて
○田畑不別生物波田も畑も見わけなく
○悉久傷留賀故爾ことゝく傷留賀故爾みないたみたるが故に
○此乃顯世乃災比此の世上の災害
○此天下乃災比この天下の災害
○皇神乃御心爾皇神のおこゝろに
○奇支神乃稜威乎以氐あやしき神明の御威光を以つて
○時日乎移左須忽爾時日をすくさず今すぐに
○立覆多留村雲乎大空に立ちおほひたる村雲を
○大空無隈久吹拂比大空のこらず吹きはらひ
○災乎蒙志萬物波災害を蒙しよろづの物は

○速爾如元久はやく元の通り
○天下青人草乃天下の人民の
○守惠美幸給止守りめぐみ幸へ玉へと

作例

何々神社乃御前爾。捧物奠氐。乞祈奉良久波。雨雲乃晴間無久。降續久霖雨波。月乎越日乎重氐小歇無久。其水波河爾漲里池爾溢禮。堤乎破里郷曲爾澁氐。作止作物波。田止無久畑止無久朝爾夕爾。白浪乃底爾打浸左禮氐。雨腐禮爾腐禮乍。悉久傷留賀故爾。此顯世乃災比蒼生乃悲乎。皇神乃御心爾憫止看行志輔比給氐。奇支神乃御稜威乎以氐。時日乎不移忽爾。音響颯爾風吹起志。立覆多留村雲乎。科戸乃風乃伊吹乃進爾。大空無隈久吹拂比。照日乃光麗久令受坐氐。災乎蒙志萬物波。速爾如元久茂榮爾令榮給氐。天下乃人草乃。彌遠長爾立榮可久。守惠美幸給止。恐美恐美

○茂榮爾令榮給氐盛んに榮えしめまして
○彌遠長爾立榮行可久長く立さかえ行くやう

毛白須。

鎭火祭

此は、世に生民の甚迄取扱ふ、火の過ちより、大きなる災を生ずるが故に、其の事の無らむ事を冀ひ、神代より傳ふる故事に依りて、鎭火を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○朝夕爾食物乎炊支羹乎煮朝夕の御飯や副食物を煮
○闇黑乎光志寒凍乎温米やみを照しさむさをあたゝめ
○穢物乎毛清介剛鐵乎毛柔介穢物を清らかにし金屬もやはらげ
○顯世乃人爾取氐此の世の人に取りては
○片時毛無氐波協波奴火奈留乎すこしのまも無てならぬは火であるを
○其一速比發留爾至氐波その烈しく發るに至りては
○數知奴燒家令失資産多くの家も資産も、やき失ひ
○剛鐵乎毛柔穢乎毛失盡金屬をもやはらげ汚物をもなくし
○人草乃食物乎調閉人民の食物をとゝのへ
○無文暗乎照志難堪寒左乎温眞のやみを照し堪がたき寒さを温め
○世中乃物止爲氐世の中の物としては
○時乃間毛難欠波火奈留乎少しの間も欠くまじきは火であるを
○其荒比立爾逢氐波その荒び立つに逢ひては
○多奈留家毛資産乎毛燒亡志多の家なり資産なりをやき亡し

○人乎毛失比命乎毛損波世氐人の身命をもそこなひ
○大留災乎蒙乎以氐大きなる災を蒙るを以つて
○其扱乎畏美慎氐その持ち扱をおそれ慎みて
○人乎毛失比命乎毛令損氐人命をも失なひ損はせて
○言毛得奴災乎見賀故爾言ふに云はれぬ災を見る故に
○毎人爾其扱乎爲乍有禮婆人々の其の取扱をなしつゝ有れば
○思奴過乎爲事有止毛思ひ寄らぬ過ちを爲すことありとも
○御心安久穩爾居坐止み心安くおだやかに居ませと
○御心穩爾安良支居坐止お心安穩に居ませと
○御定事乎以氐お定事を以つて
○平介久安介久聞食氐平らかに安らかに聞とらして
○四種乃物乎奠氐四品の物をさしあげて
○捧留水乃清久平爾さしあぐる所の水の如くきよく平らかに
○甚毛忌々志久戰慄倍支いといとう恐るべき
○人草諸乃夜晝止無別事人民のよろひろと別ちなく
○毎人爾取用乍有禮婆人々の使用しつゝあれば
○甚毛世爾戰競可支ひどう世に恐るべき
○各自夜晝止無久畏慎氐人々めいめいよろひろと無くおそれつゝしみて
○些少支過乃有止毛少々の過ちの有りとも
○建給比進給布事無志氐建び荒び給ふことなくして
○速比給比建比給布事無志氐荒び建び給ふことなくして
○古伊奘册大神乃宣給志古へいざなみの神の仰せ給ひし
○言祝鎭米奉留事乎言祝きおしづめ申すことを
○此清水埴土匏川菜乃これの清水埴土匏川菜等の
○直稱爾稱奉留事乃由乎一向にたゝへことを申す由を
○汲取匏乃漏左須落左須水を汲むひさごの如く漏さずおとさず

○明爾聞食志首肯比坐氐明瞭に聞取り首肯し坐して
○安久平爾鎭坐止安くたひらかに鎭り坐せと

掛巻毛畏支。火神乃御前爾。御酒御饌乎奠氐乞祈奉良久波。朝夕爾食物乎炊支奠乎煮。剛鐵乎毛柔介穢乎毛盡失比。闇黑乎光志寒凍乎温米。顯世乃人爾取氐。片時毛無氐波協奴波火奈留乎。其一速比發留爾至氐波。數知奴燒家令失資産。人乎毛失比命乎毛損波世氐。甚毛忌々志久戰慄倍支。大留災乎蒙乎以氐。人草諸乃。夜晝止無別事。其扱乎畏美慎氐。毎人爾取用乍有禮婆。其些少支過乃有止毛。建給比進給布事無志氐。御心安久穩爾居坐止。古伊奘册神乃宣給志御定事乎以氐。言祝鎭奉留事乎。平介久安介久聞食止。此清水埴土匏川菜乃四種乃物乎奠氐。直稱爾奉稱留事乃由乎。捧留水乃清久平爾。汲取留匏乃漏左須落左須。明爾聞食志首肯坐氐。安久平爾鎭坐止。恐美恐美毛白須。

竈神祭

此は、世に人皆火食して存する者なれば、其の竈神の惠の大きなるを思ひ、各自時を以つて此を祭り、併せて火災の無らむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○世爾生留人草乃限里（世に生るゝ人民のかぎりは）
○顯世爾在留人草諸波（此の世にある人民は皆）
○鑽出須火乃幸乎得氐（きり出す火の幸徳をえて）
○此乃火乃幸蒙氐（この火の幸徳をかうむりて）
○不飢不凍有經事波（飢ず凍ずて世にあることは）
○專此火乃惠爾依者奈禮婆（皆此の火の恩惠によるなれば）
○年久爾奉齋留例奈留賀故爾（年久しくお祭り申す例なる故に）
○毎年乃例止奉齋賀故爾（年々の例としてお祭をする故に）
○上代乃昔與里今乃現爾至麻氐（上代の昔より現在の今日まで）
○遠支神代乃昔與里（遠き神代のむかしから）
○食物乎炊支寒乎凌支（食物をたき寒さをしのぎ）
○食物乎調閉寒爾堪（食物をこしらへ寒氣をこらへ）
○無飢事無凍事志氐有波（うえこゞえることもなくて世に有るは）
○毎家爾竈定米火處祝比（家々にかまどを定め火たく處をいはひて）
○家々爾竈祝比定氐（家々にかまど所をいはひ定めて）
○今何乃某毛（いま何の某も）

○今日其事乎行止爲氐（今日その事を取り行ふとして）
○平介久安介久聞食氐（平らかに安らかに聞きとらして）
○無夜久無晝久扱布火乃（よるひると無く取り扱ふ火の）
○夜晝止不言（よるひると云はず）
○嚴戸黑益志彌益爾（殿釜の底の燒火に煤けいよ〳〵ます〳〵黑くし）
○此屋根裏乃凝烟乃（此の屋根うらの燒火にすゝけし煤の）
○八束垂麻氐燒擧介（煤の長くたるゝまで火を焚き上げ）
○底津磐根爾燒凝止毛（底つ岩根にまで焚きかたむとも）
○御心穩爾安里居坐止（お心おだやかに安まり居ませと）
○備留水乃直湛爾（備へたる水のたゝへ）
○平介久安久鎭坐止（平安に鎭りませと）
○御祭奉仕留狀乎（祭典をすることを）
○朝夕爾焚上留火乃（朝夕に焚く火の）
○一速振留事無久（はやび荒るゝことなく）
○取扱火乃進比不令有（取扱ふ火の荒び有らしめず）
○嚴戸重志久黑益氐（殿釜のいかめしきまでひどふ黑くして）
○此新室屋乃凝烟乃（此の新築家室の燒火にすゝけ煤の）
○地下爾波下遠爾（地の下には其の下の遠く）
○荒比進牟禍事無久（荒び起ばむわざはひなく）
○奠留御饌乃平瓮乃平爾（さしあぐるみけの器の平瓮の如く平に）
○奉稱留事乎聞食氐（たゝへ申す事を聞とらして）

作例

挂巻毛畏支竈神乃御前爾白左久。世爾生留人草乃限波。上代乃昔與里今乃現爾至麻氐。鑽出須火乃幸乎得氐。食物乎炊支寒乎凌支。不飢不凍有經事波。專此火乃惠爾依者奈禮婆。毎家爾竈定米火處祝氐。年久爾奉齋留例奈留賀故爾。今何乃某毛。今日其事乎行止爲氐。捧物奠氐。御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。朝夕爾焚上留火乃一速振留事爲久。夜晝止不言取扱火乃進比不令有。嚴戸黒益志彌益爾。此屋根裏乃凝烟乃。八束垂麻氐燒擧介。地下爾波下遠爾。底津磐根爾燒凝止毛。荒比進牟禍事無久。御心穩爾安麻里居坐止。奠留御饌乃平瓮乃平爾。備留水乃直湛爾奉稱留事乎聞食氐。平介久安久鎭坐止。恐美恐美毛白須。

井神祭

此は、世人の一日も欠く可らざる、井水の惠を思ひ、時を以つて其の井神を祭り、永く其の惠に潤はむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○顯世乃人乃無間久無時久（此の世の人の間なく時なく）○日爾異爾汲用氐（日に日にことさらに汲み用ゐて）○世爾住止志住牟人毎爾（世の中に住みと住む人ごとに）○食物乎炊穢多留物乎濯支（食物をかしきけがれたる物を洗ひそゝぎ）○食物乎調閉萬物乎清乍（食物を調へ万物を清めながら）○水乃惠乃廣爾依婆（水の惠の廣大なることに依れば）○地乃下悉久行滿留（地下全般に行き滿てある）○其家内毎爾各自（其の家内ごとに皆）○又以時此乎奉齋賀故爾（又時を以つていはひ奉がゆゑに）○今何乃某毛其例乃隨爾（何の某も先例のまに〳〵）○此乃御祭奉仕留狀乎（この祭を行ふことを）○今毛將來毛（今もゆくさきも）○汲井乃水爾障事無久（汲む井の水に障りなく）○打續久霖雨爾毛濁事無久（長雨にも濁ることなく）○剛支有雨止毛濁不來（剛雨有りとも濁り來らず）○無夜久無晝久汲取氐（よるひるとなく汲とりて）○清久建全爾有經事波（清潔に健全に有ふることは）○陸地隈無久滿通禮留（陸地あまねく滿とほれる）○安久樂久有經留事波（安くたのしく有ふることは）○各自家居須留人乃限里（各〳〵家を構へて居るかぎりは）○井乎作里氐不祝置波無久（井戸を作りて祝置ぬはなく）○年々爾此乎奉齋乎以氐（年々に此をお祭申すを以つて）○今日乃生日乃足日乎以氐（今日の此吉日をもつて）○平介久安介久聞食氐（平らかに安らかに聞きとらして）○汲取留水乃障無久（汲みとる水の障りなく）○烈支旱魃爾毛涸事無久（大旱にも涸ることなく）○打續久旱爾毛涸不行（長き旱にも涸ゆかず）○清久冷爾澄渡多留（清く冷にすみ渡りたる）

○冷爾清久澄多留（ひやゝかに清く澄みたる）
○常磐爾堅磐（常に變らぬ岩又は堅き岩の如くに）爾
○此福井乃崩留事無久（此のよき井の崩るゝことなく）
○据多留井筒乃都々美無久（据たる井つゝの美なく）
○時日乎不別汲得留々事波（時日なくいつにても汲み得ることは）
○釣瓶乃綱乃遠長爾（つりへの綱の遠く長く）
○奇志井乃幸井止（奇しき井の幸はひある井と）
○味水乃眞清水止（うましみづの眞清水止）
○此乃生井乃淺留事無久（此のよき井の淺くなることなく）
○水底深久涌出留水波（水底ふかく涌出つる水は）
○遠久深久涌出留水波（遠く深く涌出つる水ば）
○夜晝止不言汲取留事波（よるひると言はず汲みとることは）
○絶事無久盡事無久（絶ることなく盡ることなく）
○守惠美幸給止（守りめぐみ幸へませと）

作例

掛巻毛畏支。御井乃神乃御前爾白左久。顯世人乃無間久無時久。日爾異爾汲用氐。食物乎炊穢多留物乎濯支。清久建全爾有經留事波。陸地無隈久滿通禮留。水乃惠乃廣爾依婆。各自家居須留人乃限里。井乎作氐不祝置波無久。又以時此乎奉齋賀故爾。今何乃某毛。其例乃隨爾。今日乃生日乃足日乎以氐。捧物奠氐。此祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。今毛將來毛。汲取留水乃障無久。烈支旱魃爾毛涸事無久。打續久霖雨爾毛濁留事無久。清久冷爾澄渡多留。味水乃眞清水止。常磐爾堅磐爾。此生井乃淺留事無久。水底深久涌出留水波。据多留非筒乃都々美無久。時日不別汲得留々事波。釣瓶乃綱乃遠長爾。無絶事久盡盡事久。奇志井乃幸井止。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

祈避震

此は、世に災震の有るが中にも、其の甚しきに至りては、家倒れ山崩れ、地裂け水涌き、人畜を害するの悲慘を極る者なれば、其の災の無らむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○大地乃面爾人蕃殖（大地の上に人類の多くふえ）氐
○山方止無久海邊止無久（山間となく海へんとなく）
○家乎建里乎爲志（家を立て村をなし）
○人蕃殖氐里乎爲志（人民が蕃殖して村をなし）

○野爾就山爾依野原にも山べにも住み
○家乎列禰住所乎求米家を立て列れ住所を尋ねもとめ
○親族家族乎養氐眷族の者をやしなひて
○諸共爾過行爾人々相ともに過ぎ行くに
○種々乃災多加留賀中爾毛種々の災害の多くあるが中にも
○地乃底爾事起志氐地の底にて事起して
○下動美發志乍大地のうごきを發しつゝ
○大震乃災許大地震の災害ばかり
○怖留可支者波無久恐るべき者はなく
○此乎遁牟爾毛走出牟爾毛これを遁れまた家を走り出むにも
○家崩禮木倒禮家屋は崩れ樹木は倒れ
○地裂介家崩禮大地さけ家居の崩れ
○人打禮身乎損比人は倒れ崩るゝ物に打たれて身をも損ひ
○思々爾生業乎營美思ひ〳〵に生活をなし
○得成限乃生業乎營美成えらるゝ限り生活をいとなみ
○如此有經留世爾かくしてすごす世に
○雨風火水乃雨や風や又火や水の
○何爾吳乃災比限無賀中爾毛彼れや是れやの災害の限りなく多きが中にも
○下動美搖來留大地のゆりうごきくるる
○地乃底與里搖來留大地の底よりうごき來る
○忌々志支者波無久甚しき者はなく
○此乎避牟爾毛逃延牟爾毛此をさけ又逃むにも
○踏立足下搖里動止共爾ふみ立つる足もとの搖り動くと共に
○地裂介水涌支大地の裂け水の涌き出て
○木倒禮水噴出氐木は倒れ濁水は噴き出して
○身打敷禮人損比身は倒れ崩るゝ物に打ち敷れ人をも損ひ
○山止不言野止不言山野の差別なく
○山止無久野止無久山野の差別なく
○或波欠或波陷あるひは欠け込み、あるひは落ち入り
○此處陷禮婆彼處波欠こゝが落ち入れば かしこは缺け込み
○瞬間爾言毛不得禍事一寸との間に言ふに云はれぬ禍こと
○名付毛兼留慘左乎現志名も付け兼ぬる慘狀を現し
○天下爾例罕奈留災乎爲波天下に類例のまれなる災をなすは
○顯世爾例無支災乎爲波此のように類例なき災をなすは
○此乃地震乃業奈留乎以氐此の地震のわざなるゆゑ
○天神乃大御心爾天神のおこゝろに
○憐氐看行志輔給氐氣毒と見て助け玉ひて
○世爾災乎見賀如支世間に災害を見るが如き
○大震乃兆有牟時爾波巨震の兆候の有る時には
○生出奴內爾止米生ぜぬ內に止め
○發奴前爾鎭坐氐發らぬ前に鎭めまして
○陰陽二柱神爾詔志氐諾冊二神に詔命を下して
○修理固成志米志國地止つくり固めさせし國土なりと
○彌遠長爾守幸閉給止いよ〳〵遠く長く守り幸へませと

作例

地震乃災乎守給布神乃御前爾。捧物奠氐乞祈奉良久波。大地乃面爾人蕃殖里。家乎建里乎爲志。野爾就山爾依。思々爾生業乎營美。親族家族乎

養氐。如此有經留世爾。雨風火水乃種々乃災多奈留賀中爾毛。地乃底爾事起志氐。下動美搖來大震乃災許。忌々志支者波無久。此乎避牟爾毛。逃延牟爾毛。踏立足下搖里動止共爾。家崩禮木倒禮。地裂介水涌支。人打禮身乎損比。山止無久野止無久。或波欠或波陷。瞬間爾言毛得奴禍事。名付毛兼留慘左乎現氐。天下爾例罕奈留災乎爲波。此地震乃業奈留乎以氐。天神乃大御心爾憐止看行志輔比給氐。世爾災乎見賀如支。大震乃兆有牟時爾波。生出奴內爾止米。發奴前爾鎭坐氐。陰陽二柱神爾詔志氐。修理固成志米志國地止。彌遠長爾守幸閉給止。恐美恐美毛白須。

祈避雷

此は、世に雷雨を催し、甚しきに至りては、處を撰ばず落雷して、人畜を犯し、諸物を害する等の慘害を爲すが故に、其の災の無らむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○天地乃氣乃欝結禮氐波（天氣地氣のむすぼるれば）
○稻都留火打耀支（稻妻の打かゝやき）
○蒸奈須暑氣乃世爾滿氐波（蒸し暑き氣の世間に充滿せば）
○伊那光里打耀支（稻光り打かゝやき）
○降頻留雨瀧津瀨乎爲（降しきる雨は瀧つ瀨をなし）
○大空無隈久鳴神乃（大空殘る所なく神鳴の）
○鳴神乃音毛登々呂爾（神鳴の音もとゝろに響き）
○世塵乎打拂天下乎潤波世（世のちりを拂ひ天下をうるほはせ）
○萬物乎蕃殖良令留波（萬物を殖え廣がら令るは）
○可仰支惠奈留賀中爾毛（仰き尊む可き惠なるが中にも）
○顯世乃災乎爲事多奈禮婆（世の災を爲こおほければ）
○天神乃此乎深久守良世給氐（天神の此れを深く守り玉ひて）
○國地廣良爾鳴響止毛（國土一躰に鳴りひゝくとも）
○由々志支雲止涌立知（おそろしき雲となりてわき立ち）
○進閉留速飄乃吹立添里氐（愈進める大風の吹立ち添りて）
○御空爾忽雲涌立知（大そらに忽雲のわき立ち）
○吹添布風乃立進比來氐（吹き添ふ風の愈進み來て）
○瀧津瀨乎奈須雨降頻里（瀧つ瀨の如き雨ふりしきり）
○音毛登々呂爾鳴渡氐（音もとゝろに響き鳴りわたり）
○大空無隈久鳴渡氐（大空殘る所なく鳴りわたりて）
○天下乎潤世世塵乎洗比（天下をうるほはせ世のちりを洗ひ）
○最毛尊支事奈留賀中爾毛（いとゝ尊きことなるが中にも）
○鳴乃進爾進比過氐（鳴の愈進みにすゝみ行くに過ちて）
○世爾其災毛多奈禮婆（世に其の災もおほければ）
○雲井普久鳴動美（雲間一躰に鳴り響き）
○雲井遙爾鳴響支（雲の上遙に鳴りひゝき）

○國土甚久鳴動止毛　國土ひどう鳴りひゝくとも
○家乎破里人乎害米　家なり人なりを破り害し
○家乎破里建物乎損比　家や建造物を破り損ひ
○軒乎毀知火事乎起志　軒をこわし火事を起し
○行路者乎犯志　道路を行くものを犯しそこなひ
○橋爾船爾野爾山爾　橋の上にまた舟の上に野に山に
○鳴神乃總乃災比不令有　鳴神の總の災害あらせず
○戰慄支懼美　恐れ
○憐止看行志輔比給氐　氣毒と見まして助け玉ひて
○天益人彌益々爾　人民のいよ〳〵
○乞祈奉留狀乎聞食氐　乞ひ祈り申す事を聞とりまして
○鄕曲町內爾霹靂志氐　村中又は町内に落雷して
○建物乎損比畜物乎打　建造物を損ひ家畜を打ち殺す
○害人畜物乎打　人なり家畜なりを打ちて害し
○在野者乎痛米　田野にある者を痛めそこなひ
○行路者在野者乎犯志　行路又は在野のものを犯しそこなひ
○立木乎裂支田畑乎焦左牟　立たる木を打さき田畑をやき焦し
○人草諸乃助老抱幼氐　人民は老人を助け幼者を抱きて
○憂比眞迷布狀乎　うれひ迷ふ狀を
○彌遠爾雷乃災比無久　いつまでも雷の災なく
○幸久平介久令有給止　幸ひに平かに有らせ玉へと
○守惠幸給止　守り惠み幸ひをあたへませと

雷乃災乎守給布神乃御前爾白左久。天地乃氣乃鬱結禮氐波。由々志支雲止涌立知。稻都留火打耀支。進閉留速飄乃吹立添里氐。降頻留雨瀧津瀨乎爲志。大空無隈久鳴神乃。音毛登登呂爾鳴渡氐。世乃塵乎打拂。天下乎潤波世。萬物乎蕃殖良令留波。最毛尊支事奈留賀中爾毛。鳴乃進爾進比過氐。顯世乃災乎爲事多奈禮婆。天神乃此乎深久守良世給氐。雲井普久鳴動美。國地廣良爾鳴響止毛。鄕曲町內爾霹靂志氐。家乎破里人乎害米。建物乎損比畜物乎打知。軒乎毀知火事乎起志。在野者乎痛米。行路者乎犯志。橋爾船爾野爾山爾。立木乎裂支田畑乎焦左牟。鳴神乃總乃災比不令有。人草諸乃助老抱幼氐。戰慄支懼美。憂比眞迷布狀乎。憐止看行志輔比給氐。彌遠爾雷乃災比無久。天益人彌益々爾。幸久平爾令有給止。此乃御酒御饌乎奠氐。乞祈奉留事乎聞食氐。守惠幸給止。恐美恐美毛白須。

此は、世に稲葉の繁茂する時に當り、蝗虫を發生し、天下の農事の甚しき害を爲すが故に、此を驅除して、其の災を免れむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○公民諸乃早苗取氐　多くの百姓が苗を取りて
○本年公民諸乃　本年百姓の人々の
○千町八千町　千町八千町の多き
○五百代千代限里無久　五百また千と廣き田のかぎり無く
○秋乃稔麗志久　秋のみのり充分にして
○奈何留禍神乃禍事爾加　いかなる惡しき神の惡しき所作にか
○不量毛玆爾蝗涌出氐　思ひもよらず玆に蝗わき出て
○其災毎日爾烈久　その災害毎日に烈しく
○朝爾拂婆夕爾涌來氐　朝に蝗を拂ひ落せば夕には又わき來て
○日止無久夜止無久　日となく夜となく

○植渡多留水田乃限　一面に植ゑたる水田の限り
○植果志田面乃稻葉　植ゑ終りたる田面のいれ
○彌繁爾繁來氐　いよ〳〵繁り來て
○日爾異爾繁來氐　日々に繁り來
○豐奈留可支狀爾有志乎　豐年なる可き狀なりしを
○此頃突然爾蝗涌出氐　此ごろ急に蝗わき出て
○其災比刻一刻爾烈久　その災害の刻一刻とはげしく
○朝夕爾廣里行氐　あさゆふに廣まり行きて
○人々甚久憂比惑波比　人々のひどう心配して
○驅除止毛不止禮婆　驅りのそけとも虫害の止まざれば

○里長乃報知乎得氐　村長の報告をえて
○夜晝不別盡手止毛不止禮婆　夜ひるの差別なく手をつくせども止ざれば
○大神乃神德乎仰奉故爾　大神の神德を仰き申すがゆゑに
○出去奴蝗乎婆　出ざらぬ蝗をば
○發生志蝗乎婆　發生せし蝗をば
○再發事不令有　再ひ發ることなからしめず
○怒良志支事乃坐毛給不給　怒るべき事の有るにも給ず
○蒼生乃悲乎憫氐　人民の悲むことをあはれみて
○公民乃嘆乎思保志　人民のなげきを思ほしめして
○幾千町乃小田乃稻乎　廣き田面の稻を
○青葉奈須繁田乃良田爾　青葉しげる田のよき田に

○縣郡乃司毛立臨美　縣官郡吏も立のぞみて
○所爲便知良爾極氐　其の手立もつきはて
○一日毛早久此災乎除支　一日も早く此の災をのぞき
○悉久拂比令失坐氐　悉く拂ひ失はせて
○拂比失比鎭坐氐　拂ひ失ひ鎭めまして
○田人爾有過止毛許給比　農夫にあやまち有れば許し給ひ
○天下乃災乎思保志　天下の災なるを思ほしめして
○顯世乃災乎重美　此の世の災なることを大いさうなりとして
○此如筱竹氐枯損氐　如此に筱竹の如くにかれ損じ
○如舊久速爾元の如くはや
○成志幸給止　なし幸へ給へ

作例

稻田乎守給布神乃御前爾白左久。公民諸乃早苗取氐。植渡多留水田乃限里。千町八千町彌繁爾繁來氐。秋乃稔麗志久。豐奈留可支狀爾在志乎。奈何留禍神乃禍事爾加。此頃突然爾蝗涌出氐。其災刻一刻爾烈久。朝夕爾廣里行氐。人々甚久憂比惑波比。里長乃報知乎得氐。縣郡乃司毛立臨美。夜晝不別盡手止毛不止禮婆。所爲便知良爾極氐。大神乃神德乎仰奉賀故爾。一日毛早久此災乎除支。出去奴蝗乎婆悉拂比令失坐氐。再發事不令有。田人爾有過毛許志給比。怒良志支事乃坐毛咎不給。天下乃災乎思保志。蒼生乃悲乎悶氐。此如筱竹氐枯損志。幾千町乃小田乃稻乎。如舊久速爾青葉奈須繁田乃良田爾成志幸給止。恐美恐美毛白須。

神社昇格

此は、世に由緒ある神社の、衰頽して存在せしを、有志者の盡力に依りて、昇格を遂げし時に奉祭して、其の事を奉告する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此祠爾祭來志皇神波（此のやしろに祭り來し皇神は）
○此乃御社乃大神波（此のお社の大神）
○其事波志毛古書爾口碑爾（そのことは古書又口碑に）
○何時止無久衰來氐（いつと云ふ事なく衰へ來て）
○年月乎經留任爾衰來氐（年月をふる任におとろへ來て）
○微爾此處爾存在氐坐婆（幾にここにのこりませば）
○此處爾微爾存氐坐婆（此の處に幾にのこりて坐せば）
○里人諸思議里（村内の人々思ひはかりて）
○右爾左爾事取調氐（かれこれと取りしらへて）
○公爾申文乎捧介（政府に建言書を捧げ）
○不絶不撓盡心氐有志爾（絶えず撓まず心を盡して有しに）
○思毛協比氐（思ひもかなひて）
○此度御社乃格乎昇氐（此の社の格を昇せて）
○上古爾坐氐御功高久（上古に有りて功業を高く）
○神代乃神業大奈里志事波（神代の神業の大きなりしことは）
○廣久世爾聞氐波有止毛（廣く世にきこえては有れども）
○里人乃口碑爾古書爾（里人の口碑に古書に）
○今波只此乃村社止爲氐（今は只この所の村社となりて）
○今波形耳乃祠止爲氐（今は形ばかりの社殿となりて）
○其乎慨美畏氐（そをうれはしく畏みて）
○有心人々思比謀里（有志の人々思ひはかりて）
○申文乎官爾捧介（建言書を官府にさしあげ）
○力乃極美盡氐有志爾（力のきはみを盡して有しに）
○其眞心乃程毛徹里（その眞心のほともとほり）
○其志貫里事協氐（その志とほり事かなひて）
○何々乃社止被定志波（何々格の神社と定められしは）

○最毛尊久辱支事止（ひどう尊く有りか たき事と）
○老毛若毛悦比畏乍（老も若も悦ひ恐れ 多く思ひ）
○今日其乃由乎奉告止爲氐（今日その由を告け申すとして）
○平介久安介久聞食氐（平らかに安らかに聞とらして）
○其神德乃耀給牟事波（その神德のかゝやかむことは）
○萬世爾榮坐牟御榮波（萬世にお榮になるさかえは）
○常磐爾堅磐爾立榮坐止（常に變らぬ岩又は堅き岩の如く立ち榮え給へと）
○里人乃限里（みな）
○悦奴者無久尊奴人無久（悦ばぬ者なく尊ばぬ人なく）
○御祭奉仕狀乎（祭典を行ふことを）
○自今往前（今より行くさき）
○聳立御庭乃自松毛高久（聳て立てるお庭の松よりも高く）
○千代經留御前乃自樟毛久爾（千世を経たるお前の樟よりも久しく）

作例

何々神社乃御前爾白左久。此祠爾祭來志皇神波。上古爾坐氐御功高久。其事波志毛古書爾口碑爾。世爾廣久聞氐波有止毛。何時止無久衰來氐。今波只此乃村社止爲氐。徽爾此處爾存在氐坐婆。其乎慨美畏氐。里人諸思議里。右爾左爾事取調氐。申文乎官爾捧介。力乃極美盡氐有志爾。其眞心乃程毛徹里思毛協氐。此度御社乃格乎昇氐。何々乃社止被定志波。最毛尊久辱支事止。里人乃限里老毛若毛悦比畏乍。今日其乃。由乎奉告止爲氐。種々乃物奠氐。御祭奉仕狀乎。平介久安介久聞食氐。自今往前。其神德乃耀給牟事波。聳立御庭乃自松毛高久。萬世爾榮坐牟御榮波。千代經留御前乃自樟毛久爾。常磐爾堅磐爾立榮坐止。恐美恐美毛白須。

神社合祀

此は、世に其の維持の途なき神社を、官許を得て、某神社に合祀する時、其の神靈を奉遷して、益々其の威德の顯著ならむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○齋始志其由波別禰止（祀りそめし起の不明なれど）
○御社乎建志起波知良禰止（社を建し始は知られど）
○其祭毛形耳爾成行支（其の祭も形斗りになり行き）
○年久爾此處爾坐乎（年久しく此處にますを）
○昔與里此處爾坐氐（昔より此處に鎮りまして）
○御社毛年々爾荒來氐（お社も年々に荒れ來りて）

○毎年乃祭毛名耳爾成里（毎年の祭も名斗りになりて）
○里人波産土神乃外爾（里人は産土の神の外に）
○産土神乎祭留外爾（産土神を祭る外に）
○思有止毛事行足波須（思は有れとも事行きたらはす）
○自然敬乎欠爾至乎以氐（自然と敬を欠くに至るを以つて）
○人々相議其許蒙里（衆人議定の上その筋の許可をえて）
○諸人議定氐令乃隨爾（人々相談の上官令にしたがひ）
○合世齋奉賀故爾（合祀し申すが故に）
○御祭奉仕留狀乎（祭典を行ふこと）
○自今將來乃時々乃祭波（今より時々の祭）
○常磐爾堅磐爾（上の所々に解あり）
○年々乃祭毛（年々の祭り）
○其乃灼支神威爾（其のしるき神威には）

○御舍殿毛荒來氐（社殿もあれきたり）
○祀留神村内爾多奈禮婆（祭る神の村内に多ければ）
○里人波村内爾社多奈禮婆（村民は村内に社の多ければ）
○心盡止毛事成足波須（心つくせとも事成したらはす）
○此度官乃有令爾基支（此度官令あるに基き）
○此度官乃有仰爾基支（此度官よりの仰事有るに基つき）
○何々乃社爾（郷社又は村社等なり）
○今日其事乎行止爲氐（今日その事を取り行ふとして）
○平介久安介久聞食氐（平らかに安らかに聞とらして）
○此社乃神止共爾享坐氐（此の社の祭神と共に承まして）
○御心穩爾鎭坐乍（お心おだやかに鎭り坐し〳〵）
○此社爾鎭坐氐共爾享給氐（此の社に坐て共に承たまひて）
○獻留甕上乃彌高爾（奠るみかのへの如く彌高に）
○天下乎令榮給（天下を榮えしめ玉へ）
○奉据留御机乃彌廣爾（据たる机の廣きか如く彌ひろに）
○此里人男女爾至廡氐（此の村中の男女に至るまて）
○聞食氐（聞とりまし）
○其廣支惠爾波（その廣き惠には）
○公民乎幸給止（人民を幸へたまへと）
○諸參來氐乞祈奉留事乎（衆みな參り來て祈り申すことを）

作例

何々神社乃御前爾白左久。齋始志其由波別禰止。年久爾此處爾坐乎。其祭毛形耳爾成行支。御社毛年々爾荒來氐。里人波産土神乃外爾。祀留神村内爾多奈禮婆。思比有止毛事行足波須。自然敬乎欠爾至乎以氐。此度官乃有令爾基支。人々相議其乃許蒙里。何々乃社爾合齋奉賀故爾。今日其事乎行止爲氐。御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。自今將來乃時々乃祭波。此社乃神共爾享坐氐。常磐爾堅磐爾御心穩爾鎭坐乍。其灼支神威爾波。獻留甕上乃彌高爾天下乎令榮給。其廣惠爾

波。奉据留御机乃彌廣爾公民乎幸給止。此處乃里人男女爾至麻氐。諸參來氐。乞祈奉留事乎聞食氐。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

學神祭

此は、世に學事のことを幸へ給ふ、神聖、賢哲、偉人の靈を奉祭して、其の恩賴を謝し、將來も益々斯道の發展を守り、且つ永く其の惠を蒙らむ事を願ふ事なり。

依りて其の意を述ぶべし。

○身乎正志道乎行比（身を正しくし道を行ひ）
○道乎修米身乎正志（道をなさめ身を正しくし）
○述書閉舉言氐（ふみに述べ言にあげて）
○筆志氐述解說爾遺氐（筆にて書のべ說しことにのこして）
○此學乃大人等乃（此の學の大人等の）
○毎年乃例止（年々の例と）
○理乎盡志事乎明良米（理をつくし事を明にし）
○物乎究米理乎明志（物を究め理をあきらかにし）
○世爾幸坐志（世にさちはへまし）
○世爾敎閉人乎導坐志（世にをしへ人を導きましし）
○恩賴乎辱氐（恩賴をうけて辱しむ）
○今日乃生日乃足日乎以氐（解上にあり）
○行來志例乃任爾（行ひ來し例のまに〳〵）
○平介久安介久聞食氐（平らかに安らかに聞とらして）
○生徒諸（諸〳〵は諸の生徒）
○設多留掟乎背久事無久（設けたる規則を背くことなく）
○惡行不令有異道爾不迷（惡しき行や惡しきことに迷はず）
○日爾異爾授留敎言乎（毎日授くる所の敎を）
○朝夕爾受習布說言乃（朝夕に受け習ふ學事の）
○定多留學科乎悉久學修氐（定の學科を皆修了して）
○顯世爾秀多留功乎顯志（此の世にすぐれたる功をあらはし）
○天下爾罕留者止仰乍（天下に稀なるものと仰れつゝ）
○其譽乎志世爾揭牟事波（その譽をし世に揭んことは）
○刺立志榊乃自上枝高久（刺立し榊の上枝よりも高く）
○奉据留御饌机乃彌廣爾（据えたる御饌机の如く彌ひろに）
○其御祭奉仕留事乎（その祭り行ふことを）
○此學校爾受學布（此の學校に學業を受け學ふ）
○直久正久勵久勉氐（直く正しくよく勉強して）
○志固良加爾行毛正久（志操も行も固く正しく）
○異道爾不迷行比高久（惡しき道に迷はず行ひ高尚に）
○怠事無久誤事無久（怠たることなく誤ることなく）
○難解波問比不知波質志（解しかたく知れざるものを問ひたゞし）
○學科乎如定學修氐（學科を定めの如く學ひ修めて）
○優多留名乎世爾耀志（優りたる名を世にかがやかし）
○秀多留譽乎身爾負乍（すぐれたる譽れを身に負ひつゝ）
○其功乎世爾立牟事波（その功を世に立んことは）
○此學校乃末乃榮波（此の學校の末の榮は）
○無例支譽乎得乍（例なき譽を得つゝ）

○他學校乃撰範止志毛爲氐（他の學校の撰範ともなりて）

○彌遠爾榮行可久（行くやう）

作例

學術乃事乎守給布神等乃御前爾白左久。身乎正志道乎行比。理乎盡志事乎明米。述書閉舉言氐世爾幸坐志。此學乃大人等乃恩賴乎辱氐。毎年乃例止。今日乃生日乃足日乎以氐。御酒御饌種々乃物奠氐。其御祭奉仕留事乎。平介久安介久聞食氐。此學校爾受學布生徒諸波。直久正久勤美勉氐。設多留掟乎背久事無久。惡行不令有。異道爾不迷。日爾異爾授留教言乎。怠事無久誤事無久。朝夕爾受習布說言乃。難解波問比不知波質志。定多留學科乎悉久學修氐。顯世爾秀多留功乎顯志。天下爾罕留者止仰乍。其譽乎志世爾掲牟事波。刺立志榊乃自上枝毛高久。此學校乃末榮波。奉据留御饌机乃彌廣爾。無例支譽乎得氐。他學校乃摸範止志茂爲氐。彌遠爾榮行可久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

遷宮式

此は、世に神社の新造、又は修繕を行ひ、其の竣功を告ぐれば、則ち其の神社の前例に依り、裝飾祭式の總を調へて、神靈奉遷の大祭を行ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○先頃與里大神乃殿舍（先頃より大神の社殿）

○皇神乃宮居朽損志乎以氐（皇神の宮殿朽損せしを以つて）

○麗久修繕比奉牟止（うるはしく修繕し奉んと）

○天御蔭日御蔭止（天のおんかげ日のおんかげと）

○如此其乃御舍殿乎（かく其の御社殿を）

○事不過造里竟奴禮婆（こと過たず造り竟ぬれば）

○今日乃此夜乎（今日のこの夜を）

○清夜乃良夜止撰氐（清き良き夜と撰び定めて）

○甚久朽損志乎以氐（甚く朽ち損ひしを以つて）

○其乎改米造奉牟止（そを改め造り申さむと）

○勤美務乍有志爾（いそしみ務めつゝありしに）

○今此乃瑞御舍殿乎（今この立派の御殿を）

○事麗志久造竟奴禮婆（事足り美麗に造りたへぬれば）

○遷宮奉仕止爲氐（遷宮を奉仕するとして）

○甘夜乃大夜止定氐（よき夜と定めて）

○殿內清良爾（殿內きよらか）

○殿内拂清米御殿の内を拂ひきよめて
○奉据留御座嚴然爾据ゑまつる神座の殿堂に
○總乃事無違志氐萬事たがひなくし
○神職乎始米神職をはじめ
○楯桙靫取里取爾楯桙又は靫などとり〳〵
○赤支白支御旗持連里赤き白き色のみはた持ちならび
○刺羽差翳志刺羽をさしかざし
○絹垣引氐きぬかいと云ふものを引きて
○進立都列乃無亂進行して立つ行列の亂れず
○照志持炬火乃彌明爾照し持つ炬火の明かに
○奉遷令坐奉禮波お遷し申し鎭め申せば
○鎭坐止鎭り給へと
○御壁代御幌掛渡志壁代み幌り掛けわたし
○御餝新爾爲志改米おかざり新になし改め
○總乃設例不違總體の設け例にたがはず
○産子乃者諸忌清回氐産子の者皆忌み清め
○御弓御劔持連里御弓御劔等を持ちならひ
○眞榊繁美爾持捧氐眞榊の繁りたるを持ちさゝげ
○紫蓋覆比きぬがさを覆ひ
○御供乃御尾前奉仕里御供の前後を奉仕し
○焚上留燎火立耀支氐焚き上ぐるには火の立ちかゝやきて
○御稜威毛灼久神威もいちじるし
○御心穩爾彌遠長爾お心も穩にいつまでもかはらずに

作例

何々神社乃御前爾。神職某。御酒御饌種〻乃物乎奠氐。乞祈奉良久波。先頃與里大神乃殿舍甚久朽損志乎以氐。其乎改米造奉牟止。勤美務乍有志爾。天御蔭日御蔭止。今此乃瑞御殿舍乎。事麗志久造里竟奴禮波。遷宮奉仕止爲氐。今日乃此夜乎甘夜乃大夜止定氐。殿内清良爾。御壁代御幌掛渡志。奉据留御座嚴爾。總乃設例不違。神職乎始米産子乃者諸忌清回氐。楯桙靫取里取爾。御弓御劔持連里。刺羽差翳志。紫蓋覆比。絹垣引氐。御供乃御尾前奉仕里。進立都列乃亂無久。焚上留燎火立耀支氐。照志持炬火乃彌明爾御稜威毛灼久。奉遷令坐奉禮波。御心穩爾彌遠長爾鎭坐止。恐美恐美毛白須。

地鎭祭

此は、世上一般に建築工事を行ふ時、先づ其の地盤を鎮祭し、神護に憑りて、其の區域中、總て災異の無らむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此處乃荒草木根刈除支此の處の雜草木根を刈り除き
○大石小石乎取平志氐大いし小いし取りならして
○此舊乃宮地乎更爾清米此の舊の宮地を更にきよめて
○高支低支土打平氐高き低き土をならし
○宮處止定米宮處とさため又宮處を住所にも改む
○今日乃生日乃足日爾解上にあり
○地鎭乃祭行止爲氐地鎭祭の式を擧るとして
○其事奉仕留狀乎祭典を仕へまつることなる
○平介久安介久聞食氐解說上の所々にあり
○此堀回世留溝乃無埋事久此の掘まはすみその埋まることなく
○築立志磐境乃無崩事久築き立し石垣の崩るゝことなく
○取廣米志區劃乃正久取りひろめし區域の正しく
○築立志境乃明爾つき立し境界のあきらかに
○荒行久事無久荒廢して行くことなく
○絕留事無久斷絕することなく
○雨降風吹止毛雨風にあふとも
○地窪美土陷里ところの窪み土の陷り
○取廣米志御庭乃損比無久取り廣めたお庭の損ひなく
○衝固多留御庭乃損比無久築き固めたお庭の損ひなく
○下動來留地震乃災無久下より動搖し來る地震の災なく
○溢流留潦水乃障溢れ流るるたまり水づの害
○獸類乃荒備獸類のあらび

○昆虫乃禍事無久虫類の害なく
○昆虫禍事起事無久虫類の害の起ることなく
○獸類乃犯志穢事無久獸類の犯し穢すことなく
○彌遠永爾解說上の所々にあり
○異事危事不令有あやしき事危うきこと有らせず
○安久平爾萬世爾安く平に久しき後の世までに
○常磐爾堅磐爾解說上の所々にあり
○立榮牟宮處止立ち榮え行かむ宮處と

作例

宮處乎守坐須神乃御前爾白左久。此處乃荒草木根刈除支。大石小石取平志氐。宮地止定米。今日乃生日乃足日爾。地鎭乃祭行止爲氐。種々乃物奠氐。其事奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。此堀回世留溝乃無埋事久。築立志磐境乃無崩事久。雨降風吹止毛。地窪美土陷里。取廣米志御庭乃損比。下動來留地震乃災無久。溢流留潦水乃障。獸類乃荒備。昆虫乃禍事無久。彌遠永爾異事危事不令有。安久平爾萬世爾。常磐爾堅磐爾立榮牟宮處止。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

釿始祭

此は、世上一般に建築工事を行ふに當り、先づ工匠等の着手に際し、釿始式を行ひ、匠神の幸へを得て、無事に工事の進捗せむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此宮造爾取用留者止（この宮造りに用るものと宮は殿及び家にも改む）
○此處爾有里彼處爾持留（こゝに有り彼處にもてる）
○其大小良志支限乃者乎（大小の木の良き限りのものを）
○悉久撰比集多留乎以氐（悉く撰び集めたるを以つて）
○定多留日取乃隨爾（定め置きたる日取りの通り）
○墨掛介劉立乃（すみ縄をうちけづりなじめの）
○木作業爾事及賀故爾（木作の業にことの及ぶが故に）
○今日乃生日乃足日爾（今日の生きはたらき足りとゝのふ吉日に）
○此乃宮造里造成者止（この宮造りつくりなすものと）
○良志支木乃大小（適當の木の大小とにも）
○西爾東爾求米來氐（東西に行きて求め來て）
○悉爾集得多留賀故爾（皆あつめたるが故に）
○行比往牟日取乃隨爾（行ひゆかむ日取りのまゝに）
○木端切退介墨打掛介（木くち切りとりすみ縄をうちかけ）
○玆木作乃事爾至乎以氐（こゝに木作の事に至るを以つて）
○其式乎行止爲氐（その式を行ふとして）

○乞祈奉留狀乎（お願申すこと）
○自今將來工等諸乃（今より將來に多の工匠等の）
○打墨繩乃打違比（うつ墨縄の打ちちがひ）
○爲乃過知手足乃躓無久（仕損じ手過ちなく）
○提留手斧使比爲須鉋（手斧やかむな）
○日爾異爾來氐勤留者乃（毎日來て勤るものゝ）
○家爾毛身爾毛無喪無事志氐（家にも身にも何にごともなく）
○行布業乃麗加良牟事波（其の業のうるはしく出來ることは）
○總乃事爾障無良牟事波（總てのことに障害の無からんことは）
○行惱事無久滯事無久（事の行きなやみ又滯ることなく）
○此乃家造里可造終久（此の家造りを造り終るやう）
○平介久安介久聞食氐（解上にあり）
○手躓比足躓比有事無久（手や足の過ちの有ることなく）
○取留御量乃差乃誤里（取るばかりの差し誤り）
○差量留御量乃誤里（差しばかる量りの誤り）
○鑿眞錐乃上爾毛損比無久（鑿又錐の上にも仕損じなく）
○毎日爾使布手人爾至麻氐（日々に使ふ人夫に至るまで）
○家爾毛身爾毛禍事無志氐（家にも身にも悪しことなく）
○取氐打釿乃音乃事々爾（釿うつ音の如く事々に）
○劉行久木乃無惡節如久（けづる木の悪しきふし無きが如く）
○安久平介久（解説上の所々にあり）

作例

工事乎守給布神乃御前爾白左久。此宮造爾取用留者止。此處爾有里彼處爾持留。良志支木乃大小。悉爾撰比集多留乎以氐。定多留日取乃隨爾。墨掛介劉立乃。木作里業爾事及賀故爾。今日乃生日乃足日爾。其式乎行止爲氐。御酒御饌乎奠氐。乞祈奉留狀乎。平介久安介久聞食氐。自今將來工等諸乃。手蹟比足蹟比有事無久。打墨繩乃打違比。取留御量乃差乃誤里。提留手斧。使比爲須鉋鑿眞錐乃上爾毛損比無久。日爾異爾來氐勤留者乃。家爾毛身爾毛無喪無事志氐。行布業乃麗加良牟事波。取氐打釿乃音乃事々爾。總乃事爾障無良牟事波。劉行久木乃無悪節如久。行惱事無久滯留事無久。安久平介久此宮造里可造終久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

立柱祭

此は、世上一般に工事に關して、工匠の立柱を爲るに際し、先づ此の式を行ひ、建物の曲み傾く等の事なく、其の永く堅固に榮む事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○往頃釿乃始乃式行志與里（前日に釿始式をおこなひしこのかた）
○前爾行志釿始爾次氐（前に行ひし釿始式に次きて）
○日爾異爾勤美務氐（毎日つとめはげみ）
○工等乃勉美務氐（工匠等のつとめはげみて）
○屋保根止組立牟者乃限（屋骨と組立むものみな）
○組立牟屋船乃限波（組立てむ家屋のかぎりは）
○今日乎生日乃足日止撰比（今日を吉日と撰びて）
○今日乃生日乃足日爾（解上にあり）
○柱立乃式行止爲氐（柱立の儀式を執行ふとして）
○平介久安介久聞食氐（解上にあり）
○此乃祝立志柱波志毛（この祝ひ立てし柱はまあ）
○工等爾在氐波忘事無久（工匠等に在つては忘ることなく）
○爲志行牟例事爾至良志米（行ひ爲む例式の事に至らせ）
○取集志其木材乃中與里（取り集めし用材の中より）
○集多留大木小木乃中與里（集めてある大小の用木の中より）
○悉其乃木作乎成竟奴禮波（みな木作の事を仕終へたれば）
○其木作業乎竟志賀故爾（其の木作り業を終りしが故に）
○預留人乃總乎催立氐（關係する總體の人を催し立て）
○人多爾催立氐（多くの人を催し立て）
○御祭奉仕留狀乎（祭典を奉仕することを）
○此乃築立志柱波志毛（この築き立てし柱はまあ）
○萬代爾動事無久（萬代かけて動くことなく）

○風乃荒比雨乃進比（風雨のあれすゝ）
○雨風火水乃災無久（雨風また火難水害等のことなく）
○撓牟事無久朽留事無久志氐（撓み又朽ることなく）
○彌遠爾榮牟事波（萬代にさかえむことは）
○其災乃無良牟事波（其の災害の無らむことは）
○禍神乃禍事無久（惡しき神のなすあしきことなく）
○安穩爾速爾令造竟給止（安く穩に障りなく速に造り竟へさせ給へと）

作例

工事乎守給布神乃御前爾白左久。往頃釿始乃式行志與里。工等爾在氐波怠事無久。日爾異爾務米勤美氐。取集志其木材乃中與里。屋保根止組立牟者乃限。悪久其乃木作乎成竟奴禮波。今日乃生日乃足日爾。人多爾催立氐。柱立乃式乎行止爲氐。御酒御饌乎奠氐。御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。此築立志柱波志毛。萬代爾動事無久。風乃荒比雨乃進比。地震鳴神乃災爾不令逢。傾久事無久損布事無久志氐。自今將來。彌遠爾榮牟事波。建初志柱乃彌高爾。其乃災乃無良牟事波。打掛志綱乃遠長爾。禍神乃禍事無久。造成業乃毎日爾進行氐。安穩爾速爾令造竟給止。恐美恐美毛白須。

○地震鳴神乃災爾不令逢（雷災また雷災に逢はせず）
○傾久事無久損布事無久志氐（傾くことも損ふこともなく）
○自今將來（今より將來）
○建並志柱乃彌高爾（建て並べし柱の如く彌高に）
○打掛志綱乃遠長爾（打掛し綱の如く遠く長く）
○造成業乃毎日爾進行氐（造りなす工事の日々に進行して）

上棟祭

此は、世に建物の工事に關して、工匠の上棟を爲すに際し、先づ此の式を行ひ、取り上し棟の殿にして、建物に異狀なく立榮む事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此乃神社乎改造賀故爾（この神社を改造するが故に神社を御殿又は家屋とも改む）
○先頃與里工等諸（先頃よりもろ〳〵の工匠等）
○年月久爾工等諸（年月久しくもろ〳〵の工匠等）
○此神殿乎改造奉乎以氐（此の社殿を改造し奉るを以つて）
○朝夕爾心乎込氐（朝夕にこゝろを込めて）
○墨繩乃不撓一筋爾（墨繩の如く撓まず一すぢに）

○打振留手斧乃敏成遂牟止打振る斧の利きが如く早く成し遂んと
○今日其乃棟上乃式乎今日その棟上の式
○神職産子乃者乎始米神職産子の者を始め
○忌回里清回里乍忌みきよめながら
○平介久安介久聞食志首肯坐氐平らかに安らかに聞とらし承知せられて
○張掛志弓矢乃彌高爾張かけし弓矢の高か如く高く
○打掛志綱乃長久久打掛し綱の如く長く久しく
○棟高久飾志弓矢乃彌高爾棟に高くかざりし弓矢の如く高く
○引繩乃遠長爾木材を引く繩の如く遠く長く
○重里居坐氐鎮となり重り居たまひて
○吹進布風乃損比吹進む風のそこなひ
○常磐爾堅磐爾解上にあり
○勤美務米奉仕氐有禮波務め勤み仕へ奉りて有れば
○擧行止爲氐擧げ行ふとし
○事受持人々等乃關係の人々の
○御祭奉仕留狀乎祭典を奉仕する
○此乃殿舍波この御在所
○立添志御幣乃嚴爾立そへし御幣の如く殿冠に
○取上志棟木乃朽事無久取上げたる棟木の朽ることなく
○奉留御幣乃傾無久奉る幣物の傾くこと無きが如く
○屋船乃鎭止遠長爾家屋の鎭ととほく長く
○屋船乃鎭止固良加爾家屋の鎭と堅固に
○降頻留雨乃障里無久降りしきる雨の障りなく
○立榮牟御社止繁昌せんみやしろと

作例

御殿舍乎守坐須神乃御前爾白左久。此乃神社乎改造賀故爾。先頃與里工等諸。朝夕爾心乎込氐。墨繩乃不撓一筋爾。打振留手斧乃敏成遂牟止。勤美務米奉仕氐有禮波。今日其乃棟上乃式乎擧行止爲氐。御酒御饌種々乃物奠氐。神職産子乃者乎始米。事受持人々等乃。忌回里清回里乍。御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食首肯坐氐。此乃殿舍波。張掛志弓矢乃彌高爾。立添志御幣乃嚴爾。打掛志綱乃長久久。取上留棟木乃朽事無久。屋船乃鎭止遠長爾。重里居坐氐。吹進布風乃損比。降頻留雨乃障里無久。常磐爾堅磐爾立榮牟御社止。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

官衙開廳式

此は、世に各府縣廳其の他の公衙を建設し、此れが開廳の式を行ふに當り、先づ

其の官衙の榮え行む事を祈り、併せて職員の隆昌を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○世乎所知志民乎治留爾（世を治め民を治むるに）
○帝都爾波百官乎設介（みやこには百官を設け）
○國々爾波地方乃廳有氐（國々には地方廳ありて）
○世乃事乎統閉毎日爾政知氐（世間の事を統べ日日に政ことして）
○治民天下乎安良支坐事波（人民を治め天下を安くなし坐すことは）
○皇祖與里承傳坐須（皇祖より承傳へます）
○繼傳坐須御掟爾志氐（繼ぎ傳へます御定にして）
○此度何々乃官衙乎（此の度府縣又は郡役所などを）
○今日乃生日乃足日爾（此の生日の足日の吉日に）
○奉言祝留狀乎（言ほぎ申す狀）
○自今將來（今より往く先き）
○政乎調（まつりごとをととのへ）
○世乎所知食爾（世を政事を調へ世上を治むるに）
○朝廷爾波司々乎立（朝廷には司々を置き）
○諸事乎統閉種々爾政知氐（諸事をすべ種々に治めて）
○撫公民世乎安支坐事波（人民を撫て治め世間を安くなし坐すことは）
○我朝廷乃（我が國の朝廷の）
○大御手振爾志氐（大き御しきたりにして）
○最毛尊久辱支制度奈留爾（いとも尊く恐れ多き制度なるに）
○此處爾定給比建給氐（此の處に定め給ひ建たまひて）
○其事始乃式乎行乎以氐（その開始式を行ふを以つて）
○平介久安介久聞食氐（解上にあり）
○此官衙爾在氐（此の官衙内に在つて）
○此造立志廳爾在氐（この造り設へし廳内に在りて）
○毎日爾務留何々乎始氐（毎日務る長官吏官を始めて）
○其下司乃人々乃上爾毛（書記又は助役屬等の上にも）
○日爾異爾勤久務結比（日々に勤み務めしまり）
○持別氐取行布政事波（皆特別て取行ふ事務は）
○預禮留民草乃限乎諭導支（管治する人民の限りを諭し導き）
○其家業乎失布者無久（その家業を失ふ者なく）
○生業乃道乎怠留者無久（生業の道を怠るものなく）
○此乃譽波廣久世爾知良禮（この譽は世にひろく知られ）
○其乃功績爾依氐（其の功績により）
○此乃官衙乃（この役所の）
○事執給布何々乎始氐（事を決行し給ふ知事又は郡長を始めて）
○下僚乃諸員乃上爾毛（屬僚の諸員の上にも）
○禍神乃禍事無久（惡しき神の荒びなく）
○受持氐取扱布政事波（各自受持て扱ふ事務は）
○滯事無久誤事無久（滯ることなく誤ることなく）
○治行久民人乎懇爾導支（統治し行く民庶を懇切にみちびき）
○朝夕爾富榮來氐（朝夕に富榮えき）
○人草諸擊壞氐可悅久（人民もろ〳〵土壞を擊ちて悅ぶべく）
○朝廷爾毛高久聞延（朝廷にも高くきこえて）
○官位毛年々進乍（官位も年々に進みながら）
○彌遠爾立榮可久（いや遠に立ちさかえゆくべく）

作例

此乃官衙乎守給布神乃御前爾白左久。世乎所知志民乎治爾。帝都爾波百官乎設介。國々爾波地方乃廳有氐。諸事乎統閉。種々爾政知氐。撫公民世乎安良支坐事波。我朝廷乃。皇祖興里承傳坐須。大御手振爾志氐。最毛尊久辱支制度奈留爾。此度何々乃官衙乎。此處爾定給比建給氐。今日乃生日乃足日爾。其事始乃式乎行乎以氐。捧物奠氐。奉言祝留狀乎。平介久安介久聞食氐。自今將來。此官衙爾在氐。事執給布何々乎始米。下僚乃諸員乃上爾毛。禍神乃禍事無久。日爾異爾勤久務結氐。受持氐取扱布政事波。滯事無久誤事無久。預禮留民草乃限乎諭導支。其家業乎失布者無久。朝夕爾富榮來氐。人草諸聲地氐可悅久。此譽波廣久世爾知良禮。朝廷爾毛高久聞延。其功績爾依氐。官位毛年々爾進乍。此官衙乃彌遠爾立榮可久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

新宅祭

此は、世人の新に住宅を竣成し、其の移住するに際し、先づ此の式を行ひ、神護に依りて、永く災害なく、家門の益々繁榮せむ事を祈祝する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○工等賀取留御量以氐 工匠等が手に取る尺度を以つて
○此工等賀取傳布 此の工匠等がとりもち傳へたる
○長支短支量定米 長き短きをはかり定め
○本末打切里 本や末を打ちきりて
○悉久挽割里 悉く水挽し割く製材して
○普久木取氐 これを挽わりて
○鉋乃仕上清良加爾 美麗にかむなの仕上げ
○墨繩乃打違比無久 すみ繩の打違ひなく
○力乃限里思乎込氐 力の限りに思を入れて
○造立志此家波 建立なしたる此の家は
○遠久久榮行氐 遠く久しく榮え
○遠山近山與里持參來志 遠近の山々より持ち來りし
○重久尊支御量取持氐 尊び重んずべき尺度を持つて
○大木小木乎量定氐 大小の木材をはかり定めて
○是乎挽割里其乎木取氐 これを挽わりて製材して
○鑿乃穿乃不誤 鑿のみの穴あけ誤らず
○思乎凝志心乎込氐 思をこらし心を込めて
○鑿鉋乃跡乃麗久 鑿のみ鉋のあとのうるはしく
○造成多留此家波 建造なしたる此の家は
○萬代爾禍事無久 萬代までに惡しきことなく
○異支災比怪支禍事無久 奇怪なる災害なく

○萬代爾榮行氐（萬代に榮えゆき）
○家業乃道彌廣爾（家業の道いよ〳〵廣く）
○戸主親族家族毛睦久（戸主また一家族もむつまじく）
○乞祈奉留事乎聞食氐（請ひ願ひ申すことを聞とりして）
○築立志柱乃傾支（つき立し柱の傾き）
○打上志棟乃撓美（高く上げし棟木たわみ）
○打立志釘堅成須楔乃緩美（打立てし釘打堅めし楔のゆるみ）
○火乃災比水乃憂比（火災又水害）
○火爾毛水爾毛憂比不令有（火難水害等有らせず）
○甘美家乃（足りとゝのへる家）
○子孫乃蕃息里繁久（子孫の大きに繁昌して）
○生業乃道毛立榮氐（生業の道も繁榮して）
○無喪無事令有給止（何事も障ることなく有らせ給へと）
○今毛將來毛安久平爾（今も往く先きも平安に）
○引渡世留桁梁乃損比無久（よこに渡したるけた梁の損じなく）
○取葺留屋根乃噪支無久（取りそろへふきたる屋根がやのそゝけなく）
○戸窓乃錯比動鳴事無久（戸窓の組み合せ動き鳴ることなく）
○地震霹靂乃障無有事久（震災雷害等のこと無く）
○大震乃障霹靂乃災無久（強震雷火の災害なく）
○住家乃福家止遠永爾（吉家福屋と遠くながく）

作例

此家乎守給布神乃御前爾。種〳〵乃物奠氐奉言祝良久波。工等賀取留御量以氐。遠山近山與里持參來志。大木小木乎量定氐本末打切里。是乎挽割里。其乎木取氐。鑿乃穿不誤。鉋乃仕上清良加爾。思乎凝志心乎込氐。造成多留此家波。萬代爾禍事無久。遠久久榮行氐。子孫乃蕃息里繁久。家業乃道彌廣爾。戸主親族家族毛睦久。無喪無事令有給止。乞祈奉留事乎聞食氐。今毛將來毛安久平爾。築立志柱乃傾支。引渡世留桁梁乃損比無久。打上志棟乃撓美。取葺留屋根乃噪支無久。打立志釘。堅成須楔乃緩美。戸窓乃錯比動鳴事無久。火乃災比水乃憂比。地震霹靂乃障有事無久。甘美家乃佳家乃福家止。遠永爾。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

講演開始

此は、世に碩學有識の士を聘し、講演會を開始する時に、其の事を祝し、此れに依りて公衆の鴻益を蒙らむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○進行久御世爾連氐（文明の進み行く御時代に連れられて）
○世乃狀毛事繁久（世間のありさまも事多く）

○世乃開行爾隨比（世上の開け行くに）
○人乃行毛敏捷成行波（人の行爲も敏捷になり行けば）
○人乃動作毛敏久成波（人の動作もはやく成れば）
○一層乃烈美乎要留事爾氐（一層の激烈を必要とすることにて）
○貴止賤止乎無別事久（貴人と賤者とを差別することなく）
○物乃識別乎毛（ものゝ判別を）
○今日此處爾此乃事乎催志（今日此處に此の事を始めもよほし）
○聞持留事爾明介支（聞き知ることに明かに）
○何乃某乎招待氐（何の某を招待して）
○聞久事爾志有禮波（聞く事で有れば）
○各自心乎研支（各自に心を研き）
○各自思乎廣米心乎凝志氐（各々思慮を廣め心氣をこらして）
○我勤牟業乃任爾（我がつとむる業のまゝに）
○萬事毛事繁久（萬事に付きて事多く）
○此爾伴布用意波（此れに伴なふ用意は）
○此爾協波牟物事波（此れに協ひ合はむ物事は）
○貴人毛賤者毛（貴人も賤者）
○悉久事乃道理（道理）
○心得禰波不協事奈留乎以氐（心得ればならぬことなるゆゑ）
○學持留術爾廣久（學ひ知る道に廣く）
○學術爾秀氐知禮留事乃深（學術にすぐれ知識に深き）
○我毛人毛其乃講演乎（我も人も其の講演を）
○諸共爾其說乎聞爾至志加波（諸共に其の講演を聞くに至たれば）
○身乃知識乎廣米（身の知識を廣め）
○己賀營牟業乃隨爾（己が營む業のまゝに）
○力乎極米身乎盡氐（力を極め身をつくして）

○奇支事乎成遂介（不思議の事業を成しとげ）
○大留功績乎立氐（大きなる功績を立て）
○立榮留爾至可久（繁昌するに至る）
○明爾聞取留事乎得氐（明らかに聞取り得て）
○許多乃幸附令有給止（多大なる幸福の有らせ給へと）
○無例業乎成遂介（類例なき業をなしとげ）
○御代乃爲國乃爲止毛成氐（君の爲國の爲ともなりて）
○此乃講演乎（此の講演を）
○來集衆人乃上爾（來會の人々の上に）

作例

此講演乃事乎守給布神等乃御前爾。捧物奠氐奉言祝良久波。進行久御世爾連氐。世乃狀毛事繁久。人乃行毛敏捷久成行波。此爾伴布用意波。一層乃烈美乎要留事爾氐。貴人毛賤者毛。悉久事乃通理。物乃識別乎毛。心得禰波不協事奈留乎以氐。今日此處爾此乃事乎催志。學持留術爾廣久。聞持留事爾明介支。何乃某乎招待氐。我毛人毛其乃講演乎聞事爾志有禮波。各自心乎研支。身乃知識乎廣米。己賀營牟業乃隨爾。力乎極米身乎

盡氐。奇支事乎成遂介。大留功績乎立氐。御代乃爲國乃爲止毛成氐。立榮留爾至可久。此乃講演乎。明爾聞取留事乎得氐。來集衆人乃上爾。許多乃幸閉令有給止。恐美恐美毛白須。

戰勝祈願

此は、世に止を得ざる事の有りて、戰爭を開始するに至り、舉國一致其の事に當るに際し、我が軍の大勝を得て、敵國を降伏せしめむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此度我天皇波（此のたび我が天皇陛下は）
○敵對比奉乎以氐（敵對の行爲をなし奉るを以つて）
○何々國乃盟爾背支（何と云ふ國の誓に背き）
○大命乎下給志賀故爾（大詔を下し給ふが ゆゑに）
○陸海乃軍人波（陸海の兩軍人は）
○何國乃慨毛無禮久（某國のうれはしくも無禮に）
○其罪乎問世給止爲氐（其の罪を問はしめ給ふとして）
○無禮毛敵對比奉爾依氐（無禮にも敵對しまつるに依つて）
○難止乃事止茲爾開戰支（止を得ざると開戰をなし）
○大命乃隨爾打向氐（勅命に隨ひて戰場に打ち向ひ）

○千萬乃軍乎起氐（幾千萬の大軍を發して）
○海陸乃軍人波（陸海の軍人）
○雨止注支霰止飛來留（雨の如く霰の如く飛び來る）
○山止無久川止無久（山と云ふことなく川と云ふことなく）
○千里五百里爾亘里（幾百千村の多きに亘り）
○筒乃音波雷乃如久（大小の銃砲聲は雷の如く）
○躊躇布事無久顧事無久（猶豫することなく顧慮することなく）
○擊征米討亡志（うち糺し討ちほろぼし）
○軍艦乎馳連氐（軍艦をはせならべて）
○敵艦乃所在乎搜米（敵艦の所在を搜索し）
○大海原乃鹽乃八百路爾（大海中の波の上に）
○八鹽路乃大海中爾誘比（渺々たる大海中に誘ひ）
○殘方無久擊破里擊沈氐（敵艦を殘り無くうち破りうち沈め）
○征討膺懲志給賀故爾（征伐し膺懲し給ふが故に）
○丘爾連里里爾亘里（或は丘陵に亘り或は里村に連り）
○矢玉乎冒氐不顧（銃砲の彈丸を冒して顧みず）
○直進爾進行氐（一向に進みゆきて）
○山爾連里川爾續支（山嶺に連り川流に續き）
○飛來留矢玉雨止注止（飛來の彈丸は雨の如く降り注げど）
○敵軍乃有乃悉（敵の軍の有らむ限りことごとく）
○海軍爾在氐（海軍にては）
○幾十乃戰艦乎率氐（幾十隻の戰艦をつれて）
○潛居留港乃荒磯爾（彼等がかくれたる港の磯に）
○潛居留港乃內爾閉込米（彼のかくれ居る港の內に閉塞し）
○或波進擊知或波迎戰乍（あるは進擊を行ひ又は迎戰しつゝ）
○一日毛早久一日もはや

○敵國乎麻介降伏閉（敵國を風靡させ降伏させ）
○大功乎立給氐（大きなる功績を立てまして）
○速爾幸久平爾歸來可久（はやくつしがなく歸り來るやう）

作例

○大御稜威乎輝志（御威光を輝し）
○軍人諸乃家爾毛身爾毛恙奈久（出征者の家にも身にも障りなく）

何々神社乃御前爾白左久。此度我天皇波。何國乃慨毛無禮久。敵對比奉乎以氐。其罪乎問世給止爲氐。大命乎下給志賀故爾。海陸乃軍人波。大命乃隨爾打向氐。丘爾連里里爾亘里。雨止注支。霰止飛來留矢玉乎冒氐不顧。山止無久川止無久。直進爾進行氐。敵軍乃有乃悉。擊征米討亡志。海軍爾在氐波。軍艦乎馳連氐。敵艦乃所在乎搜米。潛居爾港乃荒磯爾。大海原乃鹽乃八百路爾。或波進擊知。或波迎戰乍。殘方無久擊破里擊沈氐。一日毛速久敵國乎麻介降伏閉。大御稜威乎輝志。大功乎立給氐。軍人諸乃家爾毛身爾毛恙奈久。速爾幸久平爾歸來可久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

陸戰奉祝

此は、我が陸軍の敵軍と戰ひ、連戰連勝を奏し、或は彼の根據地を占領したる等の戰捷を祝し、併せて天佑の顯著なりし事を奉謝する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○我皇軍爾在氐波（我が國の軍隊にては）
○斥候乃兵乎出志（斥候兵を出し）
○眞具爾戰乃設調氐（缺くる事なく戰爭の設うけを調へて）
○總軍乎三手爾分（總軍を三手に分け）
○事乎均久志手立乎共爾（事を均一にし手立を共にし）
○相携閉相告合氐（共に携へ共に知せ合ひて）
○降雨乃繁爾紛禮（雨降の繁にまぎれ）
○豫視察軍人乃告乎待氐（兼て敵狀視察の軍人の報告を待つて）
○敵乃爲行牟手立乎知里（敵の爲んとする手段を知り）
○敵乃施乍有事柄乎知里（敵の施しつゝある事がらを知り）
○互爾思乎通世謀乎一爾志（互に思慮を通じ謀計を一つにし）
○相援介相警氐（互に相たすけ互に相いましめて）
○闌夜乃闇爾紛禮（深夜の闇にまぎれ）
○敵乃思奴所爾迫到里（敵の思ほざる所に迫りいたり）

○敵味方乃撃交須矢玉波彼我両軍の撃ち交はす弾丸は
○雨霰與里毛烈久雨霰よりも烈しく
○飛火乃筒乃弾丸乃裂氐波砲弾の飛び来裂けては
○山乎揺里谷乎動志山谷をゆりうごかし
○果波張亘世留糸金乎切却終には張亘す鐵條網をも切断し
○右爾波逃惑布敵乎右には逃まよふあだを
○左爾波渦巻烟乃中爾左にはうづまく烟の中に
○彼方爾波退久敵乎追撃彼方には退却の敵を追ひうち
○夜中曉時止別事無久夜中曉時と別ちなく
○屍乃山乎築支屍の山をきづ
○屍波積氐山乎爲志かばれは積みて山を爲し
○攻寄留狀乃勇々志左波攻よる狀況の勇々しさは
○遂爾千萬乃敵乎平介得氐遂に千萬の敵の大軍を平けえて
○雨止降里霰止飛比雨の如くふり霰の如く飛び
○飛火乃筒乃音響波大砲の音の響は
○宇宙乎轟加志天地の間を轟かし
○山乎崩志谷乎埋米山を打くづし谷を打埋め
○或波石乎疊留堅壘乎攀或ひは石を積上し堅壘を攀のぼり
○筒先乃片刃以氐衝留銃劍の先もて衝とめ
○劍光如電志氐打戰比劍光電の如くして打たゝかひ
○此方爾波逆襲須留敵乎斬靡此方には逆襲するあだを斬靡け
○幾十里止云布長爾亘氐何十里と云ふ長き戰線に亘り
○血潮乃海乎湛乍血しほの海をたゝへつゝ
○血潮乃流波河乎爲志血しほの流は河を爲し
○天地乃神毛深久佑給介乍天神地祇も深く佑け給けん
○遂爾敵乃本津備乎打破遂に敵の根據地を打やぶり

○其籠居志處乎毛乘取志波その籠居せし處を占領せしは
○御助爾依者止御たすけに依る者と
○此御祭奉仕留狀乎此のお祭を行ふことを
○彌々益々ます〳〵
○最後乃勝波最後の勝利は

作例

○專皇神等乃もはら皇神等の
○悅比尊比辱美氐悅ひ尊びかたじけなみて
○平介久安介久聞食氐解上にあり
○我皇軍乃功高久我が皇軍の戰功は高く
○我國爾取得可久我が國に取り得るやう

何々神社乃御前爾白左久。我皇軍爾在氐波。豫氐視察軍人乃告乎待氐。敵乃爲行牟手立乎知里。眞具爾戰乃設調氐。總軍乎三手爾分。互爾思乎凝志謀乎一爾志。相援介相警氐。闌夜乃闇爾紛禮。敵乃思奴所爾迫到里。敵味方乃撃交須矢玉波雨止降里霰止飛比。飛火乃筒乃音響波宇宙乎轟志。山乎揺里谷乎動志。果波張亘世留糸金乎切却介。或波石乎疊米留堅壘乎攀。右爾波逃惑布敵乎。筒先乃片刃以氐衝留。左爾波渦巻烟乃中

爾。劒光如電志氐打戰。夜中曉時止別事無久。幾十里止云布長爾亘氐。屍乃山乎築支。血潮乃海乎湛乍。攻寄留狀乃勇々志左波。天地乃神毛深久佑給介牟。遂爾千萬乃敵乎平介得氐。其籠居志處乎毛乘取志波。專皇神等乃御助爾依者止。悅比尊比辱美氐。此御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。彌々益々我皇軍乃功高久。最後乃勝波我國爾取得可久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

海戰奉祝

此は、我が海軍の敵艦隊と戰ひ、每戰大勝を奏し、又は最後に該艦隊を全滅せしめたる等の戰捷を祝し、併せて天佑の顯著なりし事を奉謝する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○先頃與里待詫氐在志（先ころより待ちかねて居りし）
○我海軍乃人々波（我が海軍の人々は）
○敵等乃軍艦乘並氐（敵國の軍艦乘り連れて）
○霧隱禮寄來留事波（海霧を利用して攻め寄せ來る事は）
○夜晝止無久見張禮留沖乎（晝夜みはりて番かなし居る沖中を）
○夜闇爾紛氐近久事乎（闇夜に紛れて近つくことを）
○遠見乃船乃知世得氐（物見に出しおく船よりの報知をえて）
○戰乃設悉皆爾調閉（戰爭の準備悉くとゝのへ）
○戰闘乃旗彌高爾掲介（戰闘旗を高く掲げ）
○焚上留煙乎雲爾連禰（焚あぐる石炭の煙を天雲につられなびかせ）
○率多留艦隊乎（督率する所の艦隊を）
○三手爾分氐立向志賀（三組に分けて立ち向ひしが）
○近寄留敵艦毛程迫禮波（近よる敵艦も次第に迫れば）
○彼與里戰乎開志爾（彼れより戰を開きしに）
○其打越彈丸乃落氐波（其の丸の我が上を越え落ては）
○白浪涌上里水柱噴立（白浪わき上り水柱を高く噴立て）
○我打出須彈丸乃射中氐波（我が打つ丸の命中しては）
○艦腹廣良爾打鑿知（敵艦の横ばらをうちとほし）
○敵乃艦隊乃近寄留任爾（敵の艦隊の近よるまゝに）
○涌上留白浪高久（涌上る白波たかく）
○噴立留水柱凄久（噴立つる水柱ものすごく）
○艦乃上甚久打破里氐（艦上いたく打ちやぶりて）
○乘多留敵乃半乎死志米（乘居る處の敵兵の半を殺し）
○立並布艦上乃檣打折里（並立する艦檣を打折り）
○彈丸乃碎乃響止共爾（彈丸の爆烈しては其の聲と共に）
○肉飛比血迸志（肉がとび血が迸りし）
○其乃物凄支事（其のきびわるき）
○轟布可久毛有良奴乎（轟へる物もなきを）
○勝誇多留我軍人波（勝ほこりたる我が軍人は）
○矢叫乃聲乃（勇み叫ひて大砲を打放すこゑの）

○潮止共爾涌立爾（海潮の涌立つと共に涌立ち間ゆるに）
○馳寄留艦乎擊沈米（馳よる敵艦をうち沈め）
○飛火乃筒乃續牟限里（艦砲のつゝく かぎり）
○敵乃艦隊乎（敵國の艦隊を）
○漏須事無久遁須事無久（漏すことなく逃すことなく）
○向比來艦乎擊碎（向ひ來る敵艦をうち碎き）
○專皇神等乃一に皇神たち
○此悅乃御祭奉仕留狀乎（此の悅の御祭を行ふことを）
○敵對布國乃速爾（敵對する國の速に）

作例

何々神社乃御前爾白左久。先頃與里待詫氐在志。我海軍乃人々波。敵等乃軍艦乘並氐。霧隱禮寄來留事乎。遠見乃艦乃知世得氐。戰乃設完全爾

○勢比益々加氐（いきほひだんゝ加はりて）
○傾久艦乎打破里（傾く敵艦をうちやぶり）
○甲鐵乃艦乃保氐留極美（甲鐵艦の保ゝるゝきはみ）
○擊碎支擊沈氐（敵艦をうち碎き うち沈めて）
○平介得志波（悉く打ち平げ得しば）
○進得奴艦乎擊沈（進み得ぬ敵艦をうち沈め）
○厚支深支御助爾依者止（厚き深き御賞助に依るものと）
○平介久安介久聞食氐（解上にあり）
○奉靡里奉降伏留可久（伏從まつし降參まをすやう）

調。焚上留煙乎雲爾連氐。率多留艦隊乎。三手爾分氐。立向志賀。近寄敵艦毛程迫禮波。彼與里戰乎開志爾。其乃打越彈丸乃落氐波。白浪涌上里水柱噴立氐。我打出須彈丸乃射中氐波。艦腹廣良爾打鑿知。艦上甚久打破氐波。乘多留敵乃半乎死志米。彈丸乃碎乃響止共爾。肉飛比血迸里。其乃物凄支事。譬布可毛有良奴乎。勝誇多留我軍人波。矢叫乃聲乃潮止共爾涌立爾。勢比益々加氐。馳寄留艦乎擊沈米。傾久艦乎擊破里。飛火乃筒乃續牟限里。甲鐵乃艦乃保留極美。敵乃艦隊乎。擊碎支擊沈氐。漏須事無久遁須事無久。平介得志波。專皇神等乃。厚支深支御助爾依者止。此悅乃御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。敵對布國乃。速爾奉靡里。奉降伏留可久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

通常參詣

此は、世に官民共に、おのがじゝ各神社に詣づる事有り、此の時に相當の手順を

なし、其の參拜の次第を神前に奏上する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○何乃里乃某伊（何の里人の某よ）
○拜奉事乃由波（參拜するわけ）
○商法乃道毛毎日爾進氐（賢賈の業も日々に進歩して）
○朝爾參出夕爾退歸（朝に出仕し夕に退出し）
○無喪無事有經事波（何の變事もなく過き往くことは）
○專皇神乃（一向に皇神の）
○辱美尊美奉乎以氐（御惠を受けて嬉しみ樂しみ奉る故に）
○平介久安介久聞食氐（御上にあり）
○家門高久子孫毛繁久（家門の世にあらはれ子孫も多く繁く）
○子孫乃蕃息繁久（子孫の殖えひろがり多くしげくして）
○異事乃發事無久（異變の發生することなく）
○異行比爲事無久（異樣の行爲をなすことなく）
○今日此處爾詣氐（今日此の處の何神社に參詣して）
○己賀家業毛毎年爾榮（己が家業も毎年に繁昌し）
○公爾奉仕事不怠（公事に勤務すること怠らず）
○家內穩爾親族家族睦久（家內親族平穩に親睦に）
○恙奈久務詰氐有經事波（障りなく勤務して過き往くことは）
○恩賴爾依留者止（御恩德に依るものと）
○拜奉留狀乎（拜禮まうすことを）
○自今後毛家門榮（今より後も家門の繁昌し）
○各自壽長久（各自にいのち長く）
○各自建全壽長立榮（皆々丈夫健全に壽命長く繁昌し）
○惡病爾不令逢（あしき病に逢はせず）
○病志支事不令有（病氣などの有らせず）

○家居爲留町內安良加爾（家居する町內の安らかに）
○往行久鄕曲平介久（住居する鄕里の安らかに）
○彌遠長爾（いよ〳〵遠く）
○立榮可久（繁昌するや）
○公民乃作止作物能熟氐（農作物のよく熟して）
○天皇乃大御代波（天皇陛下の大御代は）
○茂志八桑枝乃如久（繁茂したる多くの桑の枝の如く）

作例

何々神社乃御前爾白左久。何里乃某伊。今日此處爾詣氐。拜奉事乃由波。己賀家業毛毎年爾榮。商法乃道毛毎日爾進氐。家內穩爾。親族家族睦久。無喪無事有經事波。專皇神乃恩賴爾依留者止。辱美尊比奉乎以氐。禮代乃物奠氐拜奉留狀乎。平介久安介久聞食氐。自今後毛家門榮。各自壽長久。子孫乃蕃息繁志氐。異事乃發事無久。惡病爾不令逢。家居爲留町內安良加爾。公民乃作止作物能熟氐。天皇乃大御代波。彌遠長爾。茂志八桑枝乃如久立榮可久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

成年式

此は、世に幼者の成年に達したる時、其れを奉祝するに際し、先づ此れが神恩に出づるを奉謝し、併せて將來、其の身の榮達を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○人身乃世爾生出氐（人間の世に生れ出でては）波
○父母乃厚支惠爾依氐（父母の厚き惠に依りて）
○麗支生立乎遂留者奈留乎（立派に成人するものなるを）
○此乎日足坐須身爾在氐（此を養育する身に在りては）波
○惱志支事不起（惱み氣の事起らず）
○病毛無久煩毛勿止（病も煩もなかれと）
○夜止不言晝止不言（晝夜の差別を言はず）
○思乎焦志身乎盡氐（思をこがし身をつくして）
○我毛人毛世爾生氐（我も人もともに世に生れては）波
○兩親乃深支惠蒙氐（兩親の深き惠みかゝぶりて）
○其乃生立乎遂留者奈留爾（その成人をする者なるに）
○此乎養比來志身爾坐氐（此を養育せし身にましては）波
○病志支事無禮止（病氣の事無くあれと）
○夜半曉時止別事無久（夜半曉時と差別なく）
○思乎盡心乎碎氐（思慮をつくし心血をそゝぎて）
○語里始留言問乎馴志（云ひ初めの言語をならし）
○遊比狂布身乎戒米（遊び狂ふ事の有るを戒め）
○數々乃學事毛令受習氐（小學より中學と數多き學事を習はせ）
○顯世爾愧留事無支身止（世に愧しからぬ身と）
○今何乃某伊（何の某よ）
○其身乃成年爾至志乎以氐（其の身の成年に達したるを以つて）
○其言壽乃式乎行止爲氐（その祝ひの式を擧ぐるとして）
○平介久安介久聞食氐（解上にあり）
○立世氐更爾無愧事身止（世に交りて少しも愧ること無き身と）
○又止無支辱支惠奈留爾（二つと無き親の惠なるに）
○其恩爾奉報牟止爲氐（その恩に報ゼん爲に）
○世爾大奈留功乎毛立氐（世に大きなる功績を立てゝ）
○年月積里行久任爾（だん〳〵歲月の積り行くに隨ひ）
○高等學事毛令修氐（高等の學科も修了させて）
○養乍在爾（養育しつゝ在るに）
○今年此月爾氐速毛（今年今月にて速くも）
○今日乃生日乃足日爾（解上にあり）
○其乃由乎告奉留狀乎（その次第を告げ申すことを）
○自今後乃生前愈偉久（今より後の生前いよ〳〵すぐれ）
○如此迄爾成志養給志波（これまでに養育し給ひしは）
○日足給志父母乃惠乎思（生長なさせ給ひし親の惠を思ひ）
○每爾家業乃道乎勤美（日々に家業をそしみつとめ）
○親名著久耀須爾至可久（祖先の名を著しく耀すに至るやう）

作例

何々神社乃御前爾白左久。人身乃世爾生出氐波。父母乃厚支惠爾依氐。麗支生立乎遂留者奈留乎。此乎日足坐身爾在氐波。惱志支事無久。病志支事無禮止。夜半曉時止無別事久。思乎盡志心乎碎氐。語里始留言問乎駈志。遊比狂布身乎戒米。年月積里行久任爾。數々乃學事毛令受習氐。顯世爾愧留事無支身止養乍在爾。今何乃某伊。今年此月爾氐速毛。其身乃成年爾至志乎以氐。今日乃生日乃足日爾。其言壽乃式乎行止爲氐。禮代乃物奠氐。其乃由乎告奉留狀乎。平介久安介久聞食氐。自今後乃生前愈偉久。日足給志父母乃惠乎想。其恩爾奉報牟止爲氐。每爾家業乃道乎勤美。世爾大奈留功乎毛立氐。親名著久耀須爾至可久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

新婚式

此は、世に人の子女たる者、結婚の禮を擧げ、子孫繼承の道を立つるに當り、先づ神護に依りて、夫婦睦じく一家相和し、家門を隆昌ならしむる事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此度何乃某伊此の度何の某よ
○嫡妻止定米正妻とさだめ
○聟君止定氐むこ君と定めて
○夫婦乃契乎爲行比夫婦の契をなし行ひ
○神御祖伊弉諾伊弉册神祖いざなぎの命いざなみの命
○男女乃理不誤男女の正理をあやまらず
○陰陽乃神乃故事爾基支めを二神の故事に基づき
○婦波内與里此乎助氐婦は内に居て此を助けて
○我妹乎措氐妹波不望止我が妻を措きて妻を外に望まじ
○我妹乃外爾妹波有不止我が妻の外に妻は有らじと
○盃結志氐契留此言乎盃結して契るこの言を
○何乃某乃娘何子乎何の某の娘何子を
○某氏乃若子乎某氏の息子を
○妹脊乃契乎取結比夫婦の契をとり結び
○娉乃禮乎行乎以氐結婚の式禮を行を以つて
○二柱神乃御跡爾倣比二神の御行跡にならひ
○此乃道乎開支坐志夫婦の道を開きまし
○夫波家乃總乎主里夫は家事の總てを主り
○我夫乃外爾夫波不重我が夫の外に夫は重れもたじ
○我夫乎措氐夫波不持我が夫をおきて夫は持たじ
○契里成須此乃言乎契り成す此の言を
○亂須事無久守行氐亂すことなく守り行きて

○互爾慕比共爾愛氐互に慕ひ共にかはゆがりて
○顯世爾惠深久行穩爾此の世に恩惠の深く行爲のおだやかに
○家業乎勤美務氐家業をはげみ務めて
○共爾極牟榮波志毛共にきはめん繁榮はまあ
○其乃世乎經可支齡波志毛其の世を經過すべきよはひはまあ
○梅乃匂乃香志支言乎以氐梅の匂の香しき言を以つて
○彌遠長爾令立榮給止遠く長く立榮えしめ給へと
○親族家族睦久家内親睦のも
○顯世爾仁厚久行正久此の世に仁惠の厚く行爲の正しく
○其家門乎高久興乍其の家門を高くおこしつゝ
○常磐乃松乃自枝毛繁久ときはの松の枝よりも繁く
○吳竹乃自千代毛久爾止くれ吳の千代よりも久しく
○子孫乃蕃息里繁久子孫ふえひろごりのしげく
○奉壽留事乎聞食氐祝き申すことを聞とらして
○慕比共爾愛氐

作例

何神社乃御前爾白左久。此度何乃某伊。何乃某乃娘何子乎。嫡妻止定氐。妹脊乃契乎取結比。嫂娶乃禮乎行乎以氐。神御祖伊弉諾伊弉册二柱乃神乃御跡爾倣比。男女乃理不誤。夫波家乃總乎主里。婦波内與里此乎助氐。我夫乃外爾夫波不重。我妹乎措氐妹波不望止。契里成須此言乎。亂

事無久守行氐。互爾慕比共爾愛氐。親族家族睦志久。顯世爾惠深久行穩爾。家業乎勤美務氐。其乃家門乎高久興乍。共爾極牟榮波志毛。常磐乃松乃自枝毛繁久。其乃世乎經可支齡波志毛。吳竹乃自千代毛久爾止。梅乃匂乃香志支言乎以氐。子孫乃蕃息里繁久。彌遠長爾令立榮給止。奉壽留事乎聞食氐。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

祈平産

此は、婦人の懷姙して、臨月に際し、其の身に障りなく、平安に分娩する事を得て、なほ母子ともに健全に日立ち行かむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此度何某乃妻何子伊此の度何の某の妻何子よ
○何町乃何某乃妻何町の何の某の妻
○月乃障乎見事無久月經を見ることなく
○去志何月乃頃與里去る何月の頃より
○去年秋何月乃頃與里去年の秋何月の頃より
○唯奈良奴身止爲氐常ならぬ身となりて

○互爾慕比共爾愛氐（互に慕ひ共にかはゆがりて）
○顯世爾惠深久行穩爾（此の世に恩惠の深く行爲のおだやかに）
○家業乎勤美務氐（家業をはげみ務めて）
○共爾極牟榮波志毛（共にきはめん繁榮はまあ）
○其乃世乎經可支齡波志毛（其の世を經過すべきよはひはまあ）
○梅乃匂乃香志支言乎以氐（梅の匂の香しき言を以つて）
○彌遠長爾令立榮給止（いよ〳〵遠く長く立榮えしめ給へと）
○親族家族睦久（家内親類のも睦じく）
○顯世爾仁厚久行正久（此の世に仁惠の厚く行爲の正しく）
○其家門乎高久興乍（其の家門を高くおこしつゝ）
○常磐乃松乃自枝毛繁久（ときはの松の枝よりも繁く）
○吳竹乃自千代毛久爾止（くれ吳の千代よりも久しく）
○子孫乃蕃息里繁久（子孫ふえひろごりのしげく）
○奉壽留事乎聞食氐（祝き申すことを聞とらして）

作例

何々神社乃御前爾白左久。此度何乃某伊。何乃某乃娘何子乎。嫡妻止定氐。妹脊乃契乎取結比。嫂娶乃禮乎行乎以氐。神御祖伊弉諾伊弉册二柱乃神乃御跡爾倣比。男女乃理不誤。夫波家乃總乎主里。婦波内與里此乎助氐。我夫乃外爾夫波不重。我妹乎措氐妹波不望止。契里成須此言乎。亂須事無久守行氐。互爾慕比共爾愛氐。親族家族睦志久。顯世爾惠深久行穩爾。家業乎勤美務氐。其乃家門乎高久興乍。共爾極牟榮波志毛。常磐乃松乃自枝毛繁久。其乃世乎經可支齡波志毛。吳竹乃自千代毛久爾止。梅乃匂乃香志支言乎以氐。子孫乃蕃息里繁久。彌遠長爾令立榮給止。奉壽留事乎聞食氐。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

祈平産

此は、婦人の懷妊して、臨月に際し、其の身に障りなく、平安に分娩する事を得て、なほ母子ともに健全に日立ち行かむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此度何某乃妻何子（此の度何の某の妻何子よ）
○何町乃何某乃妻（何町の何の某の妻）
○月乃障乎見事無久（月經を見ることなく）
○去志何月乃頃與里（去る何月の頃より）
○去年秋何月乃頃與里（去年の秋何月の頃より）
○唯奈良奴身止爲氐（常ならぬ身となりて）

○身重里來氐身おもり來りて
○遂爾腹胎乃身止成里遂に腹胎の身となりて
○近其乎可産事奈留乎以氐近く子を産むべきことなるを以つて
○父母乎始氐諸〻父母をはじめて人々みな
○深久思比煩氐有禮波深く心配して有れば
○一向爾大神乃恩賴乎一づに大神の恩賴を
○乞祈奉賀故爾乞願ひ申すが故に
○愈可産時爾臨氐いよ〻産べき時にのぞみて
○安久平加爾安く平らかに
○令産出給氐うみ出でしめ給ひて
○嬰兒毛惱志支事無久幼兒もなやましきことなく
○麗支若子乃如眞玉子乎麗しき若子の玉の如き子を
○生志嬰兒毛惱志支事無久うまれし幼兒も惱み煩はしきことなく
○身毛常奈良奴狀爾氐身も平常ならぬ狀にて
○今其可産月爾當氐有波今その出産すべき月に當りたれば
○身族家族諸〻親族家族もろ〻
○思比煩氐有禮波心配して有れば
○今日此處爾詣氐今日こゝに詣でゝ
○仰支奉止爲氐仰き申すと爲て
○其腹乃難堪奈留爾及氐波その腹のこゝへがたき時になりては
○惱牟事無久苦牟事無久惱むことなく苦しむことなく
○愛支若兒乃如眞玉子乎愛らしき幼兒の玉の如き子を
○母乃身毛病志支事無久母の身もやまひげなく
○諸共爾健全爾諸ともにたつしやに
○産志母毛煩志支事無久うみし母も煩ひ病しきことなく
○毎日爾麗久日立知行氐日に日にうるはしくそだち行きて
○無喪久無事久令有給止何事の障りも無う有らしめ給へと

作例

何々神社乃御前爾白左久。此度何某乃妻伊。去志何月乃項與里。月乃障乎見事無久。唯奈良奴狀身止爲氐。身重里來氐。今其乎可産月爾當氐有禮波。親族家族諸〻。深久思比煩氐。今日此處爾詣氐。一向爾大神乃恩賴乎。奉仰止爲氐。禮代乃物奠氐。乞祈奉賀故爾。其腹乃難堪奈留爾及氐波。惱牟事無久苦牟事無久。安久平加爾。愛支若兒乃如眞玉子乎令産出給乃。母乃身毛病志支事無久。嬰兒毛惱志支事無久。諸共爾健全爾。毎日爾麗久日立知行氐。無喪久無事久令有給止。恐美恐美毛白須。

初宮詣

此は、出産のことの有りて後に、嬰兒のはじめて産土神の社前に參詣して、其の神恩を奉謝し、且つ將來の御加護を祈請する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○大神乃知坐須産子奈留（大神の知り治め坐す産子なる）
○何乃某賀眞名子（何の某が實子）
○大神乃産子内奈留（大神の産子の内なる）
○何乃某賀若子（何の某が幼子）
○去志何月何日（過ぎし何月何日）
○其高支御惠爾依氐（其の高きお惠に依りて）
○産屋饒志久出生志與里（産室にぎ〳〵しく出生してより）
○其深支御護爾依氐（その深きおまもりに依りて）
○初聲饒志久出産志與里（初聲にぎ〳〵しく出生してより）
○今日幾十日爾成奴留乎以氐（今日幾十日になつたゆゑ）
○家内擧氐悅比壽支（家内中みなよろこびいはひ）
○親族家族悅比壽支（一家みな悅び）
○此乃處爾詣氐（この處に參りて）
○初宮參乃式奉行止爲氐（初宮參の式を仕へ奉るとして）
○奉拜留狀乎平介久安介久聞食氐（拜み申す狀を平らかに安らかに聞とらして）
○今毛往前毛（現在も將來も）
○毎爾恩賴乎幸給止（平生に恩澤を授けませと）
○蓄支神威乎令蒙給氐（いちじるしき御威德を蒙らせたまひて）
○母爾毛子爾毛病志支事不令有（母にも子にも病氣なく）
○子乃身爾毛母乃上爾毛無煩（子の身にも母の身にも煩ふことなく）
○安久健全奈留身止日立氐（安くたつしやなる身となりてそだちつゝ）
○安久平爾日立多志坐氐（安く平かにそだいしめまして）

○智慧深久才高支（智慧も才氣も人にすぐれて）
○奇支若子乃稀奈留幼兒止（不思議なる若子の世に稀なる幼兒と）
○成人乎遂介行氐（成長をなし行きて）
○末遂爾波皇國乃爲（末には遂に皇國の爲め）
○天皇乃御爲爾（天皇陛下の御爲に）
○大君乃爲國乃爲爾（君の爲め國の爲に）
○大功乎世爾立氐（大功を世間に立てゝ）
○其身乃榮顯著久（その身の榮達いちじるしく）
○無例支身乃榮乎得氐（世に類なき榮達を身に得て）
○郷乃譽毛彌廣爾奉揭氐（故郷の名譽をも世に廣く擧げて）
○父母乃名乎毛彌高爾奉揭（父母の名をも世に高く擧げ）
○彌遠爾可耀久（遠く世に耀かゝやう）
○皇神乃御護乃深支事乎（皇神の御守護の深きことを）

作例

何々神社乃御前爾白左久。大神乃知坐須産子奈留。何乃某賀眞名子。去志何月何日。其高支御惠爾依氐。産屋饒志久出生志與里。今日幾十日爾成奴留乎以氐。家内擧氐悅比壽支。此乃處爾詣氐。初宮參乃式奉行止爲氐。禮代乃物奠氐。奉拜留狀乎。平介久安介久聞食氐。今毛往前毛。毎爾恩

賴乎幸給氐。母爾毛子爾毛病志支事不令有。安久建全奈留身止日立乍。智慧深久才高支。味志幼兒乃良若子止。成人乎遂行氐。末遂爾波皇國乃爲。天皇乃御爲爾。大功乎世爾立氐。其乃身乃榮顯著久。父母乃名乎毛彌高爾奉揭氐。皇神乃御護乃深支事乎。彌遠爾可耀久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

立願奉賽

此は、世人の自身に深く念願する事の有りしに、卒に其の成功を遂げて、神恩の辱を悅び、此れが奉賽の誠を致し、併せて將來の繁榮を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此乃何乃某伊（此の何の某）
○去志年思起志有事氐（先年思起し、ことありて）
○右爾左爾其成果牟止（いかにもして其を成しほてんと）
○先頃與里思催須事有氐（先頃より思爲すること有りて）
○一向爾其乎成得牟止（一向に其を成しとげんと）
○不怠其事乎務來志賀（怠らずそのことを務め來しが）
○思乎焦志心乎碎支（思のかぎり心のかぎりをつくして）
○觸折氐乃災比無久（時に當りての災害なく）
○依時氐乃過無久（時に依りての過失なく）
○安良加爾全支結乎告麻志止（安全なる結果を成さうと）
○朝夕爾心乎碎志毛（朝夕に心を盡しいも）
○人乃力爾波限有事奈禮波（人力には限りの有ることなれば）
○深久大神乃神助乎蒙乎止（深く大神のお助をかうむらんと）
○毎日爾其恩賴乎奉仰志爾（毎日その御恩賴を仰ぎ願ひ奉りしに）
○志乃程乎毛果志加波（志の程をも成しとげしかば）
○今日此處爾詣氐（本日此のところに詣で）
○奉拜留狀乎平介久安介久聞食乃（ながみ申すことを平安に聞とらして）
○總乃事爾禍事無久（總の事にあしきことなく）
○奉留榊葉乃自繁毛繁久（今奉る榊葉の繁きよりも繁く）
○身毛直知良爾務來志賀（身もたゞしらずに務め來しが）
○附物氐乃難美無久（物について難儀なく）
○當事氐乃障無久（事に當りての障害なく）
○全久麗久結乎得麻志氐（善美なる結果を得やうと）
○日爾異爾力乎盡志毛（日に〳〵力をつくしいも）
○人乃事爾禮難及者有禮波（人事には及びかねるものあれば）
○專皇神乃御惠乎蒙牟止（專ら皇神のお惠を蒙らうと）
○此度愈其事乎成遂氐（此の度いよ〳〵其の事を成しとげて）
○其御惠乎嬉比辱美奉氐（その御惠をよろこびうれしみ奉りて）
○賽乃禮事乎奉仕止爲氐（報賽の禮事を爲し奉るとして）
○自今將來（今より往さき）
○遠久悠久立榮牟事波（遠く永く繁榮せむことは）
○其譽乃世爾耀牟事波（その名譽の世にあらはるゝことは）

○拍手乃音乃自高毛高久（今拍手する其の音の高きよりもたかく）
○茂志八桑枝乃如久（生ひ茂る桑の立枝の如く）
○守給比幸給氐（守り幸へまして）

作例

何々神社乃御前爾白左久。此乃何乃某伊。先頃與里思催須事有氐。一向爾其乎成志得止。不怠其事乎務來志賀。觸折氐乃災比無久。附物氐乃難美無久。安良加爾全支結乎告廡志止。朝夕爾心乎碎志毛。人乃力爾波有限事奈禮波。深久大神乃御助乎蒙牟止。毎日爾其乃恩賴乎奉仰志爾。此度愈其事乎成遂氐。志乃程乎毛果志、加波。其御惠乎嬉比辱美奉氐。今日此處爾詣氐。賽乃禮事乎奉仕止爲氐。禮代乃物奠氐。奉拜留狀乎。平介久安介久聞食氐。自今將來。總乃事爾禍事無久。遠久悠久立榮牟事波。奉留榊葉乃自繁毛繁久。其譽乃世爾耀牟事波。拍手乃音乃自高毛高久。守給比幸給氐。子孫八十連聯爾至廡氐。茂志八桑枝乃始久。令立榮給止。恐美恐美毛白須。

○子孫乃八十連聯爾至廡氐（子々孫々の末に至るまで）
○令立榮給止（繁榮せしめ給へと）

祈養蠶

此は、世上各地にて、養蠶を營む人々、好良の結果を見む事を、日夜に苦心焦慮すれば、卽ち神護に依りて、其の幸福を蒙らむ事を願ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此縣乃風習止爲氐（此の縣内の風習として）
○此縣波昔與里乃慣止（此の縣内は昔よりの習慣と）
○悉久養蠶乃業乎營氐（養蠶の業をなして）
○外爾類毛無久盛奈禮波（他に類もなく盛りなれば）
○獨住牟刀自毛（獨身の婦人も）
○男女乃別乎不言（男女の別ない）
○人々家々爾（人々の家々に）
○到處家々爾（一般の家々に）
○其事乃月爾進美年爾榮氐（其の事の年に月に進歩して）
○緣類無支嫗毛（縁者もなき女も老）
○老留爾毛若毛均久（老人も若者も一同に）
○朝夕爾桑取務氐（朝夕に桑の葉摘のことをつとめて）

○毎日爾皆桑取務氐毎日みな桑摘のことをつとめて
○大神乃恩頼乎幸坐氐大神の御恩德を幸へまして
○時乃氣乃障毛無久時候の障りもなく
○雨乃障里寒左乃害比無久雨濕のさはり寒氣のそこなひなく
○心能久宇麻波利行氐心地能くそだち行きて
○夜晝止無久建全爾夜ろ晝るとなくすこやかに
○麗久作繭乎令逐坐氐立派に繭つくりを遂げさせて
○晝波終日爾心乎盡志日中は終日に心をつくし
○勞支務志効毛著久勤勞せし効能も著しく
○他年爾無支能支事爾氐他年に無きよき價格にて
○行氐賣渡須代毛往て賣る代價
○其幸波人々爾普久其の幸福は人々一統に
○大御代乃榮乎悅比御代の御榮榮をよろこび
○不撓不怠勤氐有禮波解怠なくつとめて有れば
○各自賀養布處乃者波各もくが養ふ處の者は
○昆虫乃災爾毛不令逐昆蟲の災にも逐せず
○日爾異爾建全爾日々にすこやかに
○漏事無久落方無久漏れ落る方なく
○里々家々遺方無久里々家々みなのこりなく
○家人乃限里一家内の人のかぎり
○夜波終霄爾思乎碎氐夜中は徹宵に思をくだきて
○買收留價毛賣渡利益毛買ひとる價格も賣わたす利益も
○來里買者乃價毛來て買ふ者の價格も
○例稀奈留利益乎得事爾氐先例のなき利益を得る事で
○此乃潤波家々爾蒙乍此の利益は家々ともにありて
○大神乃御惠乎稱都可久大神の御恩德を賀ひはやすやう

養蠶乃事乎守給布神乃御前爾捧物奠氐。乞祈奉良久波。此縣乃風習止爲氐。人々家々爾。悉久養蠶乃業乎營氐。其事乃月爾進美年爾榮氐。緣者無支嫗毛。獨住牟刀自毛。朝夕爾桑取務氐。不撓不怠勤氐有禮波。大神乃恩頼乎幸坐氐。各自賀養布處乃者波。時氣乃障毛無久。昆虫乃災爾毛不令逢。日爾異爾建全爾。心能久宇麻波利行氐。漏事無久落方無久。麗久作繭乎令逐坐氐。家人乃限里。晝波終日爾心乎盡志。夜波終霄爾思乎碎氐。勞支務志効毛著久。買收留價毛賣渡須利益毛。他年爾無支能支事爾氐。其幸波人々爾普久。此乃潤波家々爾蒙乍。大御代乃榮乎悅比。大神乃御惠乎稱都可久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

作例

釀酒祈願

此は、世に酒の醸造を營む者、其の例を遠へす、其の事を調へて從事せれど、尙神護に依りて、造酒の上に好果を得む事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此乃何乃某伊解上にあり
○酒倉器祓比淨氐酒造藏その器物をはらひ淨めて
○其器及比酒倉與里其の器物及び酒造藏より
○竈乎毛祓淨火乎改米竈をも祓ひ淨め火をも改め
○釀造乃事爾預留人々造酒のことに關する人々
○事始米行志與里其の事始をなしてより
○朝目能久曉掛氐朝はやく目覺よく明方かけて
○壽歌乎酒桶爾立氐祝ひ歌を酒桶に唱へ立てゝ
○直壽爾壽令狂志打つけに祝ひ狂ろはし
○釀里奉仕留此淸酒波造り申す此の淸酒は
○家乃業止毎年爾家業として毎年
○毎年爾家業止志氐毎年に家業として
○竈新爾火乎鑽出釜所に新氣に火を打ち出して
○主人掌酒乃人々諸主人また造酒人みな〳〵
○持忌回里淸回氐いみ淸め
○日爾異爾怠事無久毎日怠ることなく
○曉掛氐毎朝爾明方かけて朝ごとに
○酒桶爾壽歌立氐酒桶に祝ひ歌をうたひ立てゝ
○豐壽爾壽令回氐大きに祝ひ回して
○過事無久損事無久仕過ち仕損ふことなく

○腐禮須損須爲氐腐りまた損ぜずして
○汲人乃心笑酒止汲む人の心ゑましく思ふ酒と
○天下爾珍志美貴禮氐天下に珍重され貴重されて
○內外乃國到留處爾內外の國中到る處に
○貴償比喜求良禮氐貴重して買はれ喜悅して求められ
○無果久無極久弘留可久行きつまり無く弘まるやう
○言壽支奉留事乎祝ひ申すこと
○飲人乃思比慰酒止飲む人の慰むやう思ふ酒と
○顯世爾賞囃禮乍此の世の中に賞め囃されつゝ
○內國外國乃別知無久內國外國の別ちなく
○彌廣爾彌遠爾いよ〳〵廣く遠く
○賞囃志價比求良禮氐賞め囃し買ひ求られて
○古乃酒壽乃古言乎以氐古への酒壽の古言を以つて
○平介久安介久聞食氐解上にあり

作例

某神社乃御前爾白左久。此乃何乃某伊。家乃業止毎年爾。酒倉器祓比淸氐。竈新爾火乎鑽出。主人掌酒乃人々諸。持忌回里淸回里。事始米行志與里。日爾異爾怠事無久。朝目能久曉掛氐。壽歌乎酒桶爾立氐。直壽爾壽令狂志。豐壽爾壽令回氐。釀里奉仕留此淸酒波。過事無久損事無久。飲人乃

思比慰酒止。汲人乃心笑酒止。顯世爾賞嘉禮乍。內國外國乃別無久。彌廣爾彌遠爾。貴償比喜求良礙氐。無果久無極久。世爾弘留可久。古乃酒壽乃古言乎以氐。言壽奉留事乎。平介久安介久聞食氐。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

祈海獵

此は、世に天候の嶮惡なること數旬に亘りて、海獵の道絶え、漁村の災ひ甚しければ、神助に依りて其の天候を回復し、稀世の海獵有らむ事を祈願する事なり。

依りて其の意を述ぶべし。

○往志頃與里過しころよ
○此乃無涯南乃海原此の涯限なき南の海面
○此程久志久夜晝乎不別此のほど久しく晝夜を別たず
○風吹支閑却麻須風吹きやま
○月乎重禰日乎連氐幾月も幾日
○果知良奴此乃北乃海爾行きとまりの知られぬ此の北海に
○荒浪立知進比荒きなみの立ちあれすゝみ
○浪立荒禮風吹進比浪立ちあれ風吹きすゝみ
○人々乃捕魚爲牟途絶氐人々の漁獵する途のたえて
○處乃災比甚深久漁村の災ひどう深く
○所爲便知良爾此處爾詣氐せん方しらず此の處に參詣して
○此狀乎愍止聞食氐此の有狀をあはれと聞とらして
○大海原乃限大海中の限り
○廣支海原忽爾風吹收里廣き海原は忽に風ふき收り
○庭能久成來氐沖の平穩になり來て
○設調閉舟馳出志設うけを調へ舟をはせ出し
○夜留晝留不別晝夜別たず
○乘舟乃寬乃多寬爾樂舟のゆるやかに
○浪間照留日乃暑爾毛浪まを照る日の暑さにも
○果知良奴沖乃利益止果しらぬ沖の利益と
○大小支鱗族乃限里大小の魚類のかぎり
○浦曲乃災不淺漁村の災ひ淺からず
○男女爾至麻氐憂惑波比男女に至るまで心配し惑ひ
○皇神乃御惠乎奉仰乎以氐皇神のお惠を仰ひ願び申せば
○安奈那比給氐助け給ひて
○立浪乃喧支靜里立浪のさわぎ靜り
○立海乃靜里行氐立浪のしづまり行きて
○各自勇美悅比人々みな勇み悅び
○機差下志舟乘出機を下し舟を乘出し
○引網乃絶事無久引あみの絶えることなく
○八鹽路乃辛支思乎忘禮海中の心配をわすれ
○沖吹久風乃夜寒爾毛沖をふく風の夜さむにも
○鰭廣物鰭狹物乎漁來氐大魚小魚を取りきて
○生業乃道爾務留事乎得氐生業の道を務ることを得て

○彌遠長爾（岸上に あり）
○海幸多爾令有給止（海中の幸福を多く 有らせ玉へと）

作例

何々神社乃御前爾白左久。往志項興里月乎重禰日乎連氐。此乃無涯支南乃海原。荒浪立知進比。風吹支閑却麻須。人々乃捕魚爲牟途絶氐。浦曲乃災不淺。男女爾至麻氐。憂比惑波比。所爲便知良爾。此所爾詣氐。皇神乃御惠乎奉仰乎以氐。此乃狀乎愍止聞食志安那奈比給氐。大海原乃限。立浪乃喧支靜里。庭能久成來氐。各自勇美悅比。設調閉舟馳出志。夜留晝留不別。引網乃絶事無久。乘舟乃寬乃多寬爾。鰭廣物鰭狹物乎漁來里氐。生業乃道爾務留事乎得氐。彌遠長爾。寄浪乃重久重久爾。海幸多爾令有給止。恐美恐美毛白須。

○寄海乃重久重久爾（寄る浪の如くしきりにより〳〵て）

祈獸獵

此は、世に有志者の相謀りて、ある山野に遊獵を催すに際し、神護に依りて其の事に障害なく、且つ獵獲の獸類も、許多ならむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此裙野乃原興里（此の山の裾野のはらより）
○毛乃荒物毛乃和物（大小の種々のけもの）
○此山乃峽興里何乃峰爾掛氐（此の山の間より何の峯にかけて）
○猪鹿兎乃無別久（猪鹿兎の別ちなく）
○耕作物乎荒爾上爾（耕作物を荒すが上に）
○田畑乃物乎荒志（田畑の作物をあらし）
○時乎經年積留隨爾（時を經年のつもるまゝに）
○猪乃足跡波至處爾繁久（猪のあし跡は至る處に多く）
○何乃峯爾亘氐（何々の峯に亘りて）
○猪止無久鹿止無久（猪となく鹿となく）
○獵獲可支獸類（獸の類）
○年久爾蕃息里住氐（年久しくふえひろがり住て）
○折止爲波人爾毛迫氐（時々には人にも迫り來りて）
○或波人爾毛迫里來氐（あるは人にも迫り來りて）
○許多乃年月乎過來隨爾（許多の年月をすぎ來りしまゝに）
○群留鹿乃戴角（群る鹿の頭の波角は）

○枯木乃末爲氐（枯れ木の末の如くに）
○有志紳士等事謀氐（有志の人々等の相談して）
○獵人諸止心乎合世（獵師の者等と心を合せて）
○獵人多爾催志立氐（獵師を多く屢ひ催し立て）
○毎日其乃事乎行賀故爾（毎日其のことを行ふが故に）
○皇神等毛御心乎（皇神等も御こゝろに）
○進比給事無氐（荒び給ふことなく）
○獵場爾立人乃限爾（獵場に降り立つ人の限りは）
○身爾災乎不受（身にわざはひを受ず）
○安久穩爾守給氐（安穩に守り給ひて）
○山幸多爾令有給止（山獵の獲物の多く有らせ給へと）
○其噴息波朝霧止立程奈禮波（そのつく息はあさ霧とまで見ゆるほどなれば）
○何々會乃有志者事謀里（何會社の有志者の相談して）
○大爾此乎獵取牟止（大きに此れを獵かり取うと）
○自今日始氐幾日乃間波（今日から何日間の中は）
○悉久此乎獵得牟者止（悉く此を獵りとらんものと）
○此乃事乎嘉久聞食氐（此のことを好しと聞きとらして）
○咎米給事無久（咎め給ふことなく）
○獵爲留人乃限波（獵する人の限りは）
○危事不令有（危きことあらせず）
○平久樂久心由久迄爾（平らかに樂しく心に滿足するまでに）

何々神社乃御前爾白左久。此乃裙野乃原與里。何乃峯爾亘氐。毛乃荒物毛乃和物。猪止無久鹿止無久。年久爾蕃息里住氐。耕作物乎荒賀上爾折爾波人爾毛迫氐。災乎爲事不少。時乎經年積留隨爾。猪乃足跡波至處爾繁久。群鹿乃戴角波枯木乃末爲氐。其噴息朝霧止立程奈禮波。有志紳士等事謀氐。獵士諸止心乎合世。大爾此乎獵取牟止。自今日始氐幾日乃間波。毎日爾其乃事乎行賀故爾。皇神等毛御心爾。此乃事乎嘉久聞食氐。進比給事無久。咎米給事無久。獵場爾立人乃限波。身爾災乎不受。危事不令有。安久穩爾守給氐。平久樂久心由久迄爾。山幸多爾令有給止。恐美恐美毛白須。

海上安全

此は、世に海上を航行するに際し、風波の難、其の他の災害無らむ事を欲し、神護に依りて、其の安全ならむことを祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此度何乃某解上に
○此乃月何日解上に
○難止事乃發志乎以氐止むことを得ぬことの發りしゆゑ
○何乃港乎差氐伊渡行波何の港を指てわたり行けば
○其乃船路行久間波其の船路をゆく間は
○立浪乃憂無久荒浪の憂なく
○雨風乃進比無久雨風の荒び進びなく
○積多留荷乃損比積込みたる荷物のそんじ
○積入志荷乃紛禮積入し荷物のまぎれうせ
○其船長乃心毛厚久深久其の船長の心も航海の事に厚く深く
○立走里務牟立ばしりしてつとめむ
○受持業乎怠事無久受持の業を怠ることなく
○直久正久行務氐正直に行ひつとめて
○家業乃事乎以氐家業のことに
○何乃浦興里船乗出氐何の浦より船のり出て
○此港興里船出志氐此の港より船出して
○其海中乎渡間波その海中を渡る間は
○皇神乃御護爾依氐皇神の御護りに依りて
○吹風乃障無久大風のさはりなく
○立浪乃障無久大きに立つ浪のさはりなく
○載多留品乃破禮取り載せたる品物のそんじ
○携帯志物乃失比不令有携へし物品の紛失あらせず
○船馳乃事爾思誤事無久航海のことに思ひ誤ることなく
○船員等毛忠實爾船員等も忠實に
○夜留晝止不言夜る晝るといはず
○船乗乃術爾心乎盡志船乗の所作に心をつくし
○己賀受持業乎誤事無久己が受持の業を誤ることなく
○心危久驚支氣遣布事無久心危く驚き氣遣ふことなく
○無果支大洋乃上乎行身毛果なき大洋の上を行く身も
○遙介支浪路毛直馳爾遠き海上もひとはしりに
○思比安良爾樂乍安らかに思ひ樂しみながら
○惱事無久苦事無久惱むことなく苦むことなく
○客人乃限波各自乗客のかぎりは各自
○千尋乃浪上乎渡身毛千尋もある深き海面の浪上を渡る身も
○廣支陸上乃在家内如久廣き陸上なる家内に在るが如く
○船乃動搖毛不知志氐船の動搖も知らずして
○八重乃鹽路毛穩爾遠き海路もおだやかに
○平爾往氐可歸久平らかに往きて安く歸り來るやう

作例

何々神社乃御前爾白左久。此度何乃某。家業乃事乎以氐。此月何日。何乃浦興里船乗出氐。何乃港乎差氐伊渡行波。其海中乎渡間波。皇神乃御護爾依氐。立浪乃憂無久。吹風乃障無久。積入志荷乃紛禮。携帯志物乃失比不令有。其船長乃心毛厚久深久。船馳乃事爾思誤事無久。立走里務牟船員等毛忠實爾。受持業乎怠事無久。夜留晝止不言。直久正久行務氐。客人

乃限波各自。心危久驚支氣遣布事無久。千尋乃浪乃上乎渡身毛。廣支陸上乃家内爾在賀如久。船乃動搖毛不知志氐。思比安良爾樂乍。八重乃鹽路毛穩爾。惱事無久苦事無久。平爾往氐可歸來久。守惠美幸給止。恐美恐美白須。

旅行安全

此は、世に旅行を爲すに際し、風雨水火の障り、途上船車の災等の無らむ事を欲し、神護に依りて安全ならむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○何乃某此度商業爾附氐（何の誰此の度商業につきて）
○何縣乃官吏爾被任氐（何縣の官吏に任ぜられて）
○其設調閉旅立乎以氐（その設けた調へて旅立なもつて）
○夜留晝止無久（夜る昼と無く）
○皇神乃御護乎得氐（皇神の御守を得て）
○來牟何日定乃隨々（來る何日と定のまに〳〵）
○此月乃何日止日乎定氐（此の月の何日と日を定めて）
○旅路爾在間波（旅中にある間は）
○其旅行久間波（其の旅行の間は）
○身乃健全爾有經牟事乎（身のたつしやに有りふることを）
○身毛恙奈久有經留事乎（身に恙がなく有りふることを）
○今日此處爾詣氐（今日此の處に詣て）
○平介久安介久聞食氐（解上にあり）
○厘奈留處乎乘留車爾毛（近き處を乘る車にも）
○災乃起留事無久（災の起ること なく）
○時乃間乃休乃軒端爾毛（一寸の休息する家にも）
○過乃有留事無久（あやまちの有ることなく）
○或波雪乃爲爾塞良禮氐（あるは降雪の爲に塞られて）
○或波風乃爲爾滯里氐（又風の爲に滯留して）
○家在留人々乃身爾毛（家なる人々の身にも）
○其身波素與里（自身はもとより）
○鐵道乃瀛車乃直馳爾毛（鐵道の車のひとにしりにも）
○其乃行合爾起留無災久（其の行き合にて起る災なく）
○願奉賀故爾（おれがひ申すが故に）
○乞祈奉留狀乎（祈願する狀を）
○一里乎行久車爾乘爾毛（一里を行く車に乘にも）
○乘乃過無久（乘たる中にあやまり無く）
○一夜乎明須宿爾毛（一夜を宿る旅舍にも）
○禍事乃發事無久（悪しき事の發ることなく）
○或波水乃爲爾隔良禮（あるは出水の爲に隔られ）
○或波雨乃爲爾留里（又雨の爲に逗留し）
○打惱牟事有事無久（惱むこと有ることなく）
○無喪久無事久（何ともなく）
○異支病爾犯留留事無久（あやしき病にかゝることなく）
○浪路乃船乃束間爾毛（海路の船の一時の間にも）
○雨風乃障毛不令有（雨風の障も有らせず）

○安久平介久幸久穩爾安く平に幸におだやかに

作例

何々神社乃御前爾白左久。何乃某伊。此度商業乃事爾附氐。來年何日定乃隨爾。其設調閉旅立乎以氐。旅路爾在間波。夜留晝止無久。皇神乃御護乎得氐。身乃健全爾有經牟事乎。奉願賀故爾。今日此處爾詣氐。禮代乃物奠氐。乞祈奉狀乎。平介久安介久聞食氐。一里乎行久車爾乘爾毛。乘乃過無久。一夜乎明須宿爾毛。禍事乃發事無久。或波水乃爲爾隔良禮。或波雪乃爲爾塞良禮氐。打惱事有事無久。家在留人々乃身爾毛。無喪久無事久。其身波素與里。異支病爾犯留々事無久。鐵道乃流車乃直馳爾毛。浪路乃船乃束間爾毛。其乃行合爾起留無災。雨風乃障毛不令有。安久平介久幸久穩爾。令歸來給止。恐美恐美毛白須。

○令歸來給止 歸り來らせ給へと

病氣平愈

此は、世に生民の疾病に罹る事有りて、名醫國手の手を煩すも、燦たる効を見るに至らざるに際し、神明の靈德を垂させ給ひ、速に全快せむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此里人何某 此の里人何の誰
○無故毛病乎得氐 故なくも病を得て
○閼熱懊惱乍有乎以氐 ねづになやみつゝ有るを以つて
○親族家族打寄里 親戚家族どもより集りて
○胷差押閉肩押摩里 胷を押へ又は肩をさすり
○其爲乃限乎盡志 其の出來得る限をつくし
○其奇支極乎施志 其の妙藥の限りを施し
○妙奈留藥波有乃限乎施止毛 妙藥は有の限をほどこせども
○去志何月乃頃與里 いにし何月の頃より
○不量毛時乃氣爾感氐 思ひ掛けず時候の氣にかんじて
○毎日爾重乍惱苦乎以氐 毎日おもりつゝなやみ苦むを以つて
○夜止無久晝止無久 解上にあり
○治留醫師毛 主治の醫師
○與留藥毛 呑する藥
○醫師乎選氐此乎治米 良醫を選みて此れを治めん
○更爾其驗有事無久 一向に其の驗しの有ることなく

○所爲便知良爾ぬ故に
○大神乃恩頼乎大神の御恩徳
○其煩比苦牟惱乎波その煩ひ苦しむなやみなば
○大御惠乎幸給氐大きなるお惠を下し給ひて
○速雨乃塵打洗賀如久急雨のちりを洗ふが如く
○夕立爾暑乃冷廡留賀如久夕立に暑氣の消ゆるが如く
○癒給比直給氐癒し直しまし
○健全爾樂身止たつしやに樂しき身と

○此所爾詣氐此の所に詣て
○奉仰賀故爾願ひ申すが故に
○一日毛早久一日もはや
○熖留火爾水打注賀如久もゆる火に水を注ぐが如く
○朝風乃霧吹拂賀如久朝風の霧ふき拂ふが如く
○身内燦然爾殘方無久身内さはやかに殘る方なく
○速爾元乃如久はやく元のやうに
○成志幸給止なし幸へませ

作例

何々神社乃御前爾白左久。此里人何某。去志何月乃頃與里。無故毛病乎得氐。悶熱懊惱乍有乎以氐。親族家族打寄里。夜止無久畫止無久。胷差押閉肩押摩里。治留醫師毛。其爲乃限乎盡志。與留藥毛。其奇支極乎施止毛。更爾其驗有留事無久。所爲便知良爾。此處爾詣氐。大神乃恩頼乎奉仰賀故爾。其煩比苦牟惱乎波。一日毛早久。大御惠乎幸給氐。熖留火爾水打注賀如久。速雨乃塵打洗賀如久。身内燦然爾殘方無久。癒給比直給氐。速爾元乃如久。健全爾樂身止。成志幸給止。恐美恐美毛白須。

惡疫消滅

此は、世に惡疫の流行して、其の防禦救濟に全力を盡すも、尚蔓延して底止する處を知らざるに際し、神助に依りて、其の醫術藥石に靈德を幸へ給ひて、速に撲滅に至らむ事を祈願する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○蒼生乃時爾煩布人民の時に依りて煩ふ
○外國爾發生出氐外國に出來て
○傳播里來志つたはりきたり
○其本波外國爾生始米其の本は外國に生り出て
○諸乃病乃中爾諸病のなか
○先頃與里我國爾毛先頃より我が國にも
○世人乃惱止惱牟病乃中爾世人のわづらう病のなかに
○如此我國爾毛行留々國にも行るゝ

○何々止云布病乃（コレラ又はペスト等の病の）
○人草多爾死亡爾志賀（人民多く死にしが）
○其根波未滅氐有志加（その根は未だ消ずして有しが）
○今再發里立氐（今二どおこり立ちて）
○此處爾彼處爾（こゝに彼しこに）
○日爾異爾蔓延乍（日に〳〵ひろがりつゝ）
○此乎防支鎭留爲爾（此を防ぎ鎭むる爲に）
○官衙鄕曲乃諸人（官衙の者又村里の人みな）
○心乎合世力乎盡止毛（こゝろを合せ力をつくせども）
○其勢比愈猛烈久（その勢ひいよ〳〵はげしく）
○關係醫波思乃限乎凝志（關係の醫者は思慮の限りをこらし）
○一速振留事更爾甚志久（烈しくなること更に甚しく）
○苦者乎時乃間爾令死（苦むものを一時のうちに死なせ）

○禍事爾羅氐（惡しき事にかゝりて）
○公民乎甚久令死志爾（人民をひどう死なせしに）
○其病乃根波殘氐有志加（その病の元は殘りて有しが）
○又更爾發立氐（又あらたに發り立ちて）
○此乃里爾毛彼乃村爾毛（此の里にも彼の村にも）
○公民乎惱米苦留乎以氐（人民を惱め苦めるを以つて）
○其乎除支鎭留爲爾（それを除き鎭むる爲に）
○縣郡乃司里人諸（縣官郡吏又は村里の諸人）
○心乎碎支身乎盡止毛（心をつくし身をつくせども）
○愈其乃勢乎進米（いよ〳〵其の勢をすゝめ）
○治留手立波成乃極乎致毛（治る手立は成し得らるゝかぎりを致すも）
○惱人乎見賀內爾奪比（惱む人をすぐに死なせ）
○人事乃能久所爲爾有禰波（人事のよくなすべき所なければ）

○所爲便乎不知爾（しかたを知らず）
○神等乃開氐遺給比（神等の遺方）
○藥効爾醫力爾（くすりの効しに醫師の力に）
○助給止共爾（たすけ給ふと共に）
○疾久此進比行久病乎（とく此のすゝみ行く病を）
○撲滅事乎令遂坐氐（撲滅することをとげさせ坐して）
○天下乃益人彌益々爾（天下の人民いよ〳〵ますます〳〵に）

○神乃御力乎奉請賀（神のお力を請ひ申すが）故爾（故に）
○人乃命乎救給布（人命を救ひ給ふ）
○著支神威乎與給氐（著しき神威を與へ給ひて）
○速爾荒比行久病乎（はやくあらびゆく病を）
○悉久打鎭事乎令得給氐（悉く鎭むることを得させ給ひて）
○顯世乃災乎除拂比（此の世の災害を除き拂ひ）

作例

惡疫乎禦支給布神等乃御前爾白左久。蒼生乃時爾煩布。諸病乃中爾。外國爾發生出氐。先頃與里我國爾毛傳播里來志。何々止云布病乃。禍事爾羅氐。人草多爾死亡爾志賀。其根波未滅氐有志加。今再發里立氐。此處爾彼處爾。日爾異爾蔓延乍。公民乎惱米苦留乎以氐。此乎防支鎭留爲爾。

官衙鄉曲乃諸人。心乎合世力乎盡世止毛。其勢比愈猛烈久。關係醫波思乃限乎凝志。治留手立波成乃極乎致毛。一速振留事更爾甚志久。惱人乎見賀內爾奪比。苦者乎時乃間爾令死人事乃能久所爲爾有禰波。所爲便乎不知爾。神乃御力乎奉請賀故爾。神等乃開氐遺給比。人乃命乎救給布。藥効爾醫力爾。著支神威乎與給氐。助給止共爾。速爾荒比行久病乎。悉久打鎭事乎令得給氐。顯世乃災乎除拂比。天下乃益人彌益々爾。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

會議開始

此は、世に國會を始め、縣郡村、其の他會議を開きて、事を決するに際し、其の神鑒を得て、公道正理を保つ神聖の議事を遂げ、以つて國利民福の大ならむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○世乃事乎治定米爲波世事を治定するには

○總乃事乎取定爾波總てのことを取定むるには

○廣久衆人乃心爾議里廣く衆人の心にはかり

○其多久爲可者乎選氐其の多數の可とするものを選びて

○此乎用留乎善止爲禮波此れを用ゐるをよしとすれば

○村爾郡爾縣爾國爾村郡縣より國家まで

○必此會有氐必ず此の會議ありて

○掟乃隨爾事議定乎以氐御掟のまゝに事はかり定むるを以つて

○此乃何々乃此の村郡又は縣の

○其乃刻限乎不違其の刻限を違へず

○事始乃式乎行狀乎事始の式を行ふ狀を

○毎日爾議定留毎日はかり定る

○各自賀心裏爾各自がこゝろのうちに

○毎事爾議留可支事々にはかる

○正久其旨乎論比正しく其の旨を論し

○普久此乎人々爾議里普く此れを人々にはかり

○其可止云布者乎選氐其の可と云ふものをえらびて

○此乎施志行事奈禮波此れを施し行ふことなれば

○悉久此會乎設介悉く此の會議を設ゐけて

○事議定留掟奈留乎以氐事を議定するの掟なるを以つて

○今日乃生日乃足日爾解上にあり

○何會乎開止爲氐通常會或は臨時會を開くとして

○諸此乃場爾來集氐諸此の會場に來集して

○平介久安介久聞食氐解上にあり

○種々乃事爾就氐種々の事に就いて

○可止思比否止認事波可と思ひ又は否と認むることは

○許多乃事柄爾就氐許多の事がらに就いて

○人乃云比進布事爾毛人の云ひ張ることにも

○不善爾波不從 善らぬには從はす
○反久人有止毛不憤 反く人ありとも憤らす
○人乃聲言布事爾毛 人のやかましく言ふことにも
○我云進布事爾 我か云ひすゝむことに
○賛成人多奈留毛 賛成者の多數なるも
○難止支事柄爾波 止み難き事柄に付いては
○朝夕夢我賀私乎不思志氐 朝夕に決して我が私を思はずして
○身乃長多留止連留止乎無別 身は議長たり又は議員たるの別なく
○爲世爲民爾心乎盡氐 世の爲民の爲に心をつくし
○天下乃政事乎賛助 天下の政事を賛助し
○直久正久事議定米 直く正しく事を議定し
○己賀說奈須事爾 己か說なすことに
○明爾其旨乎言述 明に其の旨を言ひのべ
○惡爾波不加 あしきには加はらす
○從奴人有止毛不憤 從ぬ人ありとも憤らす
○不正奴數爾波不入 不正のことの内には入らす
○人少志氐取敗止毛不厭 少數にして敗を取とも厭はす
○人草諸乃逢選志明道志 人民の選出に逢ひし道理を明し
○議員乃限波悉久 議員の限りは悉く
○萬事乎議定米 萬事の議り定め
○公民乃榮乎希比 人民の榮榮を希ひて
○令終給止 終らせ給へと

作例

會議乃事乎幸坐須神等乃御前爾白左久。世乃事乎治定米爲波。廣久衆人乃心爾議里。其可止云布者乎選氐。此乎用留乎善止爲禮波。村爾郡爾縣爾國爾。悉久此會乎設介。事議定留捉奈留乎以氐。今日乃生日乃足日爾。此乃何々乃何會乎開止爲氐。其乃刻限乎不違。諸此乃場爾來集氐。事始乃式乎行布狀乎。平介久安介久聞食氐。毎日爾議定留種々乃事爾就氐。各自賀心裏爾。可止思比否止認留事波。正久其旨乎論比。人乃云比進布事爾毛。不善爾波不從。己賀說奈須事爾。反久人乃有止毛不憤。賛成人多奈留毛。不正奴數爾波不入。難止支事柄爾波。人少志氐取敗止毛不厭。朝夕夢我賀私乎不思志氐。人草諸乃逢選志明道爾志。身波其長多留止連多留止乃無別久。議員乃限波悉久。爲世爲民爾心乎盡氐。萬事乎議定米。天下乃政事乎賛助。公民乃榮乎希比。直久正久事議定米令終給止。恐美恐美毛白須。

學校開始

此は、世上に各種の學校を造築し、其の開校の式を擧ぐるに際し、該校の隆盛を祝ふと共に、國家有用の才有る者を、學生の中より逐次出さむ事を冀ふ事なり。

依りて其の意を述ぶべし。

○去志何頃與里催立氐（去る頃より催し立て）
○事爾預禮留人々（事に關係ある人々）
○新爾此乃學校云營美（新に此の校舍を營み造り）
○今日乃生日乃足日爾（解上に）
○貴顯庶彦（貴人及び庶人）
○學生諸其親族（學生諸氏その親族）
○悉久打集氐（打ち寄りて）
○自今往前（解上に）
○昨年乃春思比起氐（昨年の春に思ひおこして）
○心乎合世思乎協氐（心を合せ思を協へて）
○此乃學校乎改米造里（此の校舍を改造し）
○來賓止志氐臨禮志（來賓として臨場されし）
○紳士庶人乃來賓與里（紳士庶人の來賓より）
○教員乃限事務員爾至麻氐（教員諸氐又事務員に至るまで）
○此事始乃式乎擧乎以氐（此の事始の儀式を擧行するを以つて）
○日爾異爾授留教事波（日に〳〵授くる教へは）

○學窓乃夫與里毛明爾（學舍の明窓より）
○造立校舍乃自棟毛秀氐（造立せし校舍の棟よりも高く秀て）
○聳立校舍乃自棟毛秀氐（聳へ立つ校舍の棟よりも高く秀て）
○廣久物知禮留人止毛爲氐（廣く物知れる士ともなりて）
○政事乃上爾妙奈留者止毛爲里（政事上に妙なる者ともなりて）
○此處與里多爾起氐（此處より多く興りて）
○商賣乃道爾敏久（商賣のみちに敏く）
○人乃爲世乃爲爾盡乍（人の爲世の爲につくしつゝ）
○皇國乃光乎耀須可久（皇國の光を耀すやう）
○已賀眞名子乃學事爾（己が實子の學事に）
○怠留事無久（怠ることなく）
○彌益爾榮牟事波（いやましに榮昌せむことは）
○其乃譽波（その名譽は）
○朝夕爾受學布學乃業波（朝夕に教へを受くる學業は）
○玻璃乃戸乃自明毛明爾（玻璃の戸の明らかなるよりもあきらかに）
○官位高支者止毛爲里（官位高き人ともなり）
○人乃不知事乎悟究（人の知さることを悟り究め）
○奇支才有留者乃（奇才を有する者の）
○世爾稀奈留業乎興志（世に稀なる業をおこし）
○續々爾此里與里出氐（つゞくに此の里より出て）
○君止國止乃爲爾盡乍（君と國との爲につくしつゝ）
○親族兄弟毛其心乎以氐（親族兄弟も其の心を以つて）
○思乎深米意乎込氐（思を深め心をこめて）
○此乃學校乃（此の校舍の）
○打上留煙火乃光與里灼久（打上る花火の光よりも灼く）
○掲志旗乃靡與里毛高久（掲げし旗のなびきよりも高く）

○彌遠爾（解上に あり）

作例

學業乎守給布神等乃御前爾白左久。去志何頃與里催立氐。事爾預禮留人々。心乎合世思乎協氐。新爾此乃學校乎營美。今日乃生日乃足日爾。來賓止志氐臨禮志。貴顯庶彦。學生諸。其親族。教員乃限。事務員爾至麻氐。悉久打集氐。此事始乃式乎行乎以氐。自今往前。日爾異爾授留教事波。學窓乃夫與里毛明爾。朝夕爾受學布學乃業波。造立校舍乃自棟毛秀氐。官位高支者止毛爲里。廣久物知禮留人止毛爲氐。奇支才有者乃。此處與里多爾起氐。人乃爲世乃爲爾盡乍。皇國乃光乎耀須可久。親族兄弟毛其心乎以氐。己賀眞名子乃學事爾。思乎深米意乎込氐。怠留事無久。此乃學校乃彌益爾榮乎事波。打上留煙火乃光與里灼久。其乃響波。掲志旗乃靡與里毛高久。彌遠爾守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

赤十字社大會

此は、世に赤十字社大會、また支部大會を、或る社域、又は其の附近に開催するとて、其の由を神社に奉告するに當り、切に神威に依りて、會の平安と、將來の隆昌を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○治世在氐有亂事乎不忘（治世に居て亂世有ることを忘れず）
○亂禮治里志後乃安爾不狃（亂世の治りし後の安きに狃れず）
○常爾其事乃備有賀中爾毛（平常に其の事の用意有るが中にも）
○其備乎不怠賀中爾毛（その用意を怠らぬが中にも）
○一旦戰爭乎開乃日（一旦戰爭を開の日）
○開戰乃日爾臨氐（開戰の日になりて）
○矢丸乃雨乎冒志（彈丸の雨の如く降るをおかし）
○血潮乃川乎流爾當氐（血を川の如くに流すに當りては）
○彼止不言我止不言（敵と味方の別をいはず）
○深手乎負氐苦者（深き手きずを負ひ痛き手負に苦むもの）
○共爾痛手乎負氐苦者（共に手きずを負てくるしむ者）
○岡爾連里野爾滿氐（岡邊につゞき野原にみちて）
○無野久無山久臥滿氐（野となく山となく臥れたる者滿ちて）
○敵毛味方毛其別乎不言（敵も味方も其の別を言はず）
○慘悲乃限乎盡者奈留爾（見るもいたましき極みなるに）
○此時爾在氐（此の時には）

○互爾敵味方乃上乎不言（互に彼我の上を言はず）
○無洩事久懇爾救得氐（みな懇切に之を救ひえて）
○治米助波天神乃道止（治め助くるは天神の御道と）
○赤乃十字乎徽章止爲氐（赤き十の文字を徽章として）
○此外爾毛世爾災異有毎爾（此の外にも世に災害の有るたびに）
○皆此乎救氐有爾（みな此れを救うて有るに）
○大會乎催志（大會を開き）
○擧行止爲氐（擧行するとして）
○安介久聞食氐（解上に）
○此社乃譽波（此の社の名譽は）
○其灼支榮波（其の著しるしき繁榮は）
○遠久悠久立榮乍（とほく久しく繁榮しながら）
○令有給止（解上に）
○悉爾懇爾之乎救得氐（みな懇切に之を救ひえて）
○活志助波惟神乃道止（活し助くるは神の御道と）
○內外乃國々盟乎立（內外の諸國みな盟約なして）
○其社乎結比社員乎募里（その社を結び社員をつのり）
○其突然乃災比世爾發毛（その突然の災害が世に起れば）
○今年此乃何々部爾（今年何々縣の支部等になり）
○其乎大神乃宮地乃邊爾（其を大神の宮地の側に）
○其乃由乎令奏給布事乎（其の由を奏させ給ふことを）
○今毛將來毛（解上に）
○空高久掲志旗乃彌高爾（空へ高く掲げし國旗のいよ〳〵高きが如くに）
○掛廻世留色幕乃彌廣爾（掛けめぐらしある色幕のいよいよ廣きが如くに）
○稀留功乎天下爾可耀久（稀なる大功を天下にかゝやかすやう）

作例

何々神社乃御前爾白在久。治世在氐有亂事乎不忘。常爾其事乃備有賀中爾毛。一旦戰爭乎開乃日。矢丸乃雨乎冒志。血潮乃川乎流爾當氐波。彼止不言我止不言。深手乎負比痛手爾苦者。岡爾連里野爾滿氐。慘悲乃限乎盡者奈留爾。此時爾在氐。互爾敵味方乃上乎不言。悉久懇爾之乎救得氐。活志助波惟神乃道止。內外乃國々盟乎立。赤乃十字乎徽章止爲氐。其社乎結比。社員乎募里。此外爾毛世爾災異有毎爾。皆此乎救氐有爾。今年此乃何々部爾。大會乎催志。其乎大神乃宮地乃邊爾。擧行止爲氐。禮代乃物奠氐。其由乎令奏給布事乎。平介久安介久聞食氐。今毛將來毛。此社乃譽波。空高久掲志旗乃彌高爾。其灼支榮波。掛廻世留色幕乃彌廣爾。遠久悠久立榮乍。稀留功乎天下爾可耀久。令有給止。恐美恐美毛白須。

武德會大會

此は、世に武德會支部の大會を、或る社域、又は其の附近に開催するを以つて、其の由を神社に報告するに際し、切に神威に依りて、會の平安と、將來の隆昌とを冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○國乃勢威乎輝事波（國家の威勢を輝やかすことは）
○勢威乃輝久國乎爲爾波（いきほひの光り輝やく國家をなすには）
○此乎隆盛奈良令留波（此れをさかりにならしむるは）
○專其事乎勵爾在氐（專らそのことを勵すにありて）
○今乃現爾行比來留（今の現在に行ひ來る）
○長刀柔道遊泳奈止（長刀柔道又は水游など）
○我皇御國波古與里（我が皇國は古へより）
○男女乃爲牟武事乃限乎（男女のせん武事の限りを）
○國人乃心勇支爾在里（國人の心の勇ましきにあり）
○國人乃心乃勇爾基毛（國人の心の勇ましきにもとづくも）
○其乎勇志加良令留波（其れを勇ましからしむるは）
○我大御國乃遠支昔與里（我が國の遠き昔より）
○擊劍弄鎗射藝乃業與里（劍なり鎗なり弓なりの業より）
○男女乃有爲限乃武事乎（男女の者の爲べき限りの武事を）
○中今乃世爾至麻氐行來留（目今の世に至るまで行ひ來る）
○奬米令研氐（奬めみがいせて）

○勵美令務氐（勵みつとめさせて）
○其心正久勇志久（其の心正しく勇ましく）
○一旦帝國爾有事乃日爾波（一旦我が國の有事の日には）
○顯世乃人諸均久立氐（此の世の人みな均しく立ちて）
○其事爾當牟志太米止（其の事に當らんと爲めと）
○其事乎行比來賀（其の事を行ひ來しが）
○大會乎催志（大會をもよほし）
○擧行止爲氐（擧げおこなふと爲て）
○平介久安介久聞食氐（解上にあり）
○打合太刀乃音乃明亮爾（打合はす太刀の音のさやかに）
○射放弓乃自弦音毛高久（射はなつ弓の弦の音よりも高く）
○長久悠久令立榮給止（長く久しく立ち榮えしめませと）
○各自常爾家業乎不怠（皆常に生業を怠らず）
○勇志久正支心乎養比（勇ましく正しき心を養ひ）
○天下乃人等擧氐（天下の人等）
○其途爾立牟志太米止（其の途に立たむと爲めにと）
○廣久世爾此會乎結氐（廣く世に此の會を結びて）
○今年此乃何々部爾（今年此の何縣支部になどなり）
○其乎大神乃宮地乃邊爾（そは大神の宮地の邊に）
○其由乎令奏給布事乎（其の由を奏さしめ給ふ事を）
○自今後乃此會乃榮波（今より後の此の會の榮は）
○其高名乃聞延行牟事波（其の高名の聞え行む事は）
○彌益爾彌廣爾廣麻里氐（彌益に彌廣に廣りまして）

作例

何々神社乃御前爾白左久。國乃勢威乎輝事波。國人乃心勇支爾在里。此乎隆盛奈良令波。專其業乎勵須爾在氐。我大御國乃遠支昔與里。今乃現爾行比來留。擊劍弄鎗射藝乃業與里。長刀柔道遊游奈止。男女乃可爲限乃武事乎奬米令研氐。各自常爾家業乎不怠其心正久勇志久。一旦帝國爾有事乃日爾波。天下乃人等擧氐。其途爾立牟志太米止。廣久世爾此會乎結氐。其事乎行比來賀。今年此乃何々部爾大會乎催志。其乎大神乃宮地乃邊爾擧行止爲氐。禮代乃物奠氐。其由乎令奏給布事乎。平介久安介久聞食氐。自今後乃此會乃榮波。打合太刀乃音乃明亮爾。其高名乃聞延行事波。射放弓乃自弦音毛高久。彌益爾彌廣爾廣麻里氐。長久悠久令立榮給止。恐美恐美毛白須。

愛國婦人會

此は、世に愛國婦人會、また支部の大會を、或る社域、また其の附近に開催して、其の由を神社に奉告するに當り、切に神威に依りて、會の平安と、將來の隆昌を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○我國人乃尊朝愛國事波（我が國人の朝廷を尊び國家を愛する事は）
○此心固波已賀國乎不辱（此の愛國の心堅固なるは自國を辱めず）
○此心壯奈留波其國乎保者爾氐（此の愛國心の壯なるは其の國を保全する者にて）
○古閉藤原宮乃御代爾波（古へ持統天皇の御代には）
○今波外國乃交毛廣久（今は外國の交際）
○他國爾對氐辱乎不取（他國に對して恥辱を取らず）
○外國爾對氐耻留事無久（外國に對して恥る事なく）
○人乃可務道奈留賀上爾（人の務む可き道なるが上に）
○生禮隨爾稟來志眞心爾志氐（生ながらに稟け來し眞心にして）
○國乃盛奈留毛此心有爾基支（國の盛大なるも愛國心の有るに基き）
○國乎保毛此心有爾依波（國家を保全するも此の愛國心あるに依れば）
○厚久此乎賞給志事奈留爾（厚く此を賞し給しことなるに）
○今他國止毛交乎結比（今は他國とも交際を結び）
○國乃御稜威乎不損（國家の御稜威を損なはず）
○專凝思志盡力須事波（專ら思をこらし力を盡すことは）
○國乃勢威乎輝牟事波（國の勢威を輝さむことは）

○身乎盡志心乎碎牟事波心身を盡碎することに
○外國々爾在氐毛他の國々にありても
○此乃愛國止云布事乎此の愛國と云ふことを
○甚久其理乎重美氐甚しく其の道理を重んじて
○世爾事有乃日爾當氐波世に有事の日に當りては
○婦人乃身波婦人隨爾婦人の身は婦人ながらに
○比久立氐比しくみな立ちて
○爲國爾盡須軍人乎助介國の爲につくす軍人を助け
○保國戰爾力乎添閇國を保つ戰爭に力を添へ
○思乃極美其事乎務牟止思のきはみ其のことに務めようと
○此會乎興志此の會をおこし
○大會乎催志大會をもよほし
○其式乎擧止爲氐その儀式を擧行すると爲して
○人乃忘末志支道奈留賀上爾人たるもの、忘るましき道なるが上に
○其外國乃何禮爾在氐毛其の外國の何れにありても
○勵志奬奴國波無乎以氐勵しすゝめぬ國はなきを以つて
○其理乃深乎尊氐其の道理の深きを尊びて
○婦人多留者毛婦人隨爾婦人も婦人ながらに
○諸共爾立氐もろ共に立ちて
○護國留軍人乎痛波里護國の軍人をいたはり
○保國戰乃後援乎爲志國を保つ戰爭の後援をなし
○力乃限里其途爾盡麻志止力の限り其の途につくさうと
○朝廷乃御許志蒙氐朝廷の御許可を蒙りて
○今年此乃何々部爾今年この何縣の支部に於てなどなり
○其乎大神乃宮處乃邊爾其を大神の宮處の邊に
○其由乎令奏給布事乎其の由を奏上せしめ給ふことを
○平介久安介久聞食氐平らかに安らかに聞とらして
○天下爾廣久行牟事波天下にひろく行れんことは
○萬代爾遠久榮行乎事波萬代に遠く榮え行んことは
○常磐爾堅磐爾常に變らぬ岩又は堅き岩の如く

作例

何々神社乃御前爾白左久。我國人乃尊朝愛國事波。生隨爾稟來志眞心爾志氐。此心固波已賀國乎不辱。此心壯奈留波其國乎保者爾氐。古藤原宮乃御代爾波。厚久此乎賞給志事奈留爾。今波外國乃交毛廣久。他國爾對氐辱乎不取。國乃御稜威乎不損。專凝思盡力事波。人乃可務道奈留賀上爾。彼乃外國々爾在氐毛。此乃愛國止云布事乎勵志奬奴國波無乎以氐。甚久其理乎重美氐。世爾事有乃日爾當氐波。婦人多留者毛婦人隨爾比久立氐。護國留軍人乎痛波里。保國戰乃後援乎爲志。力乃限里其途爾盡

○自今後波此會乃無亂事今より後は此の會の亂るゝこと
○掛渡多留餝旗乃彌廣爾掛渡したる餝旗のいよ〳〵廣きが如く
○奉唱萬歲乃聲乃彌高爾唱へ奉る萬歲の聲のいよ〳〵高きが如く
○令立榮給止立さかえさせと

麻志止。朝廷乃御許志蒙氐。此會乎興志。今年此何々部爾大會乎催志。其乎大神乃宮處乃邊爾其式乎擧止爲氐。禮代乃物奠氐。其由乎令奏給布事乎。平介久安介久聞食氐。自今後波此會乃無亂事。天下爾廣久行乎事波。掛渡多留餝旗乃彌廣爾。萬代爾遠久榮行牟事波。奉唱萬歲乃聲乃彌高爾。常磐爾堅磐爾令立榮給止。恐美恐美毛白須。

在郷軍人會開始

此は、世に各町村なる在郷の軍人たち、此の會を設けて、各自の本分を盡さむとするが故に、其の開始に際して、先づ神護に依りて、其の會の益々隆昌ならむ事を祈ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○兵器乎解氐家爾歸波兵器を解いて家にかへれば
○携志返兵器氐歸家波携へし兵器を返し家にかへれば
○均久生業乎勵公民奈禮止均しく生業を勵む公民なれと
○身波此禮均久公民奈禮止身は此れ均しく人民なれと
○未其乃役乎不免限波未其の兵役を免さるれざる限りは
○其乃役乎不免間波其の兵役を免れざる間は

○身波在郷軍人爾氐志氐身は在郷の軍人にして
○正久在郷軍人爾氐正しく郷に在る軍人にて
○常爾軍規戰術乎不怠常に軍規を守り戰術をおこたらず
○軍規乎守里戰術乎不怠軍規を守り戰術をおこたらず
○惡行比異遊乎爲事無久惡しき行ひ異しき遊をなすことなく
○直久正久務結氐直く正く職を務め身をしまりて
○總乃行乎亂須事無久總ての行を亂すことなく
○心乎直志事乎勵美心を直くし事をはげみ
○次々爾出牟軍人乃爲範次々に出んず軍人の模範となり
○召氐在役者乃家族乎慰召れて現役に在る者の家族を慰み
○今在役者乃家事乎助今現役に在る者の家事を助け
○上爾對比人爾交爾情厚上の人に對し又人に交るに情厚く
○上下爾對氐盡須志厚久上下の人に對して盡す志あつく
○毎日爾務牟家事乎勤美毎日に務めむ家事をいそしみ
○日爾異爾我家業乎勤美日々に我が家業をいそしみ
○年々乃簡閲爾毛譽乎得年々の簡閲にも譽を得
○臨時乃閲兵爾毛譽乎得臨時の閲兵にも譽を得
○有事乃日爾波何時乎不言事の發し日には何時と言はず
○直出氐其道爾可盡介禮波直に出で其道に盡す可ければ
○此度在郷留軍人相謀氐此度在郷なる軍人相謀りて
○召留々事有爾當氐波召集に逐ふこと有るに當りては
○此乃何々乃會乎結比此の何々在郷軍人會等なり
○茲爾事始乃式乎擧止爲氐茲に發開式を擧行すとして
○奉言祝留狀乎言ほぎ奉る狀を
○平介久安介久聞食氐解上にあり
○自今後乃此會乃榮波今より後の此の會の榮は

○胸掛多留勳章乃光與里灼久（胸に掛けたる勳章の光より灼く）
○蹈鳴須靴音乃彌高爾（蹈ならす靴音の如く、いや高に）
○亂留事無久絶留事無久（亂るる事なく絶ゆることなく）
○常磐爾堅磐爾（解上に）
○令立榮給止（解上に）
○其乃聞延乃高良牟事波（其の風評の高らんことは）
○遠久廣久世爾聞氐（遠く廣く世に聞きこえて）

作例

此會乃事乎守給布神乃御前爾白左久。兵器乎解氐家爾歸禮波。均久生業乎勵公民奈禮止。未其乃役乎不免限波。身波在鄉軍人爾志氐。常爾軍規戰術乎不怠。惡行巽遊乎爲事無久。直久正久務結氐。次々爾出牟軍人乃爲範。召氐在役者乃家族乎愍上爾對人爾交留爾情厚久。年々乃簡閲爾毛譽乎得。毎日爾務牟家業乎勤美。有事乃日爾波何時乎不言。直出氐其道爾可盡介禮波。此度在鄉留軍人相謀氐。此乃何々乃會乎結比。茲爾事始乃式乎擧止爲氐。捧物奠氐奉言祝留狀乎。平介久安介久聞食氐。自今後乃此會乃榮波。冐掛多留勳章乃光與里灼久。其聞延乃高良牟事波。蹈鳴須靴音乃彌高爾。遠久廣久世爾聞氐。亂留事無久絶留事無久。常磐爾堅磐爾令立榮給止。恐美恐美毛白須。

青年會開始

此は、世に各町村の青年等の、此の會を設けて、地方百般の整理發展に力を盡さむと欲する故に、其の開始に際し、先づ神謨に依りて、該會の隆榮せむ事を奏ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○未世爾年若支者波（未だ世に年若き者は）
○此國人乃後乎續者奈禮波（此の國人の後を續ぐなれば）
○毎人爾常爾此乃心乎養氐（人毎に此の心を養ひて）
○其處乃名爾氐行事乃（其の處の名義に行ふ事の）
○有利業乎興志（有益の事業をおこし）
○身年若志氐在世者波（身年若くして世に在る者は）
○其國人乃後乎受續者爾氐（その國人の後を受け續ぐ者にて）
○各自毎爾其心乎存氐（各自常に其の心をもちて）
○其里乃名乎以氐可爲（その村里の名義を以つて爲べき）
○物乃驕乎相戒米（物のおごりを互にいましめ）

○相共爾世爾驕乎戒米相共に世におごりたかいましめ
○貧者乎助介惡習乎正貧者を助け惡習をたゞし
○毎夜乃學事乎毛勵志毎夜の夜學をはげまし
○時々乃集會乎毛開支折々の集會をも開き
○防疫乃事乃誘惡疫隙防の事の誘に
○契約志事乎不違契約事に違はせず
○公乃掟止納税乎毛不缺公の掟と納税をも缺ず
○畏氐守牟萬事畏れて守らむ萬般のこと
○謹氐行牟萬手順つゝしみて行はむ萬の手順
○悉久直久正久爲行止志氐悉く正直に爲し行ふとして
○玆爾事始乃式擧止爲氐玆に開會の式を擧げ行ふとして
○平介久安介久聞食氐解上にあり
○此會乃長久悠久立榮氐此の會の長久に立ち榮えて
○習慣乎正志貧困乎救比習慣を正し貧窮を救ひ
○或波毎夜乃學事乎開支あるひは毎夜の夜學を開き
○或波折々乃集會乎爲志あるひは時々の集會を爲し
○軍事恤事乃奬米軍人又は救恤のすゝめ
○仰世事爾不背仰せ事に背むかず
○總乃定乎不亂總ての定を亂さず
○國民乃務止盡道乎毛不怠國民の務として盡すべき道をも怠らず
○議氐行牟諸乃手振乎議りて行はむ諸の手振りを
○議氐施乎諸乃事議て施さん諸のことを
○此乃何々乃會乎起此の何々の會を起し
○奉言祝留狀乎言ほぎ祝る狀を
○自今將來今よりゆくさき
○諸人乃悅比安良賀牟事波諸人の悅び安らかん事は

○其乃定言乃其の規則の定めごとの
○年々爾進氐榮牟事波年々に進んで榮えむ事は
○多奈留賀如久多かるが如く
○安久平奈留賀如久安く平かなるが如く
○積立留資金乃積立つる資金の
○彌高爾彌廣爾可榮行彌高く廣く榮え行くべく

此會乎守給布神乃御前爾白佐久。未世爾年若支者波。其國人乃後乎受續者奈禮波。毎人爾常爾此乃心乎養。其處乃名爾氐行事乃有利業乎興志。物乃驕乎相戒氐。習慣乎正。貧困乎救比。或波毎夜乃學事乎開支。或波折々乃集會乎爲志。軍人恤事乃奬米。防疫乃事乃誘。仰世事爾不背。契約事乎不違。公乃掟止納税乎毛不缺。國民乃務止盡道乎毛不怠。畏氐守牟萬事。議氐行牟諸乃手振乎。悉久直久正久爲行止志氐。此乃何々乃會乎起。玆爾事始乃式擧止爲氐。捧物奠氐。奉言祝留狀乎。平介久安介久聞食氐。自今將來此會乃長久悠久立榮氐。諸人乃悅比安良賀牟事波。其定言

乃安久平奈留賀如久。年々爾進氐榮牟事波。積立留資金乃多奈留賀如久。彌高爾彌廣爾可榮行。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

圖書館開始

此は、世に圖書館を建て、天下古今内外の圖書を集藏して、社會の公益を謀るが故に、其の開始に際して、益々事業の隆盛と、永久に立榮えむ事を冀ふ事なり。

依りて其の意を述ぶべし。

○事波書氐傳許尊波無久事は書て傳ふる程尊きはなく

○人波今其書爾依氐人は今其の書に依りて

○神乃教聖人乃道佛乃說神の教聖人の道佛の說

○秀多留帝王等乃事跡英傑の帝王等の事跡

○優多留臣等乃功すぐれたる臣下の者の功績

○又其乃國々爾傳留國史又其の國々に傳はる國史

○世爾書許尊波無久世に書ほど尊きはなく

○後人毛此有乎以氐後人も此れ有るを以つて

○古道聖人佛乃教古道及び聖人の教佛者の教

○明主乃事跡聰明の主君の事跡

○賢臣等乃功賢良なる臣下の者の功績

○又其乃傳持國々乃史又其の傳來する諸國の國史

○御宇經國留政事乃法今天下を御し國家を治むる政事の法令

○物知禮留者乃考閉博識達才なる人々の考へ

○教師等乃考閉教育上名高き人等の考

○或波其狀乎繪畫志物與里あるひは其の狀を描し物より

○有止有留學校爾用留書世に有る限りの學校に用ゐる書

○雜乃刷物爾至麻氐雜誌及び印刷物に至るまで

○皆世人乃見氐識乎廣米皆世人の見て知識をひろめ

○身才乎研久不本留波無毛身の才を研く本ならぬは無きも

○内外乃國乃書卷乃數波内外國の書籍の數は

○幾千萬止數知奴事奈禮波幾千萬と數の知れぬことなれば

○人此乎悉爾購得氐見波人の此を悉く購ひ得て見ることは

○毎人爾不能事奈留賀上爾人々能くせぬことなる上に

○或波缺介又波矢毛行氐あるは缺もし又は失もして

○賢人乃論比賢人君子の論著

○博學人乃論比碩學宏才の人の論著

○或波其形乎圖引あるひは物の形狀を圖に取り

○大小學校爾用留教科書大小學校に用ゐる教科書

○毎日爾刷出須日ごとに印行する

○朝夕爾出須雜書爾至麻氐朝夕に版行する雜書に至るまで

○皆我人乃見氐思乎高米みな我人の見て思を高め

○身乃知乎廣留不資留波無毛知識を廣むる資ならぬは無きも

○天下爾有留書卷乃數波天下に有る書卷の數は

○此乎毎人爾購得氐見波此を人毎に購ひ得て見んは

○手安加良奴爲事賀上爾客員ならぬことなるが上に

○古爾志物波失毛志缺毛行氐古きものは失ひ又は缺などして

○今波全久亡果志毛不少奴乎今は全く亡ひ果しも少なからぬを

○廣集米普求氐（廣く集め普く求めて）
○今波亡氐不傳毛多留乎（今は亡びて傳はらぬも多かるを）
○顯世乃人爾（現世の人に）
○此乃圖書館乎建築氐（此の圖書館を建て、）
○奉言祝留狀乎（言ほき奉る狀を）
○其乃榮乃繁良牟事波（其の榮の繁からんことは）
○其聞延乃高良牟事波（其の聞えの高からんことは）
○遠久悠久令立榮給止（遠く悠しく立ち榮えしめ給へと）
○萬代爾保行止共爾（萬代に保ち行くと共に）
○無隈久求米普久集氐（隈なく求め普く集めて）
○借毛志爲讀毛須止（借しもし閲せもすと）
○玆爾事始式乎擧乎以氐（玆に開始の式を擧げ行ふを以つて）
○平介久安介久聞食氐（解上にあり）
○納置書乃自數毛繁久（納め置く處の書の數よりも繁く）
○聳立館乃自棟毛高久（聳へ立つ館の棟よりも高く）

作例

此館乃事乎守給布神乃御前爾白左久。事波書氐傳許尊波無久。人波今其乃書爾依氐。神乃敎。聖人乃道。佛乃說。秀多留帝王等乃事跡。優多留臣等乃功。又其乃國々爾傳留國史。御宇經國留政事法令。賢人乃論比。物知禮留者乃考閲。或波其形乎圖引。或波其狀乎繪畫志物與里。大小學校爾用留敎科書。每日爾刷出留雜乃刷物爾至麻氐。皆世人乃見氐識乎廣米。身才乎研久不本留波無毛。內外乃國乃書卷乃數波。幾千萬止數知奴事奈禮波。此乎每人爾購得氐見波。手安良奴爲事賀上爾。古爾志物波失毛志缺毛行氐。今波全久亡果志毛不少奴乎。廣集米普求氐。萬代爾保行止共爾。顯世乃人爾借毛志爲讀毛須止。此乃圖書乃館乎建築氐。玆爾事始式乎擧乎以氐。捧物奠氐奉言祝留狀乎。平介久安介久聞食氐。其榮乃繁良牟事波。納置書乃自數毛繁久。其聞延乃高良牟事波。聳立館乃自棟毛高久。遠久悠久令立榮給止。恐美恐美毛白須。

紀念碑建設

此は、世に其の人、或は其の事に就きて、國民の記念碑を建設し、その竣成式を擧ぐるに當り、其の遺烈は永く人の龜鑑と爲り、千歲の後の世をも益せむ事を冀

ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○有志昔乃功乎偲比（有し昔の功をしぬび）
○後世乃龜鑑止爲氐（後世の龜鑑として）
○其事柄乎示者波（その事柄を示すものは）
○此乎望見留人（此を望み見る者）
○又世爾有功者乎出須（又世に功ある人を出す）
○此乎望美此乎仰者（此を望み見此を仰ぎ見る者）
○有功者自然可起支（功ある者の自然に起る可き）
○此度有志者胥議里（此度有志の者相議り）
○其乃記念碑乎建志賀故爾（其の記念碑を建しが故に）
○預氐事執志者（關係して事を執り持ちしもの）
○親族家族（生から家から）
○諸參出來氐（諸參り出て來て）

○遺禮志功績乎揭介（遺されし績をかゝげ）
○其當時乃事乎明志氐（其の當時の事を明にして）
○遠久此乎世爾示者波（遠く此を世に示す者は）
○自然良心感氐（自然に心の感化せられて）
○敎乃本奈禮波（敎訓の本なれば）
○不知不識心習氐（知らず識らず心の其れに習ひて）
○著支敎乃一奈禮波（著き敎の一なれば）
○玆爾何々乃事乎記氐（玆に其の記念として作りしことを記して）
○縣郡乃司與里（縣郡衙の司人より）
○或波碑爾物志人乃（あるは碑になしたる人の）
○此里乃男女爾至麻氐（此の里の男女に至るまで）
○其式乎擧止爲氐（其の式を擧行するとして）

○如此御祭奉仕留狀乎（如此く御祭を奉仕する狀を）
○自今後波雨降風吹止毛（今より後は雨降り風吹くとも）
○無朽事久無傾事久（朽ることなく傾くことなく）
○不傾不崩世爾立行氐（傾かず崩れず後の世まで立ち行きて）
○世爾立行氐（世にたちゆきて）
○無限御世爾公民諸乃（限り無き御世に人民もろ〳〵の）
○其功乎尊比慕氐（その功を尊びしたひて）
○次々爾出可久（次々に世に出づべく）
○又此里與里多爾可出（又此の里より多く出づべく）
○其幸乃廣良牟事波（其の幸の廣からむことは）
○其惠乃高良牟事波（其の惠のたかからむことは）
○遠久悠久立榮坐（遠く悠久に立ち榮え坐せと）

○平介久安介久聞食氐（解上にあり）
○雨降進比風吹暴留止毛（雨降りすさび風吹きあるとも）
○年月久爾無損事久（久しき年月に損ふことなく）
○常磐爾堅磐爾（解上にあり）
○顯世乃限里蒼生諸乃（顯世の有らむ限り人民もろ〳〵の）
○其跡乎慕比習氐（其の跡をしたひ習ひて）
○奇支譽有留者（奇しき譽れあるもの）
○國爾君爾忠實留者（國に君に忠實なる者）
○遠久普久護給氐（遠く普く護給ひて）
○築多留礎乃彌廣爾（きづきたる礎の廣きが如くいや廣に）
○建上志碑乃彌高爾（建て上し碑の高きが如くいや高に）
○功績乃高乎仰尊美（功績の高きをあふぎ尊み）

此造立志碑乃前爾白左久。有志昔乃功乎偲比。後世乃龜鑑止爲氐。其事柄乎示者波。此乎望見留人。自然良心感氐。又世爾有功者乎出須敎乃本奈禮波。此度有志者胥議里。玆爾何々乃事乎記氐。其乃紀念碑乎建志賀故爾。縣郡乃司與里。預氐事執志者。或波碑爾物世志人乃親族家族。此里乃男女爾至麻氐。諸參出來氐。其式乎擧止爲氐。種々乃物奠氐。如此御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。自今後波。雨降風吹止毛。朽事無久傾事無久。常磐爾堅磐爾。世爾立行氐。顯世乃限里。蒼生諸乃其跡乎慕比習氐。奇支譽有留者。次々爾出可久。遠久普久護給氐。其幸乃廣良牟事波。築多留礎乃彌廣爾。其惠乃高良牟事波。建上志碑乃彌高爾。遠久悠久立榮坐止。恐美恐美毛白須。

銅像除幕

此は、世に古今を通じて、國家に大功有りし人の銅像を建設し、其の除幕式を擧ぐるに當り、其の遺烈は萬世に亘りて社會を訓示し、大に世人を勵すに至らむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○世爾其功乎偲氐（世にその功を偲びて）
○其人乃身形乎造里（其の人の身形を造り）
○著名支公園中乎撰乎（著名の公園中えらびて）
○此乎人集布衢爾立留波（此れを人の集ふちまたに建立するは）
○長久其功乎仰久耳奈良須（長く其の功を仰ぐ許りに非す）
○每爾來氐此仰人（毎に來て此れを仰ぎ見る人）
○其事乎奉尊奉慕氐（その事を尊ひ申しまたひ申して）
○功乎立者續氐可出支（功を立つる者續きて出づるよう）
○其身形乎造氐（その身形を造りて）
○其人乃功乎示志（其の人の功績を示し）
○此乎建立留波（此れを建立するは）
○唯爾其功爾報留耳奈良須（只其の功に報ゆる許りにあらす）
○常爾仰觀留人自然（常に仰ぎ觀る人の自然に）
○自然心感氐（自然に心に感じて）
○又功乎成者乎可出支（更に功績を成す者を出すよう）
○敎止毛成乎以氐（敎ともなるを以つて）

○敎乃本奈留乎以氐敎の本なるを以つて
○何某君乃爲爾楠公又は西郷翁なとなり
○今日乃生日乃足日爾解上にあり
○擧止爲氐舉行すると
○平介久安介久聞食氐平らかに安らかに聞きとらして
○此處乃空高久此の處のそらに高く
○蒼生諸乃人民もろ〳〵の
○進行久世爾進立可久進み行く世に進み立つべく
○此處爾嚴然爾この處に殿重に
○天下乃人草諸乃天下の人民もろ〳〵の
○此乃築立志礎乃彌廣爾此築き立てし礎の如くいや廣に
○据奉留身形乃彌高爾据え奉る身形の如くいや高に
○天下乎令榮給氐天下を榮えしめまして
○此度有志者相謀氐此の度有志の者相はかりて
○以銅偉奈留像乎造里銅を以つて偉大なる像を造り
○覆幕取除乃式乎覆ふ處の幕を除く式にて即ち除幕式なり
○御祭奉仕留狀乎御祭を奉仕する狀を
○自今將來嚴然爾今よりゆくさき嚴重に
○晝夜止不言世爾立臨氐夜る晝ると言はず世に立ち臨みて
○開行久世乃勢乎悟里開け行く世の勢をさとり
○守里道支幸坐乍守り導き幸へましつゝ
○御空高久立臨氐御空に高く立ちのそみて
○顯世爾蒙牟御惠波此の世にかゝふらむみ惠は
○公民乃奉稱牟御功波公民の稱へ奉らむ御功績は
○遠久悠久とこしくひさしく
○千代萬代爾仰禮居坐千代萬代に仰がれ居ませと

作例

此造立志銅像乃前爾白左久。世爾其功乎偲氐。其人乃身形乎造里。著名支公園乃中乎撰氐。此乎建波。唯爾其乃功爾報留耳奈良須。常爾仰觀留人自然。其事乎奉尊奉慕氐。功乎立者續氐可出支。敎乃本止毛成乎以氐。此度有志者相謀氐。何某君乃爲爾以銅偉奈留像乎造里。今日乃生日乃足日爾。覆幕取除乃式擧止爲氐。捧物奠氐。御祭奉仕留狀乎。平介久安介久聞食氐。自今將來嚴然爾。此處乃空高久。晝夜止不言世爾立臨氐。蒼生諸乃。開行久世乃勢乎悟里。進行久世爾進立可久。守里道支幸坐乍。世爾蒙牟御惠波。此乃築立志礎乃彌廣爾。公民乃奉稱牟御功波。据奉留身形乃彌高爾。遠久悠久天下乎令榮給氐。千代萬代爾仰禮居坐止。恐美恐美毛白須。

運動會開始

此は、世に運動會を催し、或る社域、又は其の附近に、此れを開始するに際し、先づ神謎に依りて、其の意を述ぶべし。且つ事業の益々發達せむ事を冀ふ事なり。

○人身乃壯健爾姿偉支波（人身の壯健に姿勢の偉大なるは）
○身運動不怠事爾在乃（運動を怠らぬことに在りて）
○人乃姿偉久身乃健奈留波（人の姿の偉大に身の健全なるは）
○常爾運動乎不怠爾在氐（常に運動を怠らぬに在りて）
○今波學事乃一科止毛成氐（今は學事の一科とも成りて）
○自然其心毛雄々志久（自然にその心も雄々しく）
○唯爾身乃健全奈留耳奈良須（唯身の健全なるばかりにあらず）
○又其姿毛偉久成來氐（又その姿も偉大に成り來て）
○幼時與里壯年奈留爾至毛（幼時より壯年と成るに至るも）
○今波學校乃一科止定乍（今は學校の一科と定りながら）
○幼時止壯年止乎不言（幼時と壯年とを言はず）
○此事乃世爾行留々處與里（此のことの世に行はるる處より）
○世爾廣久敎閉行布業爾志氐（世に廣く敎へ行ふ業にして）
○毎爾其心勇志久（常にその心勇ましく）
○身毛健全爾有賀上爾（身も健全に有るが上に）
○世爾人草乃繁賀中爾毛（世に人民の數の多きが中にも）

○世乃人乃多賀中爾毛（世の人の多數なるが中にも）
○殊爾打仰留々者奈禮波（殊に打ち仰るる者なれば）
○內國外國乃無別（內國外國の別ちなく）
○此乃業乎催奴無處久（此の業を催さぬ處なく）
○國止爲氐波欠麻志支事止（國としては欠くまじきことと）
○或波臨時爾事定氐（あるは臨時にこと定めて）
○今日乃生日乃足日爾（解上にあり）
○奉言祝留狀乎（奉る狀を）
○次々爾行牟催事爾（次第に行はむ催しに）
○會員諸波勇悅乍（多くの會員はみな勇み悅びながら）
○賞與留物乃彌多爾（賞與の品のいよ〳〵多く）
○打上留煙火音乃彌高爾（打上ぐる煙火の音の高きが如くいや高に）
○在世限里身乃譽止爲里（在世の限り身の譽となり）
○一層優氐仰留々者奈禮波（一層すぐれて仰るゝ者なれば）
○內外乃國乃何禮乎不言（內外の國の何れを言はず）
○此乎勵志催奴無處久（此れを勵し催さぬ處なく）
○人止爲氐波不爲留可良須（人と爲ては爲ざればならぬ）
○春秋乃良辰乎撰氐（春秋の良辰を撰びて）
○必行布事奈留乎以氐（必ず行ふ事なるを以つて）
○此處爾其業乎催止爲氐（此の處に其の業を催すと爲て）
○平介久安介久聞食氐（解上にあり）
○無障事久無異事久（障り又は異なる事なく）
○他人乎凌氐勝得乍者波（他人を凌ぎて勝ち得む者は）
○賜乎戴久者乃譽波（賜はり物を戴くものゝ譽れは）
○長久悠久傳行氐（長く久しく傳り行きて）
○後乃者乃龜鑑止毛成氐（後の者のかゝみとも成りて）

○安久平爾令事竟給止安く平かに事を竟へしめ給へと

作例

此乃催乃事乎守給布神乃御前爾白左久。人身乃壯建爾姿偉支波。幼時興里壯年奈留爾至毛。身乃運動乎不怠事爾在氐。今波學校乃一科止定乍。世爾廣久敎行布業爾志氐。自然其心毛雄々志久。唯爾身乃健全奈留耳奈良須。又其姿毛偉久。或波世爾人草乃繁賀中爾毛。一層優氐仰留々者奈禮波。内外乃國乃何禮乎不言。此乎勵志催奴處波無久。人止爲氐波不爲留可良須。國止爲氐波欠麻志支事止。春秋乃良辰乎撰氐。或波臨時爾事定氐。必行布事奈留乎以氐。今日乃生日乃足日爾。此處爾其業乎催止爲氐。捧物奠氐。奉言祝留狀乎。平介久安介久聞食氐。次々爾行牟催志事爾。無障事久無異事久。會員諸波勇悅乍。他人乎凌支勝得牟者波。賞與留物乃彌多爾賜乎戴久者乃譽波。打上留煙火乃音乃彌高爾。長久悠久傳

行氐。在世限里身乃譽止成里。後乃者乃鑑止毛成氐。安久平爾令事竟給止。恐美恐美毛白須。

水泳會開始

此は、世に水泳の術を勵みて、有志者此の會を結び、此れを適當の地に開始するが故に、神誰に依りて、其の催の平安に、且つ事業の益々發達せむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○底知奴淵爾浮氐不溺底の知れぬ淵に浮びておぼれず
○瀧知行久水爾溺禮須瀧ち行く水におぼれず
○潮爾漂氐保命知海潮に漂て命をたもち
○海原爾漂氐保身海中に漂ひて身を保ち
○皆其乃泳技乎學比皆その水泳の技をまなび
○其事爾熟留爾在賀上其の事に熟練なるに在るが上に
○打寄留浪乎凌氐不沈打よする浪を凌ぎて沈まず
○咲立都浪爾沈須咲き立つ浪に沈まず
○流乎越氐身乎不失水流を越えて身をうしなはず
○漲川乎越氐命乎不失みなぎる川を越えて命を失はず
○皆此乃泳技乎習比みな此の水泳の技をならひ
○其事乎能須留爾在賀上爾其の事を能くするに在るが上に

○手足乃活動爾毛手足のはたらきにも
○身乃建全奈留乎助介身のすこやかなるを助け
○水災爾波人乎毛救比水災には人をも救ひ
○在軍波難欠事奈留乎以氐軍事には欠きがたきことなるを以つて
○夏來留毎爾年々〻爾夏の來る毎に年々に
○壯止幼止乎不言集米來氐壯年と幼者とを分たず共に集め來て
○此技乎教留賀故爾此の技を教ふるが故に
○愈〻其業乃廣良牟事乎思氐愈その業の廣からん事を思ひて
○此乃何々會乎興氐此の泳氷會又は水泳會などなり
○玆爾其事乎開止爲氐玆にそのことを開き始むるとして
○平介久安介久聞食氐解上にあり
○泳習布人々〻爾無障事久泳き習ふ人々に障ることなく
○其技乃進行牟事波其の技の進歩し行かんことは

○身乃建康爾毛有補氐身の健康なるにも補益ありて
○手足乃動作乎能志手足のはたらきを能くし
○溺牟止爲留者乎毛助介溺むと爲る者をも助け
○臨戰氐波大奈留有補乎以氐戰事の時に當りては大なる補あるを以つて
○年々乃例止毎夏爾年々の例と夏ごとに
○壯者毛幼者毛共爾集氐壯者も幼者も共に集めて
○此技乎令習賀故爾此の技を習はすがゆゑに
○此大川乃流爾臨氐此の大川の流に臨んで
○此乃浦曲乃廣爾就氐此の浦の廻りの廣きに就いて
○奉言祝留狀乎言ほぎ申す狀を
○自今後波日爾異爾今より後は日に異に
○教師事務員爾毛無過久教師事務員にも過ちなく
○立重浪乃志久志久爾立つ重浪のかさねがさねに
○此會乃譽乃高良牟事波此の會の譽の高らんことは
○世爾廣久稱閉傳氐世にひろくほめ傳へて
○目標爾立志旗乃彌高爾目標に立し旗の如くいや高に
○名細支名乎萬代爾可掲美名を萬代の後までに掲ぐべく

作例

水泳乃事乎守給布神乃御前爾白左久。底知奴淵爾浮氐不溺。打寄留浪乎凌氐不沈。潮爾漂氐命乎保知。流乎越氐身乎失奴波。皆其泳技乎學比。其事爾熟留爾在賀上爾。手足乃活動爾毛。身乃建康留爾毛有補氐。水災爾波人乎毛救比。溺牟止爲留者乎毛助介。在軍波難欠事奈留乎以氐。夏來留毎爾年々〻爾壯止幼止乎不言集來氐。此技乎教留賀故爾。愈〻其業乃廣良牟事乎思氐。此乃何々會乎興志。此大川乃流爾臨氐。玆爾其事乎開止爲氐。捧物奠氐。奉言祝留狀乎。平介久安介久聞食氐。自今後波。日爾異爾泳習布人々〻爾無障事久。教師事務員爾毛無過久。其技乃進行牟事波。立重浪乃志久志久爾。此會乃譽乃高良牟事波。目標爾立志旗乃彌高爾。

世爾廣久稱閉傳氐。名細支名乎萬代爾可掲久。守惠美幸給止。恐美恐美
毛白須。

短艇競爭開始

此は、世に艇爭の事を、學生その他の者の時々催ほせり。其の開始に際し、先づ神護に依りて、其の意を述ぶべし。

○大御代乃開行爾逢氐波（聖世の開化し行くに逢ふては）
○其處乃臨海止寄山止乎不言（場所の海邊と山間とを言はず）
○各自人草乃限波（各自人民のかぎりは）
○別浪遣舟乃術乎心得閉久（涙を別け舟を遣る術を心うるよう）
○常爾波我賀私乃事爾有便（常には私の上に便益あり）
○毎爾波私乃上爾便乎得（常は私の上に便宜を得）
○如此物事乃開行久世爾波（かやうに物事の開明進歩し行く世には）
○何處爾住者乃無別（何地に住む者も其の差別なく）
○總氐此國人乃限波（すべて此の國人のかぎりは）
○馴水扱舟事乎能須可久（水になれ舟を扱ふことを能くするよう）
○有事乃日爾波軍乃補止成氐（事ある日には軍の補助となりて）
○在軍氐波大留助乎成志（軍中の際は大きなる補助をなし）

○彼禮此禮爾有幸事奈禮波（彼れ此れに便宜あることなれば）
○共爾其幸乎得事奈禮波（共に其の便宜を得ることなれば）
○今波外國々到處爾（今は海外の國々到る處に）
○今波國止有留國悉久（今は國と有る國はことごとく）
○皆其事乎勵須乎以氐（皆其の事を勵ますを以つて）
○此事乎勵行奴波無賀故爾（此の事を勵まし行はざるは無きが故に）
○我國乃學校爾在氐毛（我が國の學校に在りても）
○悉久其乃學生爾教習世氐（悉くその學生に教へ習はせて）
○毎爾此乎習比勵世氐（常に此れを習ひはげませて）
○或波打開多留浦曲爾就支（或は打ち開けたる浦曲に就き）
○或波大川乃廣瀬乎撰比（あるは大川の廣き瀬をえらび）
○廣支河瀬乃流乎撰比（廣き河瀬の流れをえらび）
○浪打湛留湖爾臨美（涙うち湛ふる湖にのぞみ）
○艇取連禰旗打靡介氐（艇取つられ旗打なびけて）
○其旗乎異志艇乎連禰（其の旗を異にしふれを連れ）
○眞機繁貫支聲打合世（眞機をしげく貫き掛け聲を合せて）
○均久乘出人毎爾勇志久（均しく乘出し人みな勇しく）
○馳都後都勝負乎爭世乍（馳つ後れつ勝負を爭はせながら）
○進志毛取後禮後志毛又進美（進し者が取り後れ後し者が又進み）
○其業乎勵志習須乎以氐（其の業を勵まし習はすを以つて）
○今日此處爾（今日このところに）
○其事乎催止爲氐（其の事を催すと爲て）
○奉言祝留狀乎（言ほき申す狀を）
○平介久安介久聞食氐（解上にあり）
○行初與里爲果留爾至麻氐（行はじむるよりなしをふするまで）
○人々乃上爾禍事無久（人々の上にあしき事なく）

○分部異装志氐乘出須（部を分ち装を異にして乘り出す）
○其漕進布短艇乃早左波（その漕き進む短艇の早さは）
○負麻自勝麻志止爭布雄心波（負まじ勝たうと爭ふ心は）
○其勇支譽波（其のいさましき譽れは）
○著名乎彌遠爾可流久（著しき名をいよ〳〵遠く流すよう）

作例

舟馳乃事乎守給布神乃御前爾白左久。大御代乃開行爾逢氐波。其處乃臨海止寄山止乎不言。各自人草乃限波。別浪遣舟乃術乎心得閉久。常爾波我賀私乃事爾有便。有事乃日爾波軍乃補止成氐。彼禮此禮爾有幸事奈禮波。今波外國々く到處。皆其事乎勵須乎以氐。我國乃學校爾在氐毛。悉久學生爾教習世氐。或波打開多留浦曲爾就支。或波大川乃廣瀬乎撰比。艇取連禰旗打靡介氐。眞檝繁貫支聲打合。馳都後都勝負乎爭世乍。其業乎勵志習須乎以氐。今日此處爾其事乎催止爲氐。捧物奠氐奉言祝留狀乎。平介久安介久聞食氐。行初與里爲果留爾至麻氐。人々乃上爾禍事無久。分部異装志氐。乘出須學生乃上爾毛障事無久。其遭進布短艇乃早左波。千尋射渡須自矢毛早久。負麻自勝麻志止爭布雄心波。打流須汗乃自玉毛麗久。其勇支譽波。此水乃不盡賀如久。著名乎彌遠爾可流久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

○學生乃上爾毛障事無久（學生の上にも障ることなく）
○千尋射渡須自矢毛早久（千尋を射通す矢よりも早く）
○打流須汗乃自玉毛麗久（打流す汗の玉よりも麗しく）
○此水乃不盡賀如久（此の水の流れの盡きぬが如く）

道路開通

此は、世に道路を開作して、其の開通の式を擧くるに際し、遠く山川原野を通じたる長程の、壞崩陷損の災害なく、悠久に坦々如砥の良道たらむ事を願ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○公乃掟奈留乎以氐（公の御定なるを以つて）
○世爾住人乃便奈留賀故爾（世に住む人の便利なるが故に）
○先年與里其事乎起氐（先年より其の事を起して）
○往志何年與里事起氐（往し何年より其の事を起して）

○此道乎打開支（この道路を うち開き）
○今其業乎成遂志加波（今其の業を成しとげしかば）
○開道乃祝乎行乎以氐（開道の式を行ふを以つて）
○事爾預禮留人々（事に關係ある人々）
○特別氐其設乎調（特別にその設けを調へ）
○里長紳士等來賓乃限（村長紳士などの來賓の限り）
○其式乎擧止爲氐（其の式を擧行するとして）
○甚毛賑支久眞盛爾（甚も賑やかに眞盛に）
○平介久安介久聞食氐（解上にあり）
○作開志此道乃無破事久（開作せし道の破損することなく）
○掛渡世留橋乃無損久（掛渡したる橋の損ひなく）
○築上志堤乃緩美（築き上し堤のゆるみ）
○引通多留原野乃道乃窪美（引通したる原野の道のくぼみ）
○新爾此道乎開支（新に此の道路を開き）
○今日乃生日乃足日爾（解上にあり）
○遂爾其事乎成志加波（遂にその事を成就せしかば）
○夜晝止無久某設乎調（夜晝となく其の設けを調へ）
○縣郡乃司乎始氐（縣官郡吏の者を始として）
○男女爾至麻氐諸參集氐（男女に至るまで多數に參り集りて）
○如此麗志久眞盛爾（如此うるはしく眞盛に）
○奉言祝留狀乎（言ほき奉る狀を）
○今毛將來毛（解上にあり）
○此開志道乃無荒事久（此の開きし道の荒廢することなく）
○打渡世留橋乃無破事久（打渡せる橋の破損することなく）
○切下志坂路乃崩禮（切り下し坂道の崩れ）
○雨風乃障毛不令有志氐（雨や風の障も有らしめずして）

○世乃幸乎成事波（世の中の幸をなすことは）
○長久悠久有經牟事波（長く久しく有らんことは）
○缺留事無久絶留事無久（缺ることなく絶ゆることなく）
○此道乃幅乃自廣毛廣久（此の道巾の廣きよりも廣く）
○此道乃行手乃自長毛長久（此の道の行くての長きよりも長く）
○味道乃佳道止榮行可久（味し道の佳き道と榮えゆくよう）

作例

通路乃事乎守給布神乃御前爾白左久。公乃捉奈留乎以氐。往志何年與里事起氐。此道乎打開支。今其業乎成遂志加波。今日乃生日乃足日爾開道乃祝乎行乎以氐。事爾預禮留人々。夜晝止無久其設乎調縣郡乃司乎始氐。里長紳士等。來賓乃限。男女爾至麻氐。諸參集氐。其式乎擧止爲氐。御酒御饌乎奠氐。如此麗久眞盛爾奉言祝留狀乎。平介久安介久聞食氐。今毛將來毛。作開志此道乃無破事久。掛渡世留橋乃無損久。築上志堤乃緩美。切下志坂路乃崩禮。引通多留原野乃道乃窪美。雨風乃障毛不令有志氐。世爾幸乎成乎事波。此道乃幅乃自廣毛廣久。長久悠久有經牟事波。此

道乃行手乃自長毛長久。缺留事無久絶留事無久。味道乃佳道止榮行可久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

架橋式

此は、世に架橋の朽損して新設を企て、其の渡橋の式を擧ぐるに當り、該橋の堅牢にして容易に朽損する事なく、又此れを渡行する總ての者にも、過ち無らむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此谷川乃瀧都速湍波此の谷川の瀧つ速湍は
○事無日乃渡爾毛事なき日の渡りにも
○船遣竿差乃業船を遣り竿をさす業
○手安加良奴事奈留爾手やすからぬ事なるに
○其嵐進布朝霖雨須留夕波其の嵐すさぶ朝霖雨する夕は
○其霖雨乃續爾逢氐波其の霖雨のつゞくに逢ふては
○此大河乃渦巻久廣瀨波此の大河の渦まく廣瀨は
○常爾人々乃往來爾毛常に人々の往來にも
○船浮閉竿乎取事船を浮べ竿を取ること
○甚難支業奈留爾甚と難き業なるに
○其嵐乃發志時其の嵐の發りし時
○水漲里高浪乎卷氐水みなぎり高浪を卷きて

○人乃往來乎斷賀故爾人の往來を斷つが故に
○濁留水漲里白浪乎揚氐濁れる水みなぎり白浪を揚げて
○去頃與里玆爾橋乎架多留毛去し頃より玆に橋を架けたるも
○年月乃經久氐朽損志加波年月久しきを過ぎて朽損せしかば
○渡始乃式乎行事乎渡り始めの式を行ふことを
○往來爲留者旅行人往來する者旅行する人
○或波牛馬乃負物氐過毛あるは牛馬の物を負うてすぐるも
○或波馳車氐渡留貴人あるは車をはせて渡る貴人
○何爾吳止不言渡行止毛何や彼やと言はず渡り行くとも
○安久平爾令有給氐安く平に有らしめ給ひて
○打込志橋杭乃自長毛長久打込し橋杭の自ひの長きよりも長く
○此乃橋乃不朽留事波此の橋の朽ちざることは
○穿平志々橋詰乃自岩久留穿ちならし橋詰の岩よりも久に
○昔與里高橋乎架有志爾昔より高橋を架けありしに
○經年儘爾朽損志加波年するまゝに朽損せしかば
○今度其乎改造志乎以氐此の度それを改造せしを以つて
○今日乃生日乃足日爾解上にあり
○自今將來解上にあり
○或波物負氐過留牛馬あるは物を負うて過ぐる牛馬
○或波客人乎乘氐馳行車あるは客人を乘せて馳せゆく車
○耆老者幼兒等止老いたる者又幼なき兒共らと
○異事無久過事無久異しきことなく誤ることなく
○此橋乃保多禮牟事波此の橋の保たれむことは
○打渡多留橋桁乃自長毛長久打渡したる橋げたの長きよりも長く
○積上橋詰乃自石毛久爾積み上し橋詰の石よりも久に
○不動不傾志氐動かすかたむかずして

○彌遠爾何保行久（彌々遠く保ち行くよう）

作例

架橋乃事乎守給布神乃御前爾白左久。此谷川乃瀧都速湍波。事無日乃渡爾毛。船遣里竿差乃業。手安良加奴事奈留爾。其嵐進布朝霖雨須留夕波。水漲里高浪乎卷氐。人乃往來乎斷賀故爾。昔與里高橋乎架有志爾。經年儘爾朽損志加波。今度其乎改造志乎以氐。種々乃物奠氐。今日乃生日乃足日爾。渡始乃式乎行事乎。平介久安介久聞食氐。自今將來往來爲留者旅行人。或波物負氐過留牛馬。或波客人乎乘氐馳行車。耆老者幼兒等止。何爾吳止不言渡行止毛。異事無久過事無久。安久平爾令有給氐。此橋乃保多禮牟事波。打込志橋杭乃自長毛長久。此乃橋乃不朽留事波。積上志橋誥乃自石毛久爾。不動不傾志氐。彌遠長爾可保行久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

鐵道開通

此は、世に鐵道開通して、其の式の擧行に際し、行通の便、搬出の利の大なるを祝すると共に、山峽の墜道、谿間の鐵橋、其の他總ての線路安全にして、將來ますく隆盛ならむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○年久爾待詑氐有志（年久しく待わびて有りし）
○鐵敷久長路乃車（鐵道を敷き長路を驅する列車）
○往來開通氐（往來の開通して）
○山乎越海乎渡志（山を越え海を わたりし）
○遙留都爾毛手安行至里（遠き都にも手安く行き至り）
○越無支惠奈留耳爾非須（こよ無き惠なるばかりに非らず）
○處々爾生出留物（處々になり出づる物）
○積毛出志送毛來氐（つみても出し送りても來て）
○諸人乃思比賴氐待志（諸人の思ひたのみて待ちし）
○自此里何處爾及布（此の處より何々の處に及ぶ）
○此里乎經氐何處爾至留（此の里を經て何々の處に至る）
○困難毛不見（困難も見ず）
○遠里爾毛束乃間爾至禮留波（遠き里にも束の間に至れるは）
○又無支便奈留耳爾非須（又無き便利なるばかりに非らず）
○作出須種々乃品乎（作り出す種々の品を）
○萬物乃扱比思儘奈禮波（萬物の扱ひ思ふまゝなれば）

○世爾其乃幸福乎得事 世に其の幸福を得ること
○鄙止不言都止不言 鄙といはず都といはず
○大御代乃榮乎計里 大みよの榮えを計り
○人草乃上乎毛令足牟止 人民の上をも足ら令めむと
○心乎碎支思乎焦氐 心を碎き思ひて焦がして
○今日其乃開通乃式乎 今日其のみちひらきの式を
○此乃山乎鑿氐留道隧乃 此の山をうがてるトンネルの
○壑爾渡世留掛橋毛 谷にわたしたる掛橋も
○地乃下遠久馳行道 地の下を遠くはせ行くみち
○夜晝止不言往交車波 夜る晝ると言はず往きちがふ車は
○其年々爾榮牟事波 其の年々に榮えむ事は
○其業乃限無牟事波 其の業の限りなからむことは
○遠久悠久令立榮給止 遠く久しく立ち榮えしめ給へと
○多大奈留乎以氐 多大なるを以つて
○國乎富志民乎惠美 國をとまし民を惠ぐみ
○世毛榮人毛利得氐 世も榮え人も利益をえて
○事取禮留人々諸 關係の人々もろ〳〵
○勵美勤志成績爾依氐 勵み勤みし成績に依りて
○擧乎以氐 擧行するを以つて
○崩留時無久 崩るゝ時なく
○朽留事無久 朽ちることなく
○闇谷乃上爾渡世留橋 くら谷の上に渡したる橋
○安久平介久 解上にあり
○焚上留車乃自煙毛繁久 焚き上ぐる車の煙よりも繁く
○築立志長道乃彌遠爾 築き立てし長道のいよ〳〵遠く

作例

此鐵道乃事乎守給布神乃御前爾白左久。年久爾待詫氐有志。鐵敷久長趣乃車。自此里何處及乃往來開通氐。山乎越河乎渡志困難毛不見爾遠里爾毛束乃間爾至禮留波。越無支惠奈留耳爾非須。處々爾生出留物。作出須種々乃品乎。積毛出志送毛來氐。萬物乃扱比思儘奈禮波。世爾其乃幸福乎得留事多大奈留乎以氐。大御代乃榮乎計里。人草乃上乎毛令足牟止。事取禮留人々諸。心乎碎支思乎焦氐。勵美勤志成績爾依氐。今日其乃開通乃式乎擧乎以氐。此乃山乎鑿氐留隧道乃崩留時無久。壑爾渡世留掛橋毛朽留事無久。夜晝止不言往交車波安久平介久。其乃年々爾榮行牟事波。焚上留車乃自煙毛繁久。其乃業乃限無牟事波。築立志長道乃彌遠爾。遠久悠久令立榮給止。恐美恐美毛白須。

水道竣功

此は、世の都會たる市町、其の他に水道工事を施し、其の竣成の式を擧くるに當り、該事業は、實に社會衛生の事に與ふる恵の大なるを祝ふと共に、益々世の幸福を呈せむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○此世爾住人草乃（此の世上の人民の）
○汲氐用留水奈留爾（くみて用ゐる水なるに）
○悪病爾染（あしき病にしみ）
○人草乃世爾住牟上爾（人民の世に住む上に）
○毎爾用留水奈留爾（恒にもちゐる水なるに）
○悪病乎發須災乃本奈禮波（悪病を發す災の本なれば）
○水取乃術乎授坐氐與里（水とりの術を授け座してより）
○御恵乎受留事奈禮止（御恵を受くることなれど）
○一日毛無氐波得有奴者波（一日も無くてならぬ者は）
○其水乃清止否止爾依氐波（其の水の清きと否ぬとに依りては）
○殞身布事乃多奈禮波（身を害することの多ければ）
○片時毛無氐波協奴者波（片時も無くてならぬ者は）
○其水乃澄留止濁有止爾依氐波（其の水の澄むと濁るとに依りては）
○神代乃昔天神乃（神代の昔に天つ神の）
○世波皆眞清水爾潤布（世はみな眞清水にうるほふ）
○普久眞清水乎汲氐（普く眞清水をくみて）

○世波其惠爾潤布事奈禮止（世は其の恵にうるほふことなれど）
○或波濁差事乃多志氐（あるは濁のさすこと多くして）
○深久可厭處毛有禮波（深く厭ふ可き處も有れば）
○二里三里乎隔多留（二里三里をへだてゝある）
○山川乃清瀨乎（山川のきよき瀨を）
○谷川乃瀧津早瀨乃（谷川の瀧つ早瀨を）
○此何々内乃限里悉久（此の市又町の内に悉く）
○無隈久配家々爾分氐（隈なく配り家々に分ちて）
○涸時無久足奴事無久（涸るゝ時なく足らぬことなく）
○普久平介久（あまねく平らけく）
○與留事止成志賀故爾（與ふる事となりしが故に）
○擧止爲氐△（擧行すると爲て）
○平介久安介久聞食氐（解上に）
○所止爲波濁差氐（所と爲てはにごり差して）
○甚止可厭者毛有事奈禮止（はなはだ厭ふ可き者もあることなれど）
○此度何々乃催乎以氐（此の度何々の催を以つて）
○其乃隔里毛遠禮止（其のへだゝりも遠けれど）
○下樋爾引來氐（下樋にひき來て）
○下樋爾取來氐（下樋にと り來て）
○毎家爾配里無隈分氐（毎家にくばり隈なく分ちて）
○不足事無久盡事無久（足ぬことなく盡ることなく）
○眞澄乃水乃清支水乎（眞すみの水の清き水を）
○味水乃眞清水乎（うまし水の眞清水を）
○今日其事始乃式乎（今日其の事始の式を）
○奉言祝留狀乎（言ほぎ申す狀を）
○自今將來（解上に）